

日本スポーツ少年団「第9次育成5か年計画」

中・高校生の活動継続等調査

報告書



2015年3月

公益財団法人日本体育協会 日本スポーツ少年団

目次

1. はじめに（調査の概要）	4
(1) 調査の目的	4
(2) 調査対象	4
(3) 調査方法	4
(4) 調査内容	4
(5) 調査期間	4
2. 要約	5
3. 調査結果	7
問 1 回答団情報	7
問 2 単位団の活動形態	7
(1)主な活動種目	7
(2)活動日数	8
(3)年間大会参加数	8
(4)指導者数	8
問 3 団の指導者の保有資格と人数	9
(1)認定員	9
(2)認定育成員	9
(3)公認スポーツ指導者	9
(4)その他の資格	10
(5)資格なし指導者	10
問 4 団の団員構成	11
(1)小学生未満	11
(2)小学生～社会人	11
問 4-1 学校運動部活動に所属している人数	12
(1)中学生	12
(2)高校生	12
問 4-2 団に中学生または高校生が参加している理由	12
問 4-3 団において中・高校生の参加に期待していること	14
問 5 スポーツ少年団行事の認知度について	15
問 6 ジュニア・リーダー、シニア・リーダーの育成について	15
問 6-1 ジュニア・リーダー、シニア・リーダーの人数について	16
問 6-2 市区町村リーダー会に所属しているリーダーの数について	16
問 6-3 都道府県リーダー会に所属しているリーダーの人数について	17
問 6-4 リーダーの日常の活動と指導者の接し方について	17
問 6-5 リーダー活動の内容について	18

問 7	リーダーを育成していない理由について	・・・	19
問 8	小学生へのアプローチ（広報活動）について	・・・	20
問 9	小学校卒業後もスポーツ少年団活動を継続してもらうための内容について	・・・	21
問 10	中・高校生のスポーツ少年団活動継続の課題について	・・・	22
問 11	中・高校生団員が参加可能な都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会について	・・・	22
問 11-1	中・高校生の大会への参加状況について	・・・	22
問 11-2	中・高校生の大会の必要性について	・・・	23
問 12	中・高校生団員が参加可能な所属都道府県や市区町村以外のスポーツ少年団主催の大会について	・・・	23
問 12-1	中・高校生の大会への参加状況について	・・・	23
問 12-2	中・高校生の大会の必要性について	・・・	24
問 13	中・高校生団員が参加可能な地域交流行事について	・・・	24
問 13-1	中・高校生の地域交流行事への参加状況について	・・・	24
問 13-2	中・高校生の地域交流行事の必要性について	・・・	25
問 14	学校との連携について	・・・	25
問 15	学校の理解度について	・・・	26
問 15-1	学校の理解を得るために工夫していることについて	・・・	26
問 16	学校との連携における課題について	・・・	26
問 17	保護者との連携について	・・・	27
問 18	保護者への理解や説明を求める機会について	・・・	28
問 18-1	保護者の理解を得るための工夫について	・・・	28
問 19	保護者との連携における課題について	・・・	28
問 20	地域団体との関係について	・・・	28
問 20-1	具体的な支援策について	・・・	28
問 21	中体連や高体連の支援について	・・・	29
問 21-1	具体的な支援策について	・・・	29
問 22	中・高校生団員が単位団の活動と学校運動部活動を兼ねる場合の課題について	・・・	29
問 23	地域活動への参加状況について	・・・	30
問 23-1	地域活動の内容について	・・・	30
問 24	中・高校生がスポーツ少年団活動をしていくために、地域団体とどのような連携や協力が必要だと考えるかについて	・・・	30
4. 自由回答一覧		・・・	31
問 10	中・高校生のスポーツ少年団活動継続の課題について	・・・	31

問 11	中・高校生団員が参加可能な都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会について	・・・	36
問 12	中・高校生団員が参加可能な所属都道府県や市区町村以外のスポーツ少年団主催の大会について	・・・	39
問 13	中・高校生団員が参加可能な地域交流行事について	・・・	40
問 15-1	学校の理解を得るために工夫していることについて	・・・	41
問 16	学校との連携における課題について	・・・	45
問 18-1	保護者の理解を得るための工夫について	・・・	49
問 19	保護者との連携における課題について	・・・	53
問 20-1	具体的な支援策について	・・・	55
問 22	中・高校生団員が単位団の活動と学校運動部活動を兼ねる場合の課題について	・・・	57
問 23-1	地域活動の内容について	・・・	62
問 24	中・高校生がスポーツ少年団活動をしていくために、地域団体とどのような連携や協力が必要だと考えるかについて	・・・	65
5.	まとめ	・・・	73
6.	調査票	・・・	74

1.はじめに（調査の概要）

(1) 調査の目的

スポーツ少年団団員の約9割を小学生が占めているが、中・高校生では、登録数が僅かであるとともに、加入率についても著しく低い状況である。

このような課題を改善すべく、スポーツ少年団は地域社会の中でさまざまな子どもたちにスポーツ活動の機会を提供できる青少年スポーツ団体であり、中・高校生であってもスポーツ少年団活動が可能であることを周知する必要がある。中・高校生の活動継続の促進に有効な事例を収集し、中・高校生のスポーツ少年団活動継続の一助となる情報提供を行うために、本調査を実施する。

(2) 調査対象

平成25年度登録において、中学生以上の団員が15名以上登録し且つ小学生団員も登録している単位スポーツ少年団1,047団

回答数：407団（38.9%）

(3) 調査方法

郵送配布、郵送回収

(4) 調査内容

- 1.活動状況
- 2.リーダー育成に関する状況
- 3.団員加入に関するアプローチ(広報活動)
- 4.中・高校生団員の活動状況
- 5.学校との連携
- 6.保護者との連携
- 7.地域団体との関係

(5) 調査期間

平成25年（2013年）2月～平成26年(2014年)5月

2.要約

①団の団員構成

中学生については、「11～20人(所属している)」(47.3%)が最も多く、次いで「21～30人」(22.9%)となっている。高校生については、「1～10人」(82.7%)が最も多く、次いで「11～20人」(15.3%)となった(ともに図表 1-4-2 P11)。

②団に中学生または高校生が参加している理由

参加理由については、「小学校卒業以降もスポーツ活動を継続するため」(77.1%)が最も多く、次いで、「学校運動部としてスポーツ少年団に登録しているため」(18.7%)、「ジュニア・リーダーやシニア・リーダーとして活動していくため」(17.2%)となった。(図表 1-4-5 P12)

③指導者が団において中・高校生の参加に期待していること

中・高校生の参加に期待していることについては、「将来指導者として活躍して欲しい」(69.8%)が最も多く、次いで、「中・高校生の参加により、単位団の活動範囲が今よりも広がって欲しい」(57.5%)、「中・高校生にもスポーツ少年団活動の理念が広がって欲しい」(54.3%)となった。(図表 1-4-6 P14)

④スポーツ少年団行事の認知度について

中・高校生が参加できる事業を「知っている」と回答した割合は全体の 53.8%に及んだが、「参加したこと」があると回答した割合は 17.5%となった。さらにブロックや全国規模の大会となると 13.3%にまで低下した。(図表 1-5 P15)

⑤ジュニア・リーダー、シニア・リーダーの育成について

団にジュニア・リーダーまたはシニア・リーダーがいるか問う設問については、「1.はい」が 20.9%(407 団中 85 団)と回答し、「2.いいえ」が 79.1%となった。(図表 2-1 P15)。

⑥リーダーを育成していない理由について

(リーダーを育成していないと回答した 322 団のみ回答、複数回答)

「スポーツ少年団での活動は練習活動のみであるため」(60.9%)と最も多く、次いで「指導者が忙しく、リーダー育成にまで手が回らないため」(35.1%)、「リーダー活動よりも日常の練習活動が重要なため」(25.2%)となった(図表 2-7 P19)。

⑦小学校卒業後のスポーツ少年団活動継続について

「1.いつも行っている」「2.時々行っている」と回答された活動内容については、「小学生団員と中学生団員との合同練習の機会」(84.5%)が最も多く、次いで「単位団関係者の知人・友人への口コミによる勧誘」(66.8%)となった。また、活動継続に関する課題としては学業や部活動との両立が回答の多数を占めた。(図表 3-2 P21)、(問 10 P31)。

⑧中・高校生の活動環境について

都道府県、市区町村スポーツ少年団主催の大会があると回答した団が全体の 66.8%を占め、そのうちの約 9 割が「大会に参加したことがある」「大会は必要である」と回答した。

(図表 4-1 P22)、(図表 4-2 P22)、(図表 4-3 P23)

⑨学校との連携について

団員が通う市区町村の学校と連携を行っているかについては、「スポーツ少年団指導者と学校運動部活動顧問との連絡調整」(44.7%)と回答した割合が最も多かった。また、学校の理解を得るための工夫としては、連携を密にし、情報交換・交流を行う機会を多く設けるという回答が多数であった。一方、学校との連携の課題については、情報交換の場が設定できない、学校側の理解が得られない、スポーツ少年団からの PR 不足などが挙げられた。(図表 5-1 P25)、(問 15-1 P41) (問 16 P45)

⑩保護者との連携について

保護者とどのような連携を行っているかについては、「育成母集団(保護者会・育成会等)という組織を作っている」(65.6%)と回答した割合が最も多かった。また、保護者の理解を得るための工夫としては、理解を得るための説明をする機会を設けることや保護者の団活動への参加を積極的に促すという回答が多数であった。一方、課題としては、保護者の理解や協力が得にくい状況であることが挙げられた。(図表 6-1 P27)、(問 18-1 P49)、(問 19 P53)。

⑪地域団体との関係について

市区町村や都道府県の競技団体からの支援があるかについては、「1.支援がある」が全体の 32.5%となり、具体的な支援策としては、施設利用での優遇、助成金等が挙げられた。また、中体連や高体連からの支援があるかについては、全体の 8.0%に留まった。(図表 7-1 P28)、(図表 7-2 P29)

3.調査結果

<問 1> 回答団情報

本調査における回答団所属都道府県については以下の通りとなった。

No.	県名	団数	No.	県名	団数
1	北海道	20	25	滋賀県	5
2	青森県	1	26	京都府	7
3	岩手県	18	27	大阪府	4
4	宮城県	21	28	兵庫県	4
5	秋田県	5	29	奈良県	0
6	山形県	14	30	和歌山県	6
7	福島県	17	31	鳥取県	0
8	茨城県	21	32	島根県	1
9	栃木県	12	33	岡山県	13
10	群馬県	15	34	広島県	20
11	埼玉県	32	35	山口県	5
12	千葉県	5	36	香川県	2
13	東京都	13	37	徳島県	1
14	神奈川県	6	38	愛媛県	4
15	山梨県	10	39	高知県	0
16	長野県	15	40	福岡県	5
17	新潟県	11	41	佐賀県	0
18	富山県	5	42	長崎県	1
19	石川県	3	43	熊本県	2
20	福井県	6	44	大分県	6
21	静岡県	24	45	宮崎県	4
22	愛知県	18	46	鹿児島県	4
23	三重県	8	47	沖縄県	6
24	岐阜県	7		計	407

図表 1-1 回答単位団所属都道府県一覧

<問 2>(1) 主な活動種目

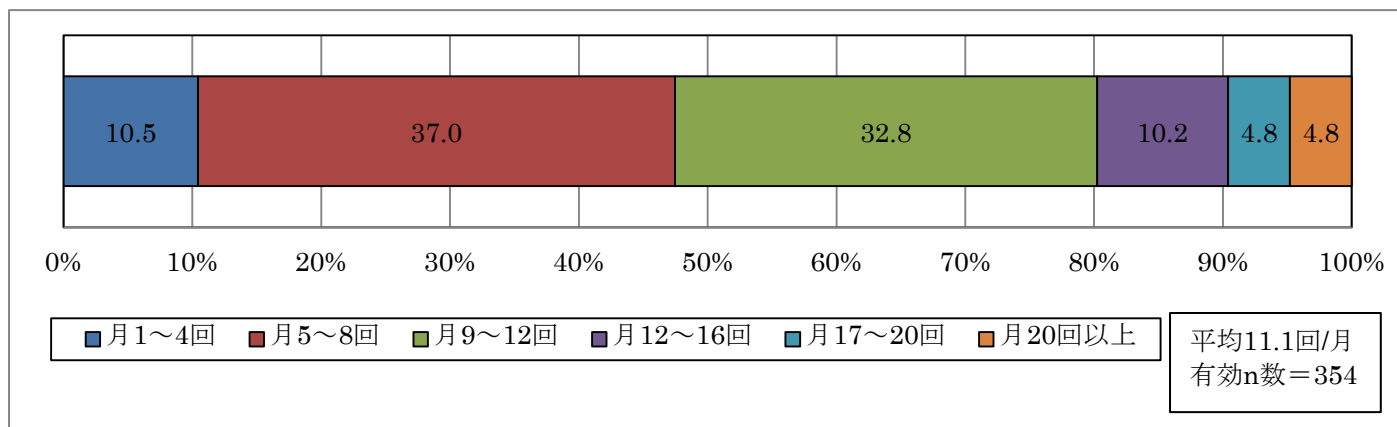
本調査における回答単位団の活動種目については以下の通りとなった。 ※団数 (%)

競技名	主活動	副活動
剣道	104 (25.6)	1
サッカー	33 (8.1)	4
ソフトテニス	31 (7.6)	1
柔道	28 (6.9)	1
軟式野球	26 (6.4)	3
卓球	26 (6.4)	
空手道	26 (6.4)	2
バドミントン	20 (4.9)	1
バスケットボール	18 (4.4)	3
バレーボール	15 (3.7)	1
陸上競技	13 (3.2)	1
複合種目	7 (1.7)	1
水泳	6 (1.5)	
少林寺拳法	6 (1.5)	
ソフトボール	5 (1.2)	1
ラグビー	4 (1.0)	
合気道	3 (0.7)	
硬式野球	3 (0.7)	
弓道	3 (0.7)	
硬式テニス	3 (0.7)	
野外活動	2 (0.5)	6
新体操	2 (0.5)	
ミニバスケットボール	2 (0.5)	6
なぎなた	2 (0.5)	
馬術	1 (0.2)	
水球	1 (0.2)	
ホッケー	1 (0.2)	
フィギュアスケート	1 (0.2)	
ハンドボール	1 (0.2)	
スピードスケート	1 (0.2)	
カーリング	1 (0.2)	
アーチェリー	1 (0.2)	
体操		1
相撲		1
リーダー会		2
その他	12 (2.9)	8

図表 1-2-1 回答単位団活動種目一覧

(2) 活動日数

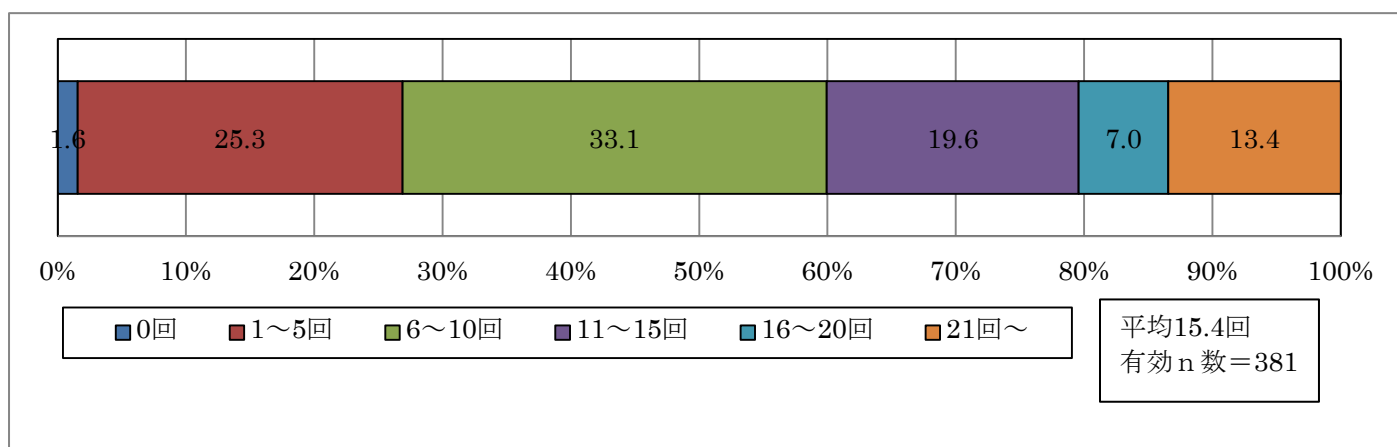
活動日数については、「月5～8回（週2回程度）」が37.0%を占め、平均では1ヶ月あたり11.1回となった（図表1-2-2）。次いで、「月9～12回（週3回程度）」が32.8%、「月1～4回（週1回程度）」が10.5%となった。



図表 1-2-2 活動日数

(3) 年間大会参加数

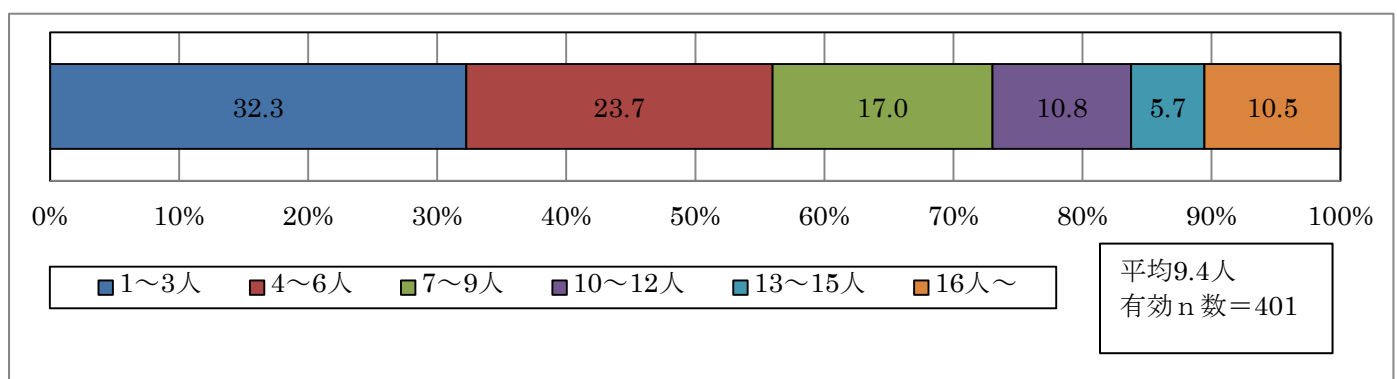
年間大会参加数については、年間「6～10回」が33.1%を占め、平均は15.4回となった（図表1-2-3）。次いで年間「1～5回」が25.3%、年間「11～15回」が19.6%となった。



図表 1-2-3 年間大会参加数

(4) 指導者数

指導者数については、「1～3人」が32.3%を占め、平均は9.4人となった（図表1-2-4）。次いで「4～6人」が23.7%、「7～9人」が17.0%となった。

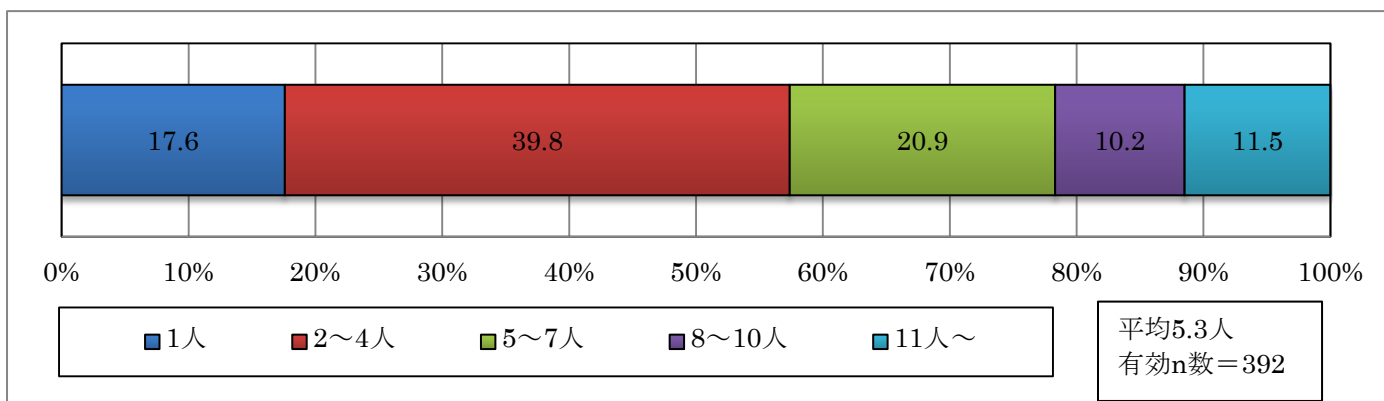


図表 1-2-4 指導者数

問3 団の指導者の保有資格と人数 (複数回答)

(1) 認定員

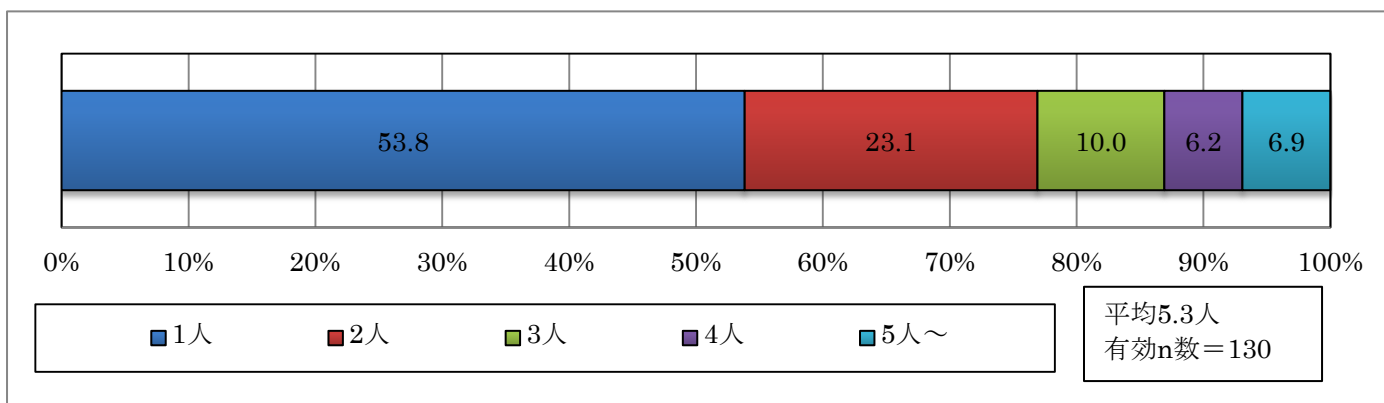
認定員資格については、392 団(96.3%)が保有していると回答した。そのうち「2~4 人」と回答した団が 39.8%を占め、平均は 5.3 人となった(図表 1-3-1)。次いで「5~7 人」が 20.9%、「1 人」が 17.8%となった。



図表 1-3-1 認定員数

(2) 認定育成員

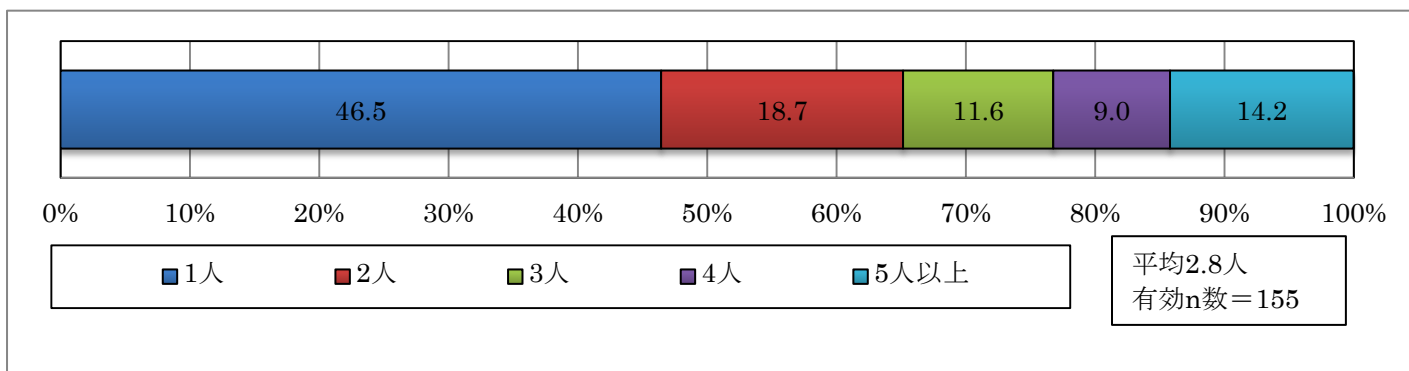
認定育成員資格については、130 団(31.9%)が保有していると回答した。そのうち「1 人」と回答した団が 53.8%を占め、平均は 5.3 人となった(図表 1-3-2)。次いで「2 人」が 23.1%、「3 人」が 10.0%となった。



図表 1-3-2 認定育成員数

(3) 公認スポーツ指導者数

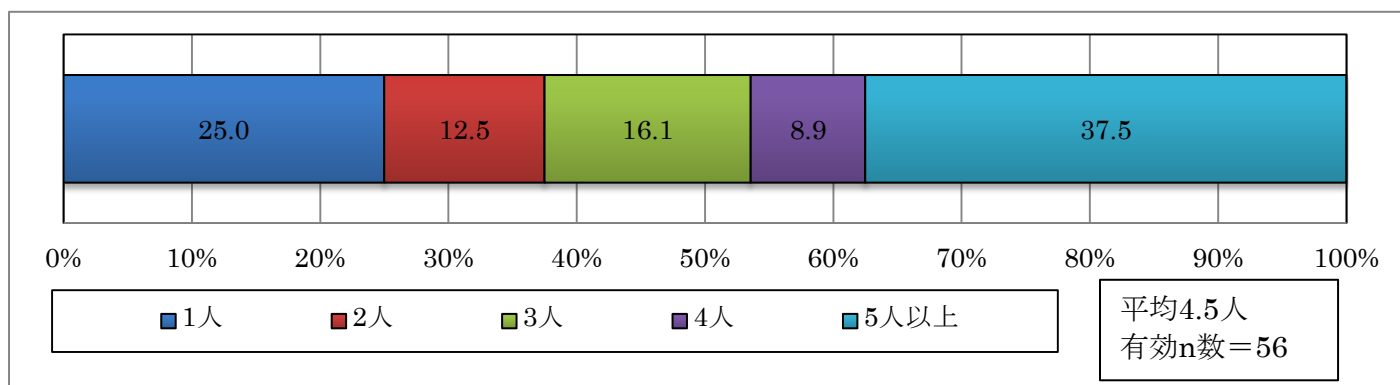
公認スポーツ指導者資格については、155 団(38.1%)が保有していると回答した。そのうち「1 人」と回答した団が 46.5%を占め、平均は 2.8 人となった(図表 1-3-3)。次いで「2 人」が 18.7%、「5 人以上」が 14.2%となった。



図表 1-3-3 公認スポーツ指導者数

(4) その他の資格

その他の資格については、56 団(13.8%)が保有していると回答した。そのうち「1 人」と回答した団が 25.0% を占め、平均は 4.5 人となった (図表 1-3-4)。次いで「5 人以上」が 37.5%、「3 人」が 16.1%となった。



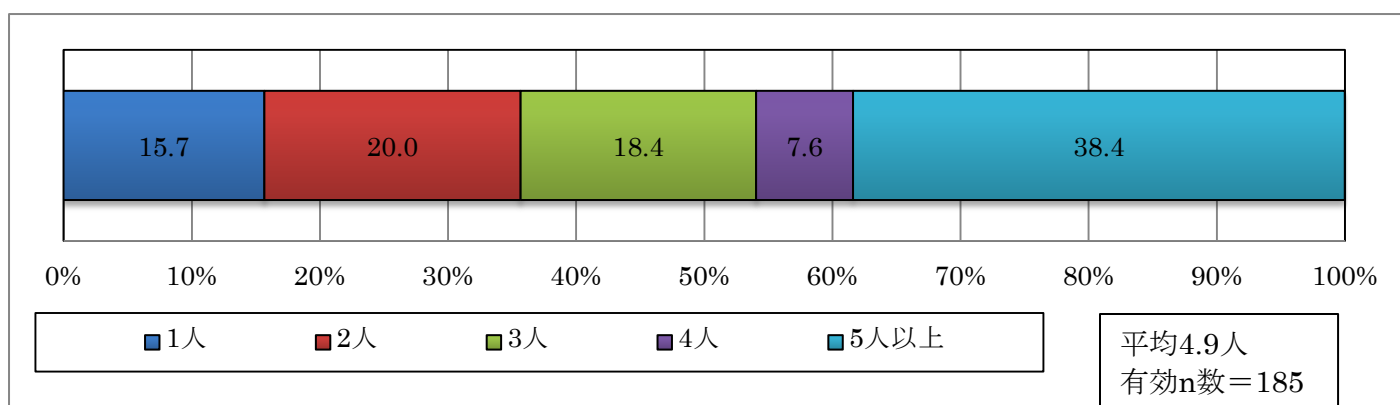
図表 1-3-4 その他の資格保有者数

回答のあった資格名については、以下の通りとなった。

- | | | |
|----------------------|-------------------|---------------------|
| ・ J B A C O A C H | ・ 弓道四段以上 | ・ 審判ライセンス C |
| ・ J B A E 2 | ・ 空手道指導員 | ・ 全国小学生バレーボール指導者認定員 |
| ・ クラブマネージャー | ・ 剣道教士 | ・ 全日本スキー指導員 |
| ・ サッカー 4 級審判 | ・ 公益社団法人日本空手協会指導員 | ・ 全日本剣道連盟有段者 |
| ・ サッカー C 級コーチ | ・ 公認柔道指導者 | ・ 卓球公認審判員 |
| ・ レクリエーション・コーディネーター | ・ 公認柔道指導者指導員 | ・ 中学校教員免許 |
| ・ サッカー指導員 C 級等 | ・ 公認審判員 | ・ 小学校教員免許 |
| ・ シニア・リーダー | ・ 国際公認 2 級審判資格 | ・ 日本サッカー協会 コーチ |
| ・ スキー指導員 | ・ 社会体育公認指導員 | ・ 日本サッカー協会 D 級コーチ |
| ・ スポーツドクター | ・ 社会体育指導員 (剣道) | ・ 日本サッカー協会指導者 |
| ・ ソフトテニス一級審判員 | ・ 体力テスト判定員 | ・ 日本ラグビー協会スタートコーチ |
| ・ チア指導者資格 | ・ アシスタントマネージャー | ・ 日本小学生バレーボール |
| ・ バasketボール公認コーチ D 級 | ・ 少年スポーツ指導員 | ・ 日本陸上競技連盟公認審判員 |
| ・ バドミントン審判員 | ・ 上級指導員 | ・ 福島県ソフトテニス連盟 |
| ・ 会派指導員資格 (空手道) | ・ 体力測定員 | ・ 理学療法士 |

(5) 資格なし指導者

資格なし指導者については、185 団(45.5%)が登録していると回答した。そのうち「2 人」と回答した団が 20.0% を占め、平均は 4.9 人となった (図表 1-3-5)。次いで「5 人以上」が 38.4%、「3 人」が 18.4%となった。

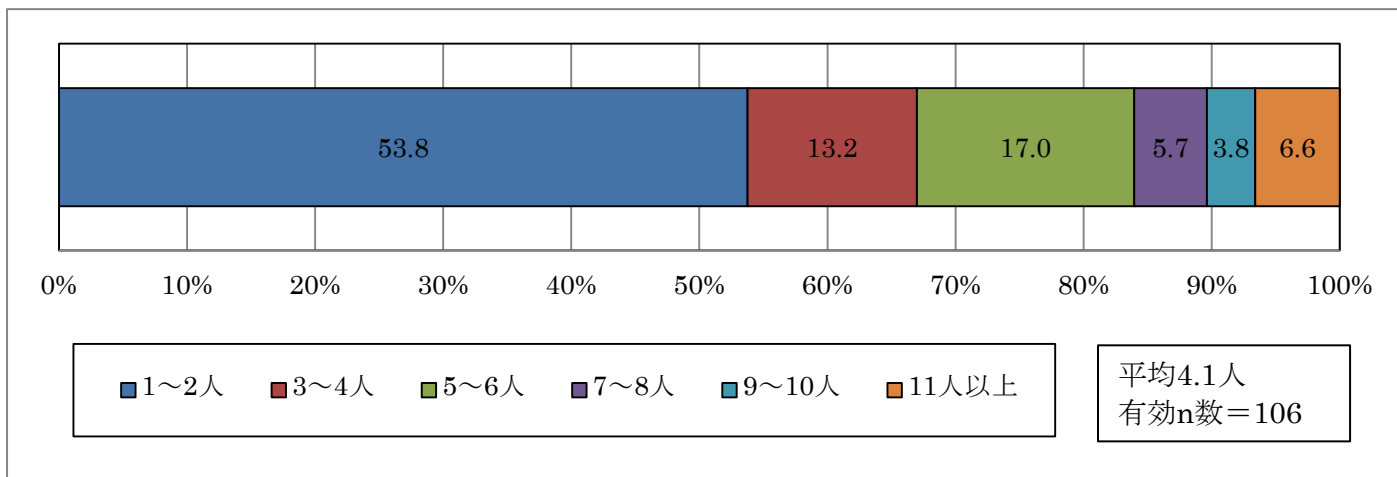


図表 1-3-5 資格なし指導者数

問4 団の団員構成

(1) 小学生未満

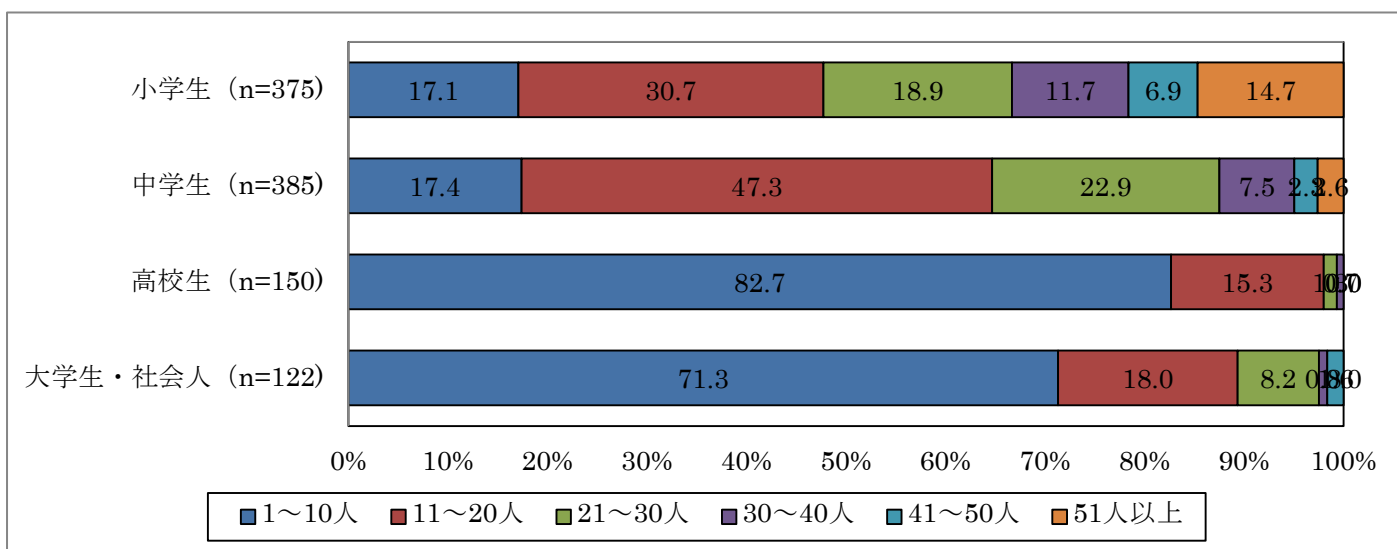
小学生未満については、106 団(26.0%)が活動していると回答した。そのうち「1～2 人」と回答した団が 53.8% を占め、平均は 4.1 人となった（図表 1-4-1）。次いで「5～6 人以上」が 17.0%、「3～4 人」が 13.2%となった。



図表 1-4-1 小学生未満の団員構成

(2) 小学生～社会人

小学生から社会人までの構成については以下の通りとなった（図表 1-4-2）。そのうち中学生については、「11 人～20 人」が 47.3% を占め平均 19.5 人となった。高校生については「1～10 人」が 82.7% を占め、平均 6.5 人となった。

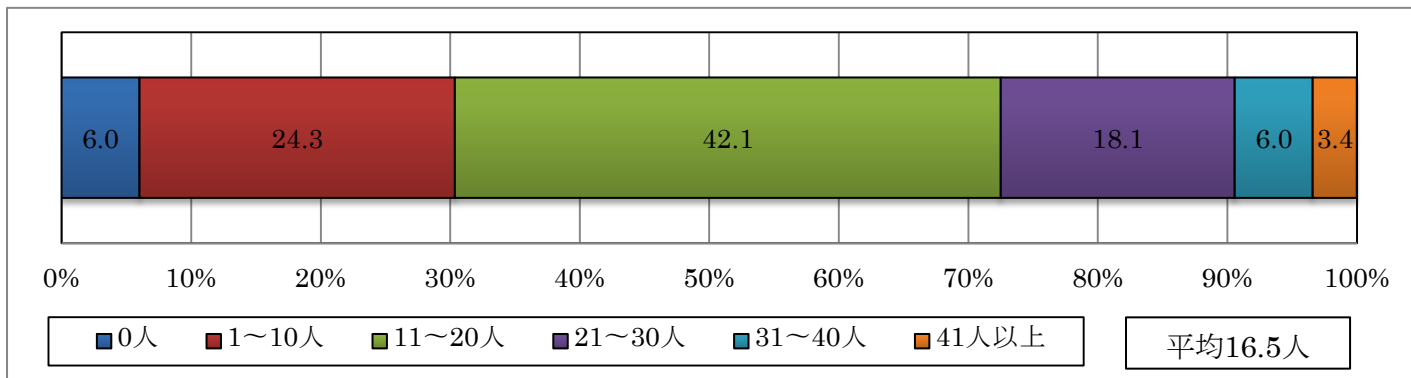


図表 1-4-2 小学生～社会人の団員構成

問 4-1 学校運動部活動に所属している人数(問 4 の設問において中・高校生がいると回答した団のみが回答)

(1) 中学生

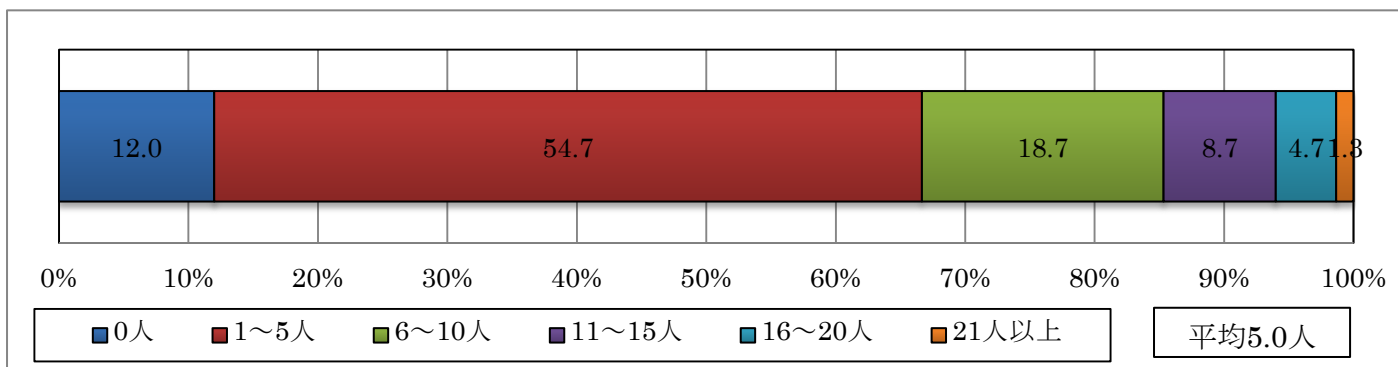
中学生については、「11~20 人」が 42.1%を占め、平均 16.5 人となった(図表 1-4-3)。次いで「1~10 人」は 24.3%、「21~30 人」が 18.1%となった。



図表 1-4-3 学校運動部活動に所属している中学生の割合

(2) 高校生

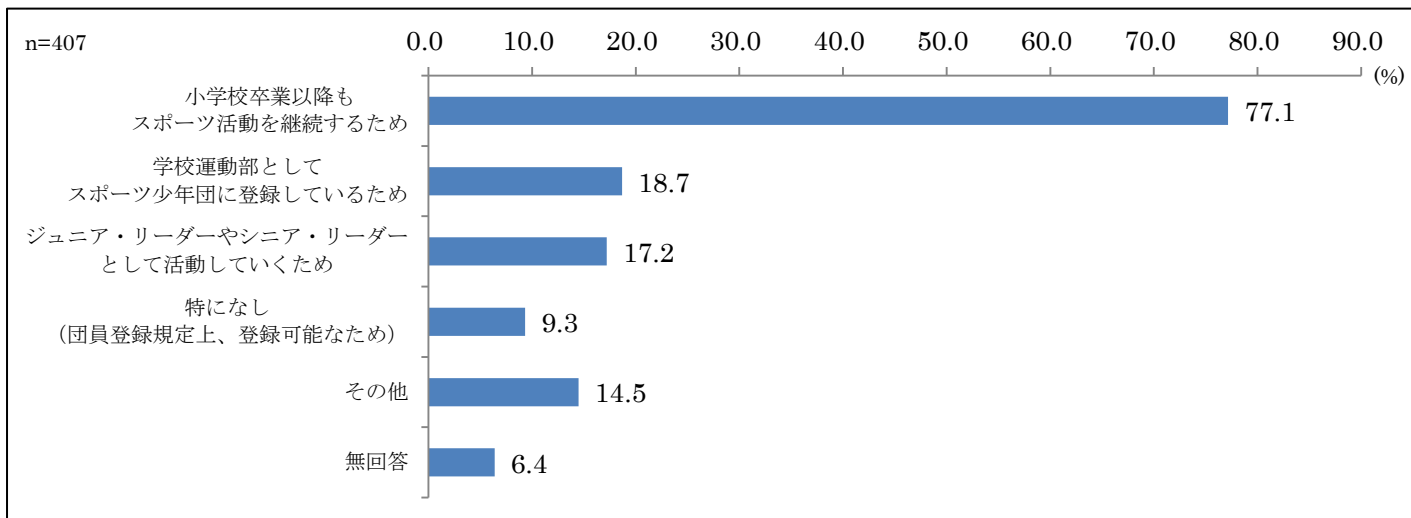
高校生については、「1~5 人」が 54.7%を占め、平均 5.0 人となった(図表 1-4-4)。次いで「6~10 人」は 18.7%、「0 人」が 12.0%となった。



図表 1-4-4 学校運動部活動に所属している高校生の割合

問 4-2 団に中学生または高校生が参加している理由 (複数回答)

団に中学生または高校生が参加している理由については、「小学校卒業以降もスポーツ活動を継続するため」が 77.1%を占めた(図表 1-4-5)。次いで、「学校運動部としてスポーツ少年団に登録しているため」が 18.7%、「ジュニア・リーダーやシニア・リーダーとして活動していくため」が 17.2%となった。



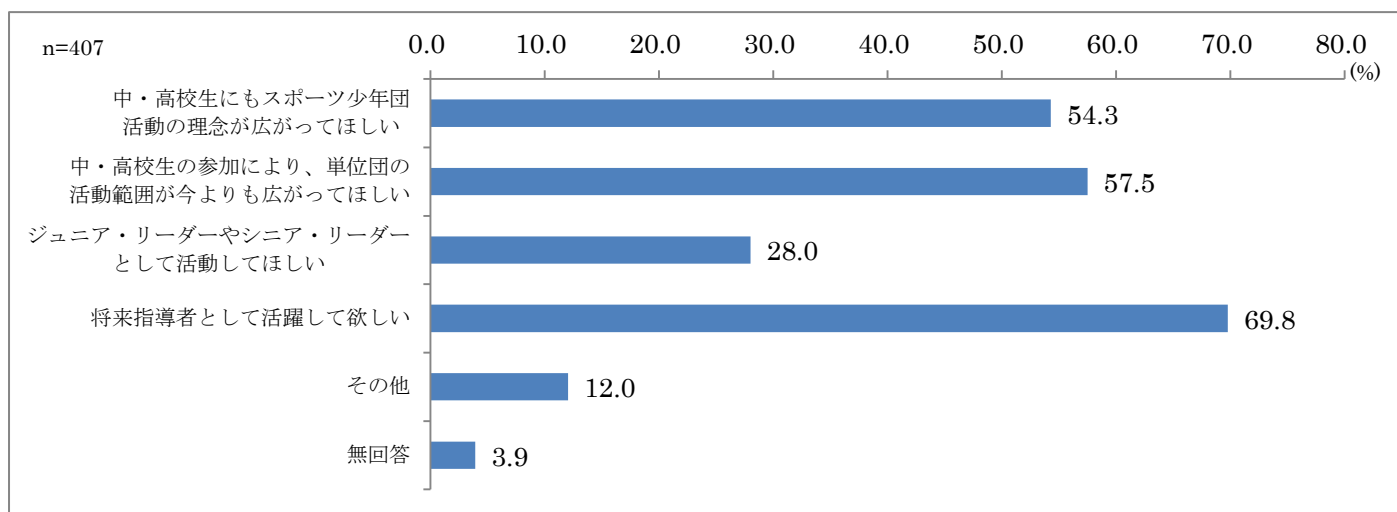
図表 1-4-5 団に中学生または高校生が参加している理由

問 4-2 のその他の回答については、以下の通りとなった。

- ・①中学校の野球部活動だけでは物足りないため。②野球部が無い中学校の生徒が野球をやりたい（高校へ行っても）ため。
- ・カーリングはジュニアが21才までなので選手として活動を続けている。
- ・スポ少の大会に参加するため。
- ・ラグビーが部活にないため。
- ・運動以外の人間形成の道の理念が含まれているため。
- ・運動部の活動時間が短いため。
- ・学校に希望する運動部が無いため。
- ・学校運動部活動の補完として参加。
- ・活動に魅力があり、中学卒業後も参加する。
- ・小中学生を対象としている教室である。
- ・技術向上。
- ・人間形成。
- ・高校で野球をする為。
- ・在籍中学校にサッカー部がないため。
- ・埼玉県の大会出場の為。
- ・小、中、高一貫活動を推進している為。
- ・空手道を継続して、高校も空手道部に所属したいため。
- ・剣道が好き。
- ・港区内の公立中学の部活では不十分なため。
- ・地域で卓球スポ少を結成しているため。
- ・中学にバドミントン部がないため。
- ・中学の部活指導では技術向上をのぞめないため。
- ・中学校にサッカー部がないため。
- ・中学校にサッカー部がないので当クラブに入っている。
- ・中学校に柔道部が無く中学校に入学してから柔道を学びたい。
- ・中学校に野球部がないため（グラウンドの問題）。
- ・中学校の部活に満足していないため。
- ・夜間の練習、小学生との交流のため。
- ・設立時の目的の一つとして、小、中、高一貫指導を目指す。又、OBが指導者として戻ってくる。
- ・学校の部活と、外部指導者が入っての練習をしていて、外部指導者の日の保険等の対処のため。
- ・監督が中学の外部コーチとして登録していて、学校時間外はスポーツ少年団で活動している。
- ・学校の部活（剣道）＋スポーツ少年団の練習（剣道）。
- ・学校運動部活動ではもの足りないため。
- ・学校の部活の他にも練習して強くなりたいため。
- ・学校の部活動以外に連習するため。
- ・学校運動部と同じ目的活動。
- ・学校運動部に加えて、上手になるため。
- ・学校に弓道部が無いから。
- ・小学校卒業以降も技術向上、実力アップの為指導を受けたい。
- ・部活動以外の練習のため。
- ・全てのラグビースクールは、中学部有り。
- ・全国剣道交流大会参加資格を得るため。
- ・全国大会での参加。高校での継続。
- ・全国大会へ行って成績を残すため。
- ・卒団生。
- ・大会等、登録者に限る。
- ・卓球の技術向上。
- ・段位の取得。
- ・中学校の部活動に準ずる活動として認められたため。
- ・中学生主動で創立した団であるため、高校生は自由参加。
- ・日独同時交流に参加してドイツに行きたい。
- ・年代ごとの区切りがない為。
- ・部活動が合わず、競技は、続けたいため。
- ・部活動では不足のため。
- ・部活動のみでは上達が進まないため。
- ・部活動の活動の場としているため。
- ・部活動の時間が十分とれないため。

問 4-3 団において中・高校生の参加に期待していること

団において中・高校生の参加に期待していることについては、「将来指導者として活躍して欲しい」が 69.8% を占めた（図表 1-4-6）。次いで、「中・高校生の参加により、単位団の活動範囲が今よりも広がって欲しい」が 57.5%、「中・高校生にもスポーツ少年団活動の理念が広がって欲しい」が 54.3% を占めた。



図表 1-4-6 団において中・高校生の参加に期待していること

問 4-3 のその他の回答については、以下の通りとなった。

- ・カーリングはジュニアが 21 才までなので選手として活動を続けている。
- ・スポーツ以外での活動とリーダーシップを取ってもらいたい。
- ・ハンドボールが好きになり継続して行ってほしい。
- ・ふたつの中学校から参加しているので交流して欲しい。
- ・ボランティア活動に前向きに取り組んでほしい。
- ・より高度な技術の習得と成長。
- ・リーダーを育てることが単位団の目的。
- ・下の学年の子の面倒を見ること。関わり。
- ・会員の活性化。
- ・技術の向上。
- ・技術力アップを含めた人間育成。
- ・先輩達が県命に練習しているのを見て、後輩の励みになる。
- ・空手道へ真剣に向き合ってほしい。
- ・稽古したことを、中体連・高体連の大会で発揮し、高成績を残してほしい。
- ・県内あるいは九州で学年トップになってもらいたい。
- ・地域の競技普及と競技力向上、生涯スポーツ。
- ・中学校での部活引退後～高校までのスポーツの継続。
- ・中学校部活動の援助。
- ・多種目のスポーツを経験し団体行動を学んでほしい。
- ・中学生のスポ少大会があるため。
- ・中体連・高体連主催大会で活躍するため。
- ・色々な組織で事故があると、責任逃れのため、別組織で受皿を作っておかなければならなくなる。
- ・高校・社内人とスポーツを続けて欲しい。
- ・人間形成・生涯スポーツ・健康づくり・社会奉仕。
- ・指導者としてでなくても、剣道を続けてほしい。
- ・種目の底辺の拡充。
- ・将来もスポーツを楽しんでもらいたい。
- ・将来永く競技を続けてほしい。
- ・小学生の見本となる為。
- ・小学生の手本となってほしい。
- ・小学生の面倒をみたりして、異年令のつながりを広げたい。
- ・生涯スポーツとして楽しめる力をつけるため。
- ・人格形成。
- ・人間として成長してほしい。
- ・中学生として相応しい体力、気力を養って高校生活に臨んでほしい。
- ・大人になっても趣味でもいいから卓球を続けて欲しい。
- ・卓球の楽しさを知ってほしい。
- ・卓球の技術向上。
- ・段位の取得。
- ・地域に役立つ人材に育ててほしい。
- ・日独同時交流に参加して国際交流体験をして欲しい。
- ・部活以外の活動の場として。

問5 スポーツ少年団行事の認知度について

「中学生以上が参加できるスポーツ少年団行事を知っているか、また、今までに団員を参加させたことがあるか」については、以下の通りとなった。

事業名	1 知っている・参加させたことがある	2 知っているが参加させたことは無い	3 知らない	回答無し
a 全国スポーツ少年大会	119	187	80	21
b 日独スポーツ少年団同時交流	74	166	145	22
c 日中青少年スポーツ団員交流	19	144	211	33
d ブロックリーダー研究大会	43	166	164	34
e リーダーブロック交流会	44	176	155	32
f 全国リーダー連絡会	26	164	182	35
g シニア・リーダースクール	57	186	135	29
h ジュニア・リーダースクール	93	166	120	28
I 都道府県・市区町村スポーツ少年団主催交流事業	225	112	54	16
j その他	13	11	38	345

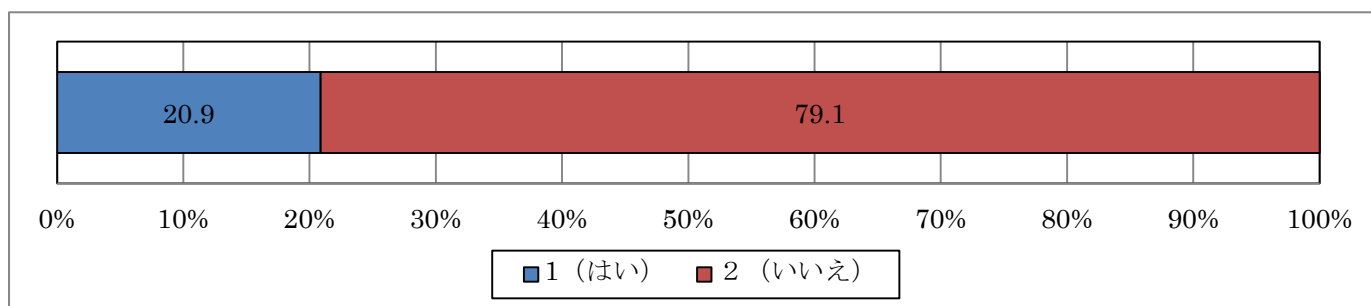
図表 1-5 スポーツ少年団行事へ参加実績および認知度

「J その他」の回答については、以下の通りとなった。

- ・ 県スポーツ少年団大会（交流）
- ・ 関東ブロックスポーツ少年大会
- ・ 中国ブロック少年大会
- ・ 全国スポーツ少年団剣道交流大会
- ・ 県スポ少卓球大会
- ・ 少年団記念パーティーなど
- ・ 関東地区リーダー研修会
- ・ 区市スポーツ少年団大会
- ・ 研修会等

問6 ジュニア・リーダー、シニア・リーダーの育成について

団にジュニア・リーダーまたはシニア・リーダーがいるか問う設問については、20.9%（407団中 85団）が「1. はい」と回答した（図表 2-1）。

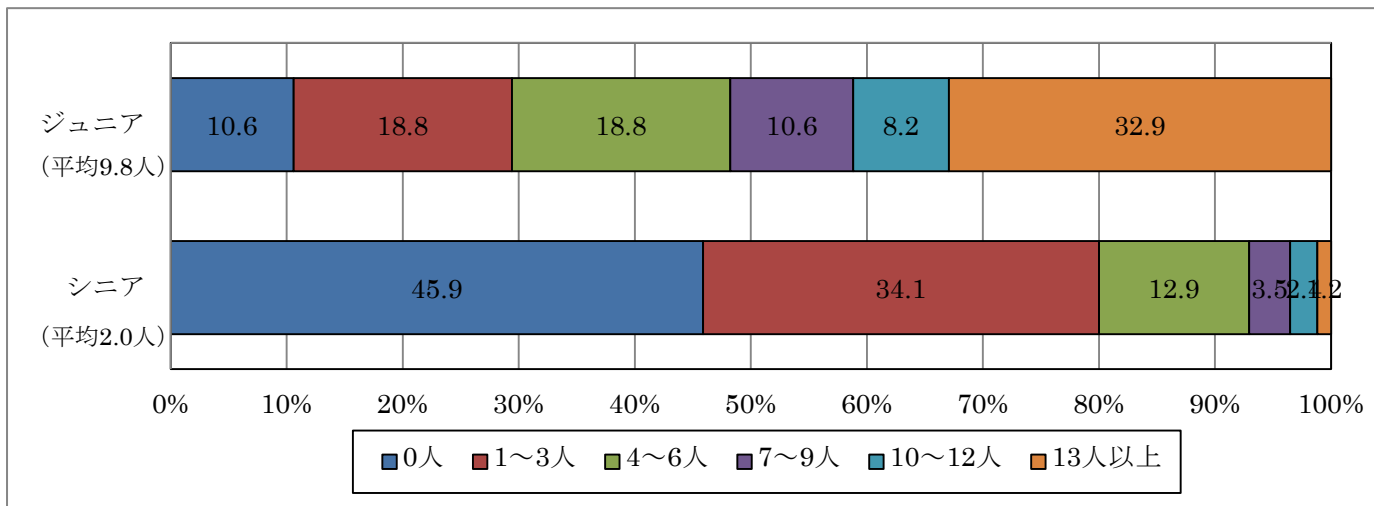


図表 2-1 ジュニア・リーダー、シニア・リーダーの在団状況

問 6-1 ジュニア・リーダーまたはシニア・リーダーの人数について

(問 6 において「1. はい」と答えた団のみ回答)

ジュニア・リーダーの人数については、「1～3人」、「4～6人」が18.8%を占め、平均は9.8人となった(図表 2-2)。次いで「0人」、「7～9人」が10.6%となった。また、シニア・リーダーについては、「0人」が45.9%を占め、平均は2.0人となった。次いで、「1～3人」が34.1%、「4～6人」が12.9%となった。

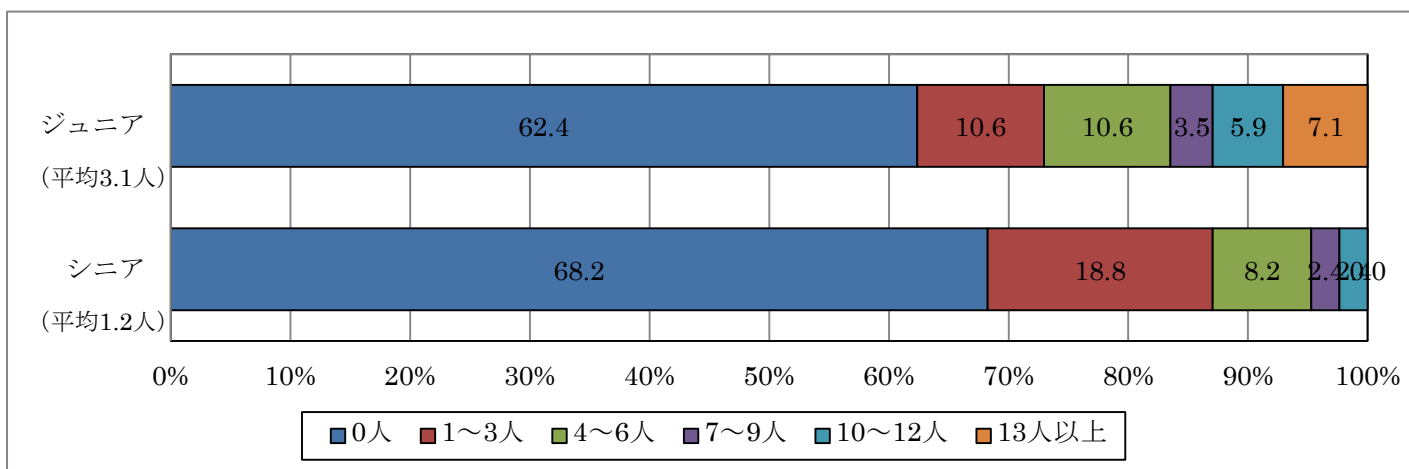


図表 2-2 ジュニア・リーダー、シニア・リーダーの人数

問 6-2 市区町村リーダー会に所属しているリーダーの数について

(問 6 において「1. はい」と答えた団のみ回答)

ジュニア・リーダーもしくはシニア・リーダーの資格保有者でかつ市区町村のリーダー会に所属している人数について問う設問では、ジュニア・リーダーについては、「0人」が62.4%を占め、平均3.1人となった(図表 2-3)。次いで、「1～3人」、「4～6人」が10.6%となった。また、シニア・リーダーについては、「0人」が68.2%を占め、平均1.2人となった。次いで「1～3人」が18.8%、「4～6人」が8.2%となった。

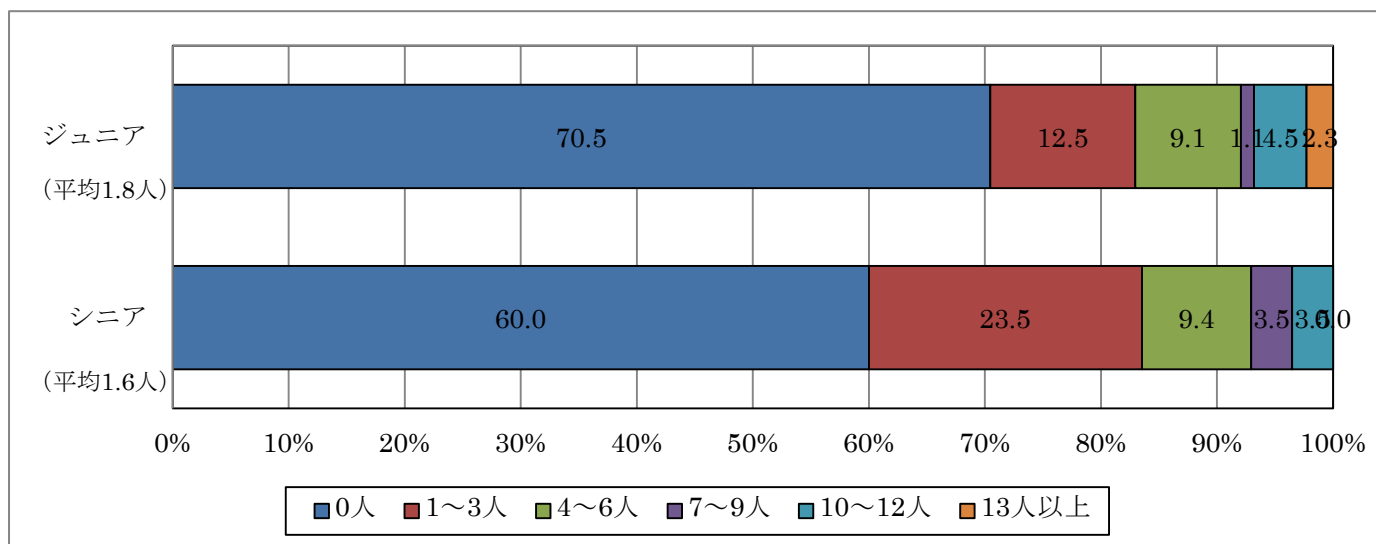


図表 2-3 市区町村リーダー会に所属するジュニア・リーダー、シニア・リーダーの人数

問 6-3 都道府県リーダー会に所属しているリーダーの数について

(問 6 において「1. はい」と答えた団のみ回答)

ジュニア・リーダーもしくはシニア・リーダーの資格保有者かつ都道府県のリーダー会に所属している人数について問う設問では、ジュニア・リーダーについては、「0人」が70.5%を占め、平均1.8人となった(図表 2-4)。次いで、「1~3人」が12.5%、「10~12人」が14.5%となった。また、シニア・リーダーについては、「0人」が60.0%を占め、平均1.6人となった。次いで「1~3人」が23.5%、「4~6人」が9.4%となった。

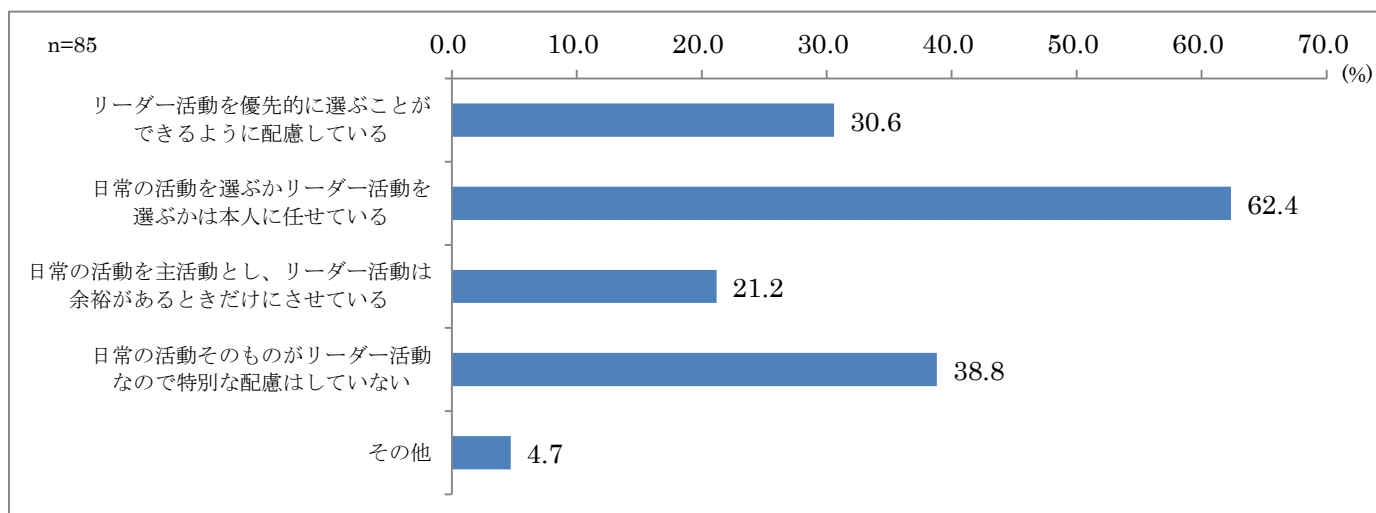


図表 2-4 都道府県リーダー会に所属するジュニア・リーダー、シニア・リーダーの人数

問 6-4 リーダーの日常の活動と指導者の接し方について (複数回答)

(問 6 において「1. はい」と答えた団のみ回答)

日常の活動においてリーダーがリーダー活動をする際に、指導者がどのような対応をしているか問う設問については、「日常生活を選ぶかリーダー活動を選ぶか本人に任せている」が62.4%となった(図表 2-5)。次いで、「日常生活そのものがリーダー活動なので特別な配慮をしていない」が38.8%、「リーダー活動を優先的に選ぶことができるように配慮している」が30.6%となった。



図表 2-5 リーダーの日常の活動と指導者の接し方について

「その他」の回答については、以下の通りとなった。

- ・リーダー養成を兼ね、リーダーを前面に出すようにしている。
- ・指導者の補助となって団員への気くばりを手伝ってくれています。
- ・私共のリーダーという者は6年生対象に指導者が指名します。但し6年生が多いときには月毎に変えています。
- ・所属団指導者より承認を受けてリーダー会へ推薦してもらい活動をさせていただいているという自覚と、単位団、市町村の代表であるという意識と責任をもって活動するよう日々指導を行っています。
- ・単位団で活動する基本を身につけて県へ行く。基本は単位団活動にある。
- ・団員をまとめ、練習、試合においてリーダーとしての役割を果たさせている。
- ・日常の活動が主であるが、リーダー活動がある場合は積極的に参加を促している。

問 6-5 リーダー活動の内容について（問 6 において「1. はい」と答えた団のみ回答）

リーダーの活動内容について問う設問については、以下の通りとなった。

活動内容	1 いつも行っている	2 時々行っている	3 行っていない
a 小学生団員の指導および指導補助	42	35	8
b スポーツ少年団のイベントや大会運営の補助	42	28	15
c リーダーによる活動プログラムの企画や運営	18	29	38
d リーダー交流会・研修会への参加	36	29	20
e その他	3	2	80

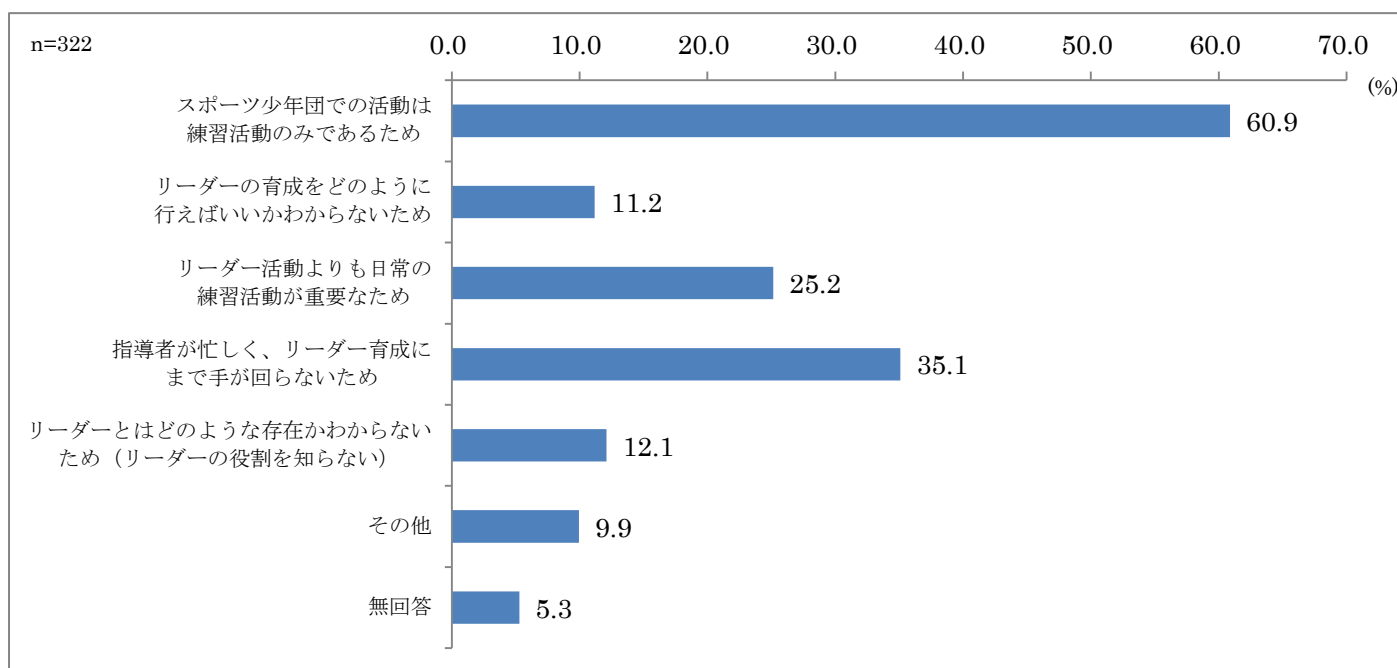
図表 2-6 リーダーの活動内容について

「その他」の回答については、以下の通りとなった。

- ・独自ドイツ交流、沖縄交流
- ・地域活動
- ・リーダー相互の親睦会
- ・リーダー研修会（市）
- ・岡山県小学生交流大会のアトラクションの企画、進行運営を他の支部のリーダーに働きかけ、中学生リーダーが中心となり行っている過去3年間行い定着しつつある。

問7 リーダーを育成していない理由について（問6で「2. いいえ」と回答した団のみ回答、複数回答）

リーダーを育成していない理由について問う設問については、「スポーツ少年団での活動は練習活動のみであるため」が60.9%を占めた（図表2-7）。次いで「指導者が忙しく、リーダー育成にまで手が回らないため」が35.1%、「リーダー活動よりも日常の練習活動が重要なため」が25.2%となった。



図表 2-7 リーダーを育成していない理由について

「その他」の回答については、以下の通りとなった。

- ・クラブのリーダーとして小学部、中学部にキャプテン等を数名をおいている。
- ・リーダーの育成は知ってはいるが育成はしていない。
- ・ジュニア・リーダースクールの受講資格を満していないと思っているため、ジュニア・リーダー、リーダーの育成後の活動があまり伝わって来ないので中・高校生に説明しづらい。
- ・スクールの受講が困難なため。
- ・その活動の必要性が無い。
- ・そんなものがあると知らなかった。
- ・初級リーダースクールには積極的に参加する様よびかけをし実際に参加もしているが、そのままストップしている状況。
- ・リーダーとしての声かけはしているが、入る人がいない。
- ・学校事業がわからないため。
- ・活動は、市交流会・大会活動のため。
- ・町スポーツ少年団で研修しているが、まだそのレベルでない。
- ・空手道での活動が多く、参加する日程が取れない。
- ・子供たちが忙しく団活動+αとなるリーダーとしての登録までに至っていないため。
- ・しぼりが多すぎる。近代化がされていない 特定集団の打感が見える。
- ・リーダー育成ではなく、有段者の育成には、力を入れている。
- ・何年間前まではリーダーはいたが近年子供達がいそがしくてリーダー活動が難しく、リーダー会に参加が出来ない（大会などと重なる為）。
- ・リーダー制度がわからなかった。
- ・リーダー制度といったものを知らない。
- ・レクレーション、奉仕活動。
- ・リーダー育成の講習会は声を掛けるが練習・勉強が忙しいため断られます。
- ・学校行事、試合等が重なってしまう。
- ・リーダースクールが遠いので、行ける子供（父兄）がいない。
- ・小学生の団員が少なく、中学生は部活の一部と思っている。
- ・小学生中心の活動のため、身近にそういう活動の場がない。
- ・少年団のためのリーダーは役割を果たしているため。
- ・団認定のジュニア・リーダー制度はあるがスクールは受講していない。

- ・資格を当団では必要としていない為。
- ・中学生団員が学校運動部活動との両立で忙しいから。
- ・他の習い事が多く、やっと稽古にやる状態なので。
- ・大会と重なり参加できない。
- ・団員が学業等で多忙な為、時間的余裕がない。
- ・部活とのかねあいで時間がとりづらい。
- ・中、高生自体が学校の部活動優先となる為。
- ・日常の練習活動により自然とリーダーへ育っていく。
- ・日程が重なり、参加出来ないため。
- ・必要と感じない。
- ・必要を感じない。
- ・全員が中学の部活動に所属しており、その活動時間以外の僅かな時間で活動しているためリーダー育成をしている余裕がないと
思っている。
- ・親が積極的でない。
- ・全員にリーダーの意識を持って欲しいため。
- ・全員をリーダーとして育成するため。
- ・中学になると一般的に忙しい。
- ・中学校部活動の外部指導者として行っている事が多いため。
- ・資格認定を受けなくてもリーダーの役割をはたしている。
- ・特に必要とは思わない。
- ・日常の練習や交流事業でリーダーとしての育成をしているため。
- ・部活動主体の為なかなか時間がとれない為。
- ・複合団のためリーダーが育たない。
- ・練習の中でリーダーの役割をあたえている（大会行事）。

問8 小学生へのアプローチ（広報活動）について

団に加入してもらうため、小学生や保護者に対し、どのようなアプローチ（広報活動）を行っているかを問う設問については、以下の通りとなった（図表 3-1）。

活動内容	1 いつも行っている	2 時々行っている	3 あまり行っていない	4 全く行っていない
a 幼稚園・小学校へのチラシや 広報誌の配布	87	139	57	124
b 地域の商店や市民センターへ のチラシ設置やポスターの掲示	53	124	62	168
c スポーツ少年団のイベントへ の体験参加	53	117	81	156
d 日常の練習への体験参加	173	145	48	41
e 地域行事への参加によるスポ ーツ少年団活動のPR	67	121	89	130
f 団員を通じて、チラシや広報 誌の配布	40	118	74	175
g 単位団関係者の知人・友人へ の口コミによる勧誘	156	170	34	47
h ホームページ等によるWEB 活用	88	45	47	227
I その他	13	10	3	381

図表 3-1 小学生や保護者に対するアプローチ（広報活動）について

「その他」の回答については、以下の通りとなった。

- ・町が行っているスポーツ少年団の広報に年1回のせる・部活動を行っているソフトテニス部員に対して説明会を行っている。
- ・スポ少共通入団案内。
- ・各校区でのアピールをしている。
- ・活動場所に、チラシやポスターを置いてもらう。
- ・市が行う年一回の広報によるスポーツ少年団紹介。
- ・市スポーツ少年団募集要項を市内全小学校へ配布年1回。
- ・市の広報紙。
- ・小・中学校、体育関係団体等に入団を依頼している。
- ・親→子供→孫と伝わっている。
- ・総合型地域スポーツクラブの活動メニューとしての広報。
- ・大会で上位入賞した時地元新聞社に掲載してもらう。
- ・地域限定の発行紙に団紹介をしている（ホームニュース）。
- ・市の広報紙にて募集依頼毎年4月1日号にて市内で年1回統一募集をしている為（子どものとり合いにならないよう）上記回答となっております。
- ・市を通して一律に。
- ・市広報のコミセン小学校等への配布、年1回。
- ・市広報への投稿（主催行事など）。
- ・市広報紙に。
- ・市政だより2月15日号に毎年。
- ・地域広報誌への掲載。
- ・地域自治会と連携、子ども会なども。
- ・地元新聞への広告毎年1回。
- ・町広報紙で呼びかけ空手教室実施。
- ・町広報紙の利用。

問9 小学校卒業後もスポーツ少年団活動を継続してもらうための内容について

団において団員や他の単位団の小学生に対し、小学校卒業後もスポーツ少年団活動を継続してもらうための活動内容について問う設問については、以下の通りとなった（図表 3-2）。

活動内容	1 いつも行っている	2 時々行っている	3 あまり行っていない	4 全く行っていない
a 小学生の単位団との情報交換の機会	75	147	91	94
b 小学生団員と中学生団員との合同練習の機会	217	127	25	38
c スポーツ少年団のイベントや大会での運営補助	108	134	74	91
d 小学生と中学生がともに試合に出場できる大会の実施	132	117	54	104
e 小学生との交流イベントの実施	70	127	98	112
f 団員へのチラシや広報の配布による勧誘	43	120	86	158
g 単位団関係者の知人・友人への口コミによる勧誘	102	170	54	81
h その他	8	2	1	396

図表 3-2 小学校卒業後もスポーツ少年団活動を継続してもらうための内容について

「その他」の回答については以下の通りとなった。

- ・団員へ指導者から話す・父兄にも話す。
- ・We bによる勧誘。
- ・ジュニア・リーダーズスクールでの講義の中で説明、指導。
- ・スポーツ少年団として関係団体に入団の勧誘依頼。
- ・小・中学生とソフトテニス協会員による10時間テニスを実施している年一回（夏休み中）。
- ・中学生以上の団員に対し、稽古補助や大会・イベントにおいて運営補助等、積極的にかつ主体的に活動する場所（機会）の確保。
- ・小学生、中学生はいつも合同で練習する。
- ・小学生から一般まで一つの組織として活動。
- ・小学生団員と中学生団員は常に合同練習。
- ・小学生保護者への情報提供。
- ・大会を通じアピールしている。

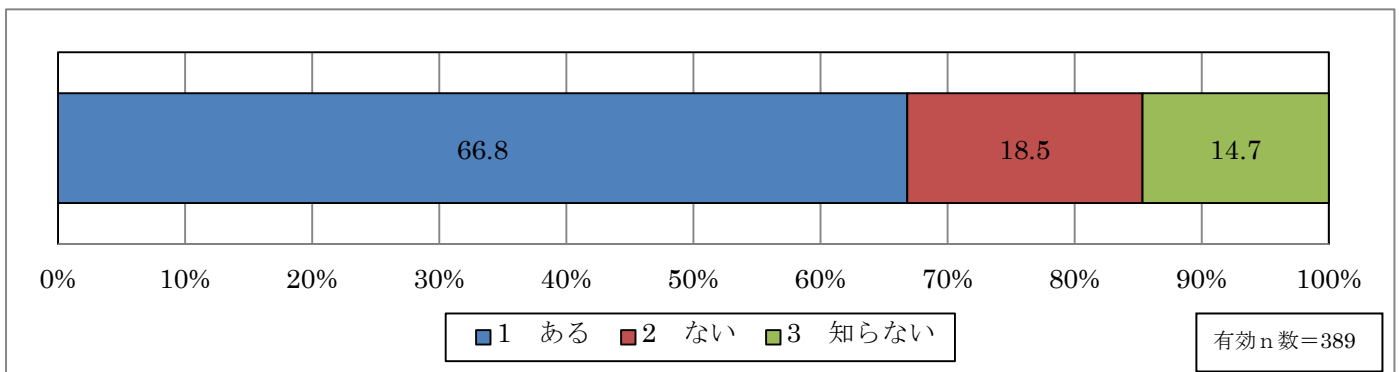
問 10 中・高校生スポーツ少年団活動継続の課題について

→自由記述として後述

問 11 中・高校生団員が参加可能な都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会について

中・高校生団員が参加可能な都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会があるかどうかを問う設問については、「1. ある」と回答した団が 66.8%（260 団）を占めた（図表 4-1）。次いで「2. ない」が 18.5%、「3. 知らない」が 14.7%となった。

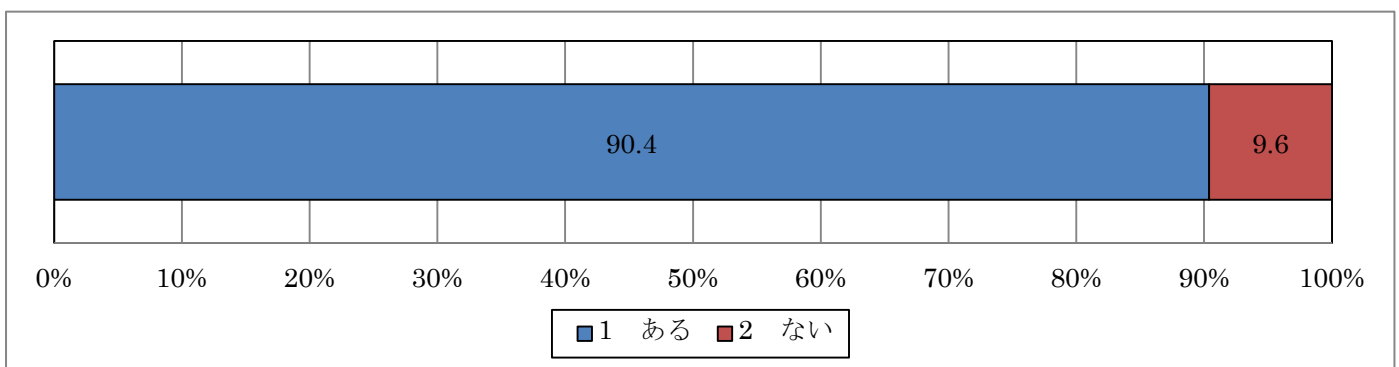
→具体的な大会名については自由記述として後述。



図表 4-1 中・高校生団員が参加可能な都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会について

問 11-1 中・高校生の大会への参加状況について（問 11 で「1. ある」と回答した団のみが回答）

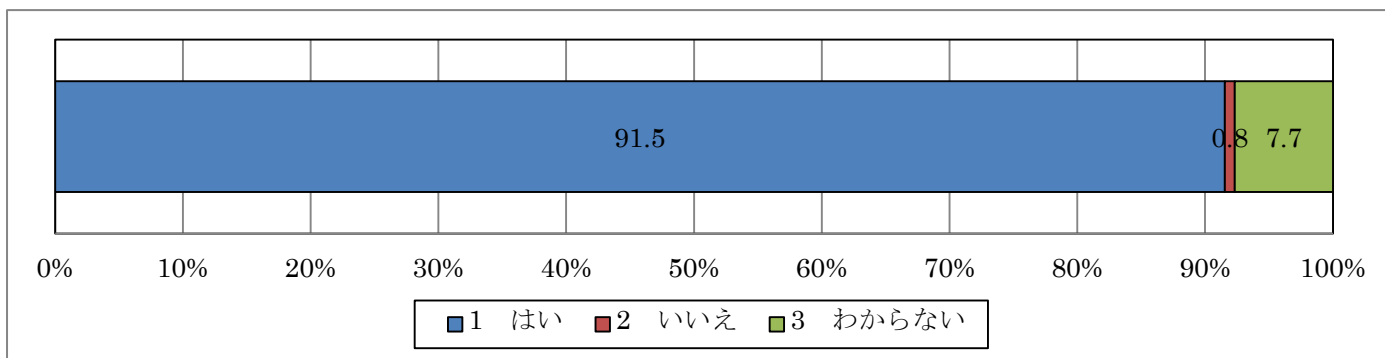
団の中・高校生が都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会に参加したことがあるかどうか問う設問については、「1. ある」と回答したが 90.4%を占めた（図表 4-2）。また、「2. ない」と回答した団が 9.6%となった。



図表 4-2 中・高校生の大会への参加状況について

問 11-2 中・高校生の大会の必要性について（問 11 で「1. ある」と回答した団のみが回答）

中・高校生が参加可能な都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会の必要性について問う設問については、「1. はい」と回答した団が 91.5%を占めた（図表 4-3）。次いで「3. わからない」が 7.7%、「2. いいえ」が 0.8%となった。

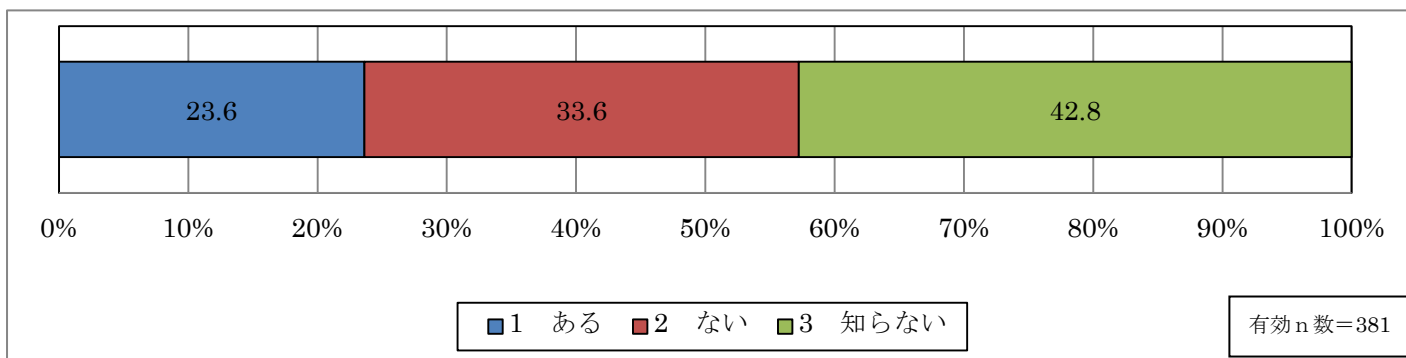


図表 4-3 中・高校生が参加可能な都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会の必要性について

問 12 中・高校生団員が参加可能な所属都道府県や市区町村以外のスポーツ少年団主催の大会について

中・高校生団員が参加可能な所属都道府県や市区町村以外のスポーツ少年団主催の大会があるかどうかを問う設問については、「1. ある」と回答した団が 23.6%（90 団）を占めた（図表 4-4）。次いで「2. ない」が 33.6%、「3. 知らない」が 42.8%となった。

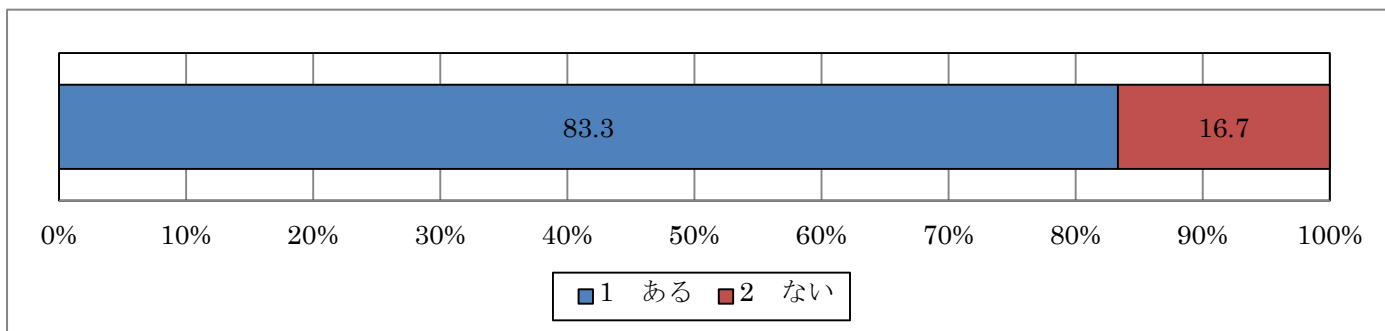
→具体的な大会名については自由記述として後述。



図表 4-4 中・高校生団員が参加可能な所属都道府県や市区町村以外のスポーツ少年団主催の大会について

問 12-1 中・高校生の大会への参加状況について（問 12 で「1. ある」と回答した団のみが回答）

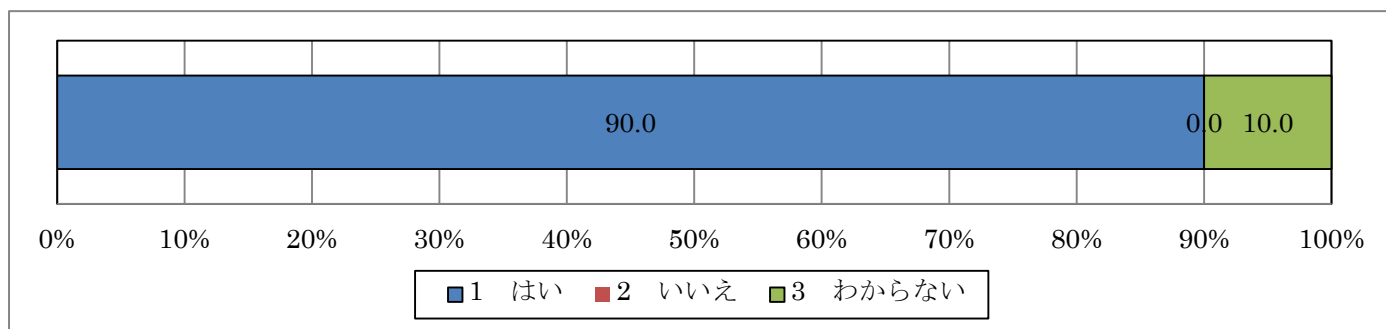
団の中・高校生が所属都道府県や市区町村以外のスポーツ少年団主催の大会に参加したことがあるかどうか問う設問については、「1. ある」と回答したが 83.3%を占めた（図表 4-5）。また、「2. ない」と回答した団が 16.7%となった。



図表 4-5 中・高校生の大会への参加状況について

問 12-2 中・高校生の大会の必要性について（問 11 で「1. ある」と回答した団のみが回答）

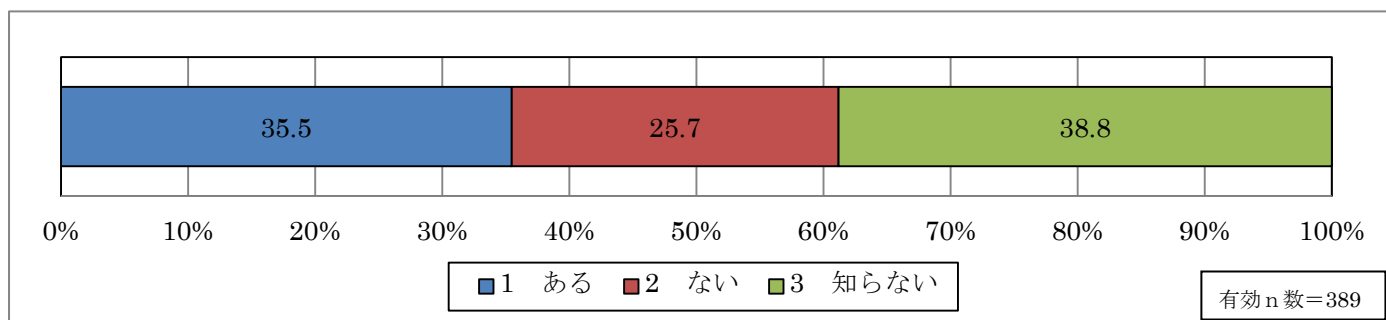
中・高校生が参加可能な所属都道府県や市区町村以外のスポーツ少年団主催の大会の必要性について問う設問については、「1. はい」と回答した団が 90.0%を占めた（図表 4-6）。次いで「3. わからない」が 10.0%、を占め「2. いいえ」と回答した団はなかった。



図表 4-6 中・高校生の大会への参加状況について

問 13 中・高校生団員が参加可能な地域交流行事について

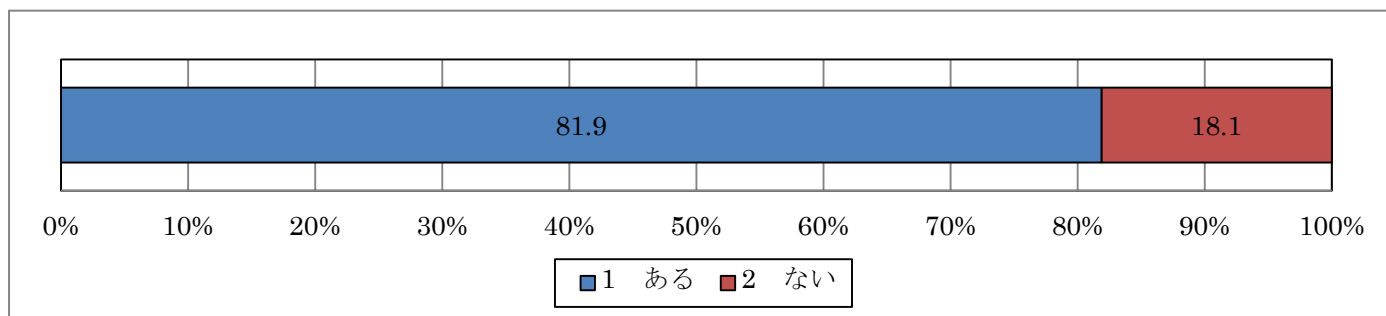
中・高校生団員が参加可能な地域交流行事があるかどうかを問う設問については、「1. ある」と回答した団が 35.5%（138 団）を占めた（図表 4-7）。次いで「2. ない」が 25.7%、「3. 知らない」が 38.8%となった。
→具体的な大会名については自由記述として後述。



図表 4-7 中・高校生の地域交流行事の有無について

問 13-1 中・高校生の地域交流行事への参加状況について（問 13 で「1. ある」と回答した団のみが回答）

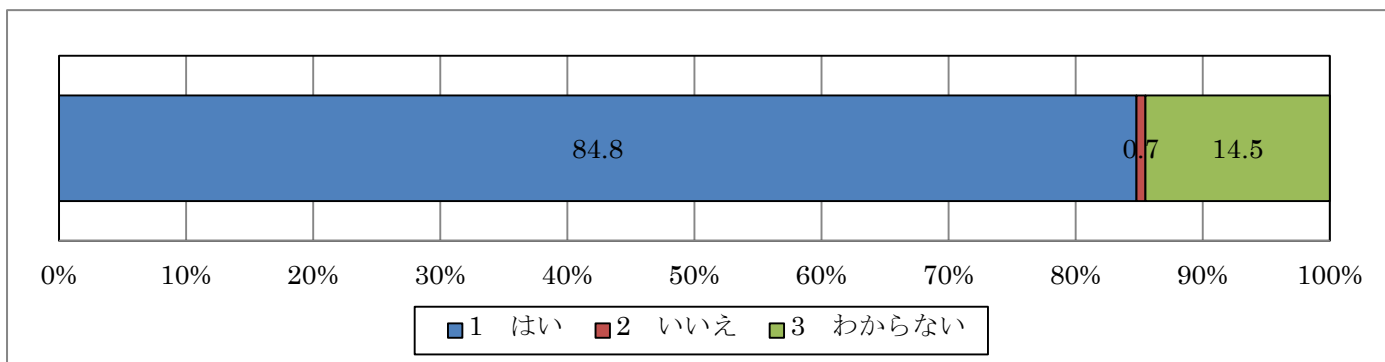
団の中・高校生が地域交流行事に参加したことがあるかどうか問う設問については、「1. ある」と回答した団が 81.9%を占めた（図表 4-8）。また、「2. ない」と回答した団が 18.1%となった。



図表 4-8 中・高校生の地域交流行事への参加状況について

問 13-2 中・高校生地域交流行事の必要性について（問 13 で「1. ある」と回答した団のみが回答）

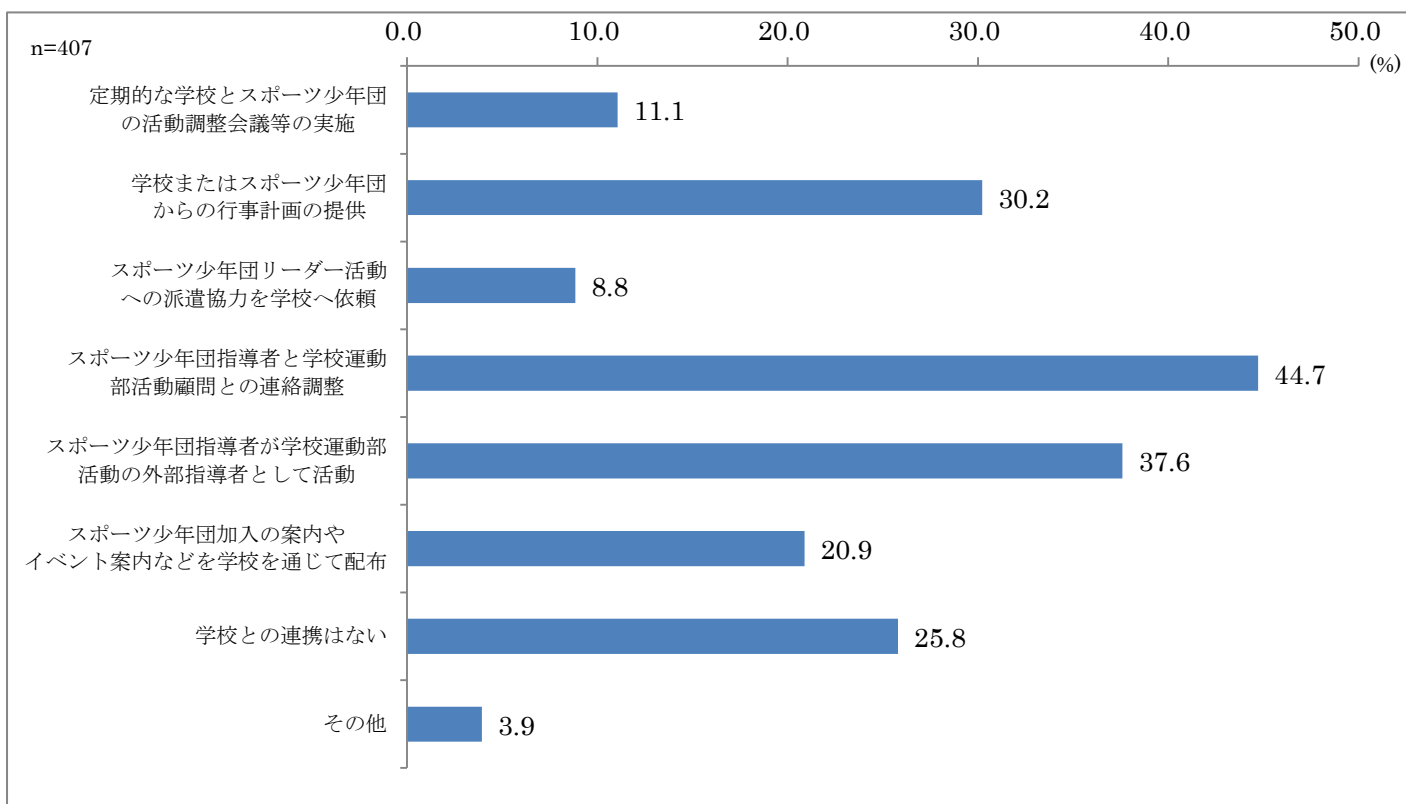
中・高校生地域交流行事の必要性について問う設問については、「1. はい」と回答した団が 84.8%を占めた（図表 4-9）。また、「2. ない」と回答した団が 0.7%、「3. わからない」と回答した団が 14.5%となった。



図表 4-9 中・高校生地域交流行事の必要性について

問 14 学校との連携について（複数回答）

中・高校生団員がスポーツ少年団活動に関わりやすくするため、団員が通う市区町村の学校と連携を行っているか問う設問については、「スポーツ少年団指導者と学校運動部活動顧問との連絡調整」が 44.7%を占めた（図表 5-1）。「スポーツ少年団指導者が学校運動部活動の外部指導者として活動」が 37.6%、「学校またはスポーツ少年団からの行事計画の提供」が 30.2%となった。



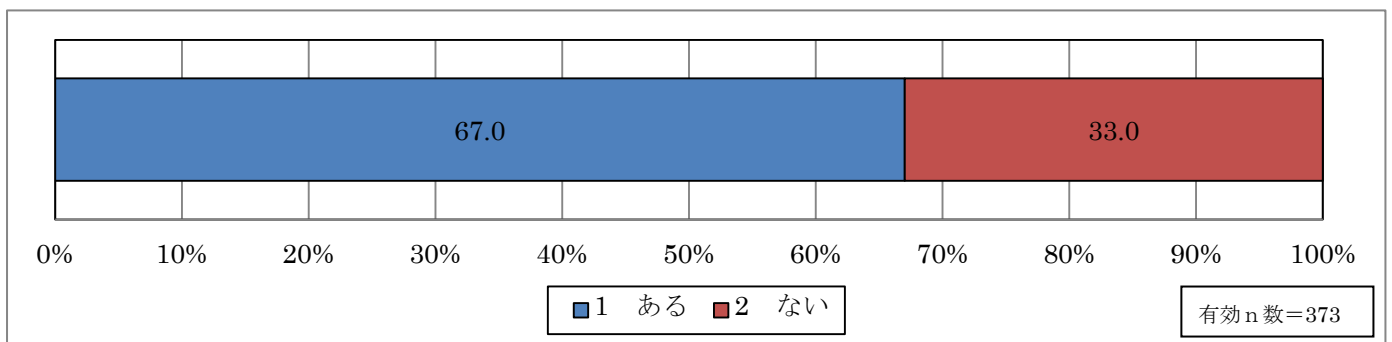
図表 5-1 学校との連携について

「その他」の回答については、以下の通りとなった。

- ・スポーツ少年団の指導者が柔道授業協力者になっており、柔道の素晴らしさや柔道少年団の存在をPRしている。
- ・以前は話し合いをしていた。
- ・活動施設の借用と備品等の借用。
- ・活動日の中学校グラウンドの借用。
- ・技術やメンタル面などについて連携はしている。
- ・週に1日、中学校部活動と少年団の合同練習を実施中。
- ・体育館等施設開放。
- ・大会参加時に中学校顧問との調整相談。
- ・飯豊大会や祝勝会への顧問、学校長の参加。学校での指導者顔合せ会の実施。
- ・部活動＝スポーツ少年団。
- ・部活動とスポーツ少年団の活動の調整。
- ・中学校での部活動以外でスポーツ少年団活動への参加を理解してもらっている。地区大会や全国大会出場の報告など。
- ・中、高の部活指導をし、それを通じて他校の顧問とも連携。
- ・テニスコートの借用時は学校長及び顧問との話し合いにする。
- ・地区大会や全国大会出場の報告など。
- ・中学生・高校生はない 小学生・小学校との連携はある。
- ・中体連の大会に学校長の承認を得て参加している。
- ・部員の活動報告。
- ・年2回、地域の大会へ、クラブ活動として参加依頼。
- ・特に連携は、ないが学校の施設を借りているため毎月予定を提出している。
- ・部活動の夜間練習をするために中学生がスポ少に入っている。
- ・保護者に一任。

問 15 学校の理解度について

学校側が中・高校生がスポーツ少年団活動を継続することについて理解があるかを問う設問については、「1. はい」と回答した団が67.0%を占めた（図表 5-2）。「2. ない」と回答した団については、33.0%となった。



図表 5-2 学校側のスポーツ少年団活動への理解について

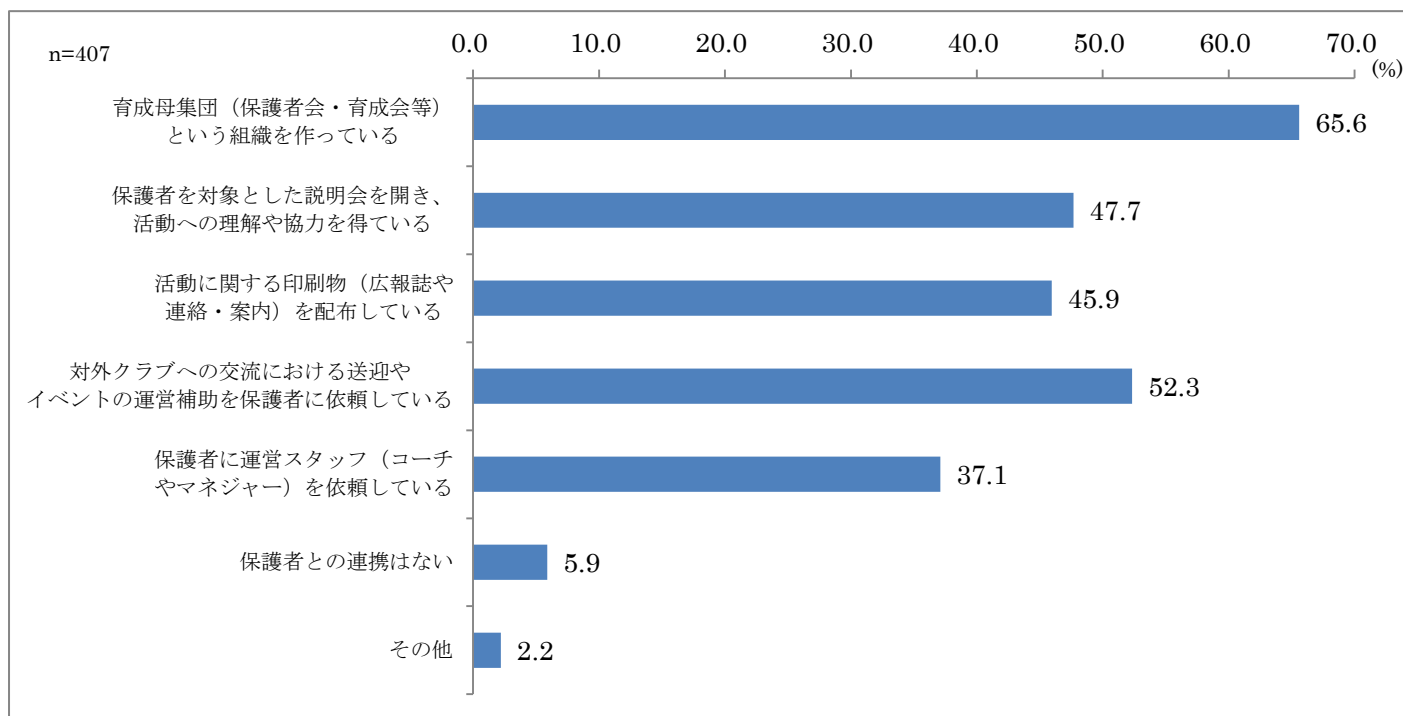
問 15-1 学校の理解を得るために工夫していることについて（問 15 で「1. ある」と回答した団のみが回答）
→具体的な工夫については自由記述として後述。

問 16 学校との連携における課題について

→具体的な課題については自由記述として後述。

問 17 保護者との連携について（複数回答）

中・高校生団員がスポーツ少年団活動に関わりやすくするため、保護者とどのような連携を取っているか問う設問については、「育成母集団（保護者会・育成会等）という組織を作っている」が 65.6%を占めた（図表 6-1）。次いで、「対外クラブへの交流における送迎やイベントの運営補助を保護者に依頼している」が 52.3%、「保護者を対象とした説明会を開き、活動への理解や協力を得ている」が 47.7%となった。



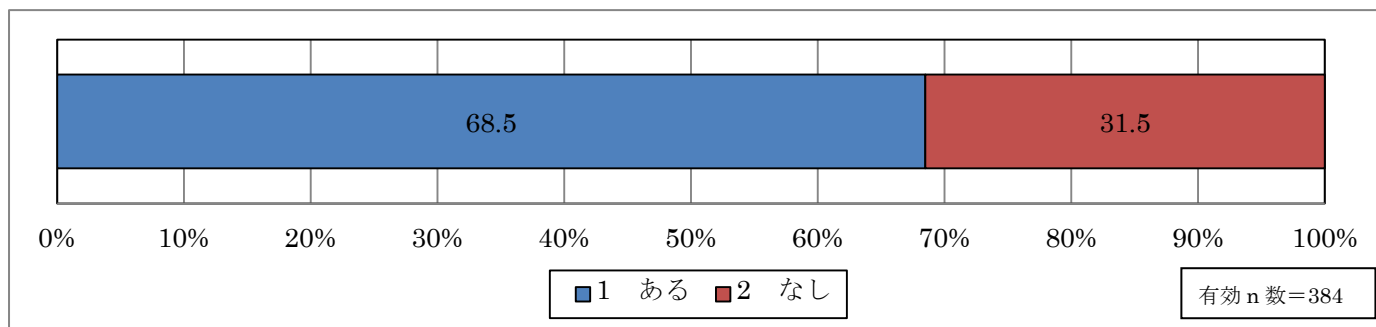
図表 6-1 保護者との連携の仕方について

「その他」の回答については以下の通りとなった。

- ・OG保護者を、保護者会の長として残し、保護者のとりまとめをしてもらっている。
- ・HPで連絡している。
- ・資格を取り、指導者になってもらう事を進めている。
- ・クラブの年間イベントに関しての補助及び協力を要請している。
- ・メールでの情報。
- ・各人への日程送付の時、一人一人に生活面技術面のアドバイスを書いています。又、保護者は練習日の送迎（必要な人）のみに関わっています。（自転車で来ている人も多く居る）。
- ・基本的に自分の子どもに対して責任を持ってもらう。
- ・高校部活顧問と中学顧問に話し掛け合同稽古等の理解を得ている。
- ・子供達を含めて、交流会を行っている。
- ・野外活動（キャンプ）と一緒に参加する。
- ・小学校6年生の親が役員となり、会計引率の手伝いをしてもらえる。
- ・小学生からの持ち上がりなので、理解はもらっている。
- ・説明会とまでは行かなくても、会えば活動の説明を必ずする。
- ・団員、指導者、母集団を含めたハイキング、キャンプ、バーベキュー等を実施。
- ・中学校（地元）との合同練習。
- ・団員保護者全てが大会・イベント・行事どれかの（1つ以上）企画・運営に携わり、団活動への理解と協力をしていただいている。
- ・保護者の協力なしでは活動できません。
- ・保護者会主催の行事を年4回行っている（忘年会・新年会・送る会・大会反省会等）。
- ・新年会を行っている。

問 18 保護者への理解や説明を求める機会について

保護者について、中・高校生の子少年団活動継続について説明や理解を求める機会があるかどうか問う設問については、「1. ある」と回答した団が68.5%となった(図表 6-2)。「2. なし」と回答した団は31.5%となった。



図表 6-2 保護者への理解や説明を求める機会について

問 18-1 保護者の理解を得るための工夫について (問 18 において「1. ある」と回答した団のみが回答)

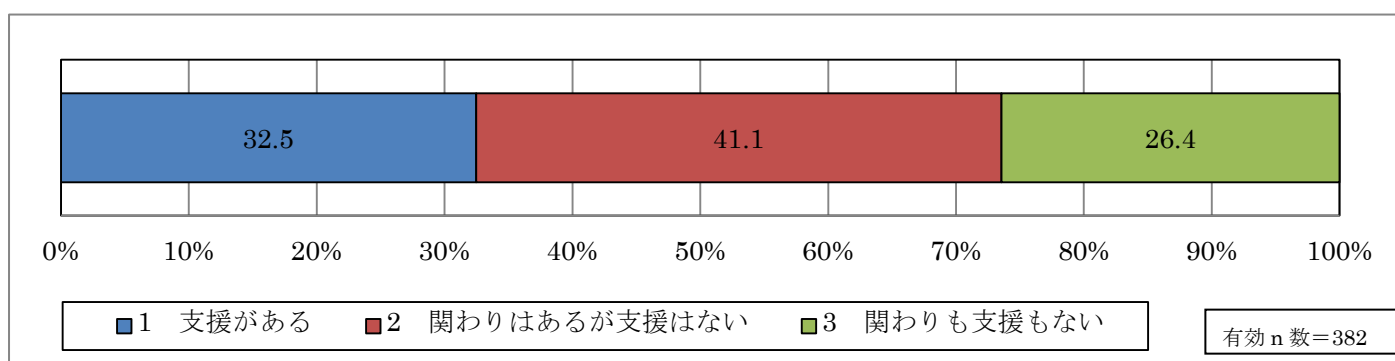
→具体的な工夫については自由記述として後述。

問 19 保護者との連携における課題について

→具体的な課題については自由記述として後述。

問 20 地域団体との関係について

中・高校生の子少年団活動について、市区町村や都道府県の競技団体からの支援があるか問う設問については、「1. 支援がある」と回答した団が32.5%を占めた(図表 7-1)。次いで、「2. 関わりはあるが支援はない」は41.1%となり、「3. 関わりも支援もない」は26.4%となった。



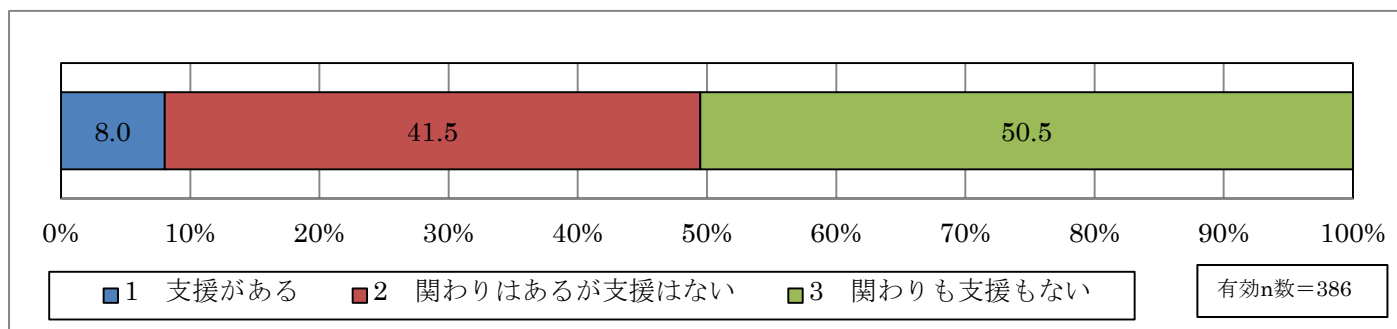
図表 7-1 地域団体との関係について

問 20-1 具体的な支援策について (問 20 で「1. 支援がある」と回答した団のみが回答)

→具体的な支援策については自由記述として後述。

問 21 中体連や高体連の支援について

中・高校生のスポーツ少年団活動について、中体連や高体連からの支援があるか問う設問については、「1. 支援がある」と回答した団が 8.0%を占めた（図表 7-2）。次いで、「2. 関わりはあるが支援はない」は 41.5%となり、「3. 関わりも支援もない」は 50.4%となった。



図表 7-2 中体連や高体連からの支援があるかについて

問 21-1 具体的な支援策について（問 21 において「1. 支援がある」と回答した団のみが回答）

具体的な回答については、以下の通りとなった。

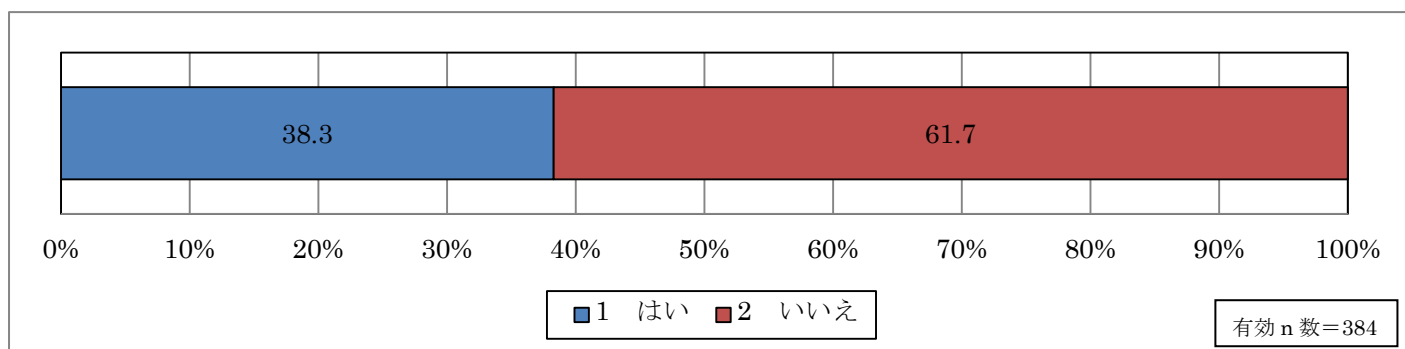
- ・ 高校大会の出場の折には校舎外に横断幕をはり宣伝してくれる。
- ・ 参加等につき、理解と配慮。
- ・ イベント、大会に生徒の派遣あり。
- ・ スキー競技としての全中・インターハイなど。
- ・ リーグ戦や新人戦等各大会参加承認。
- ・ 会場の準備。
- ・ 活動補助金。
- ・ 技術的ではありますが交流会をしていただいています。
- ・ 審判の協力。
- ・ 審判員の派遣。
- ・ 審判講習会。
- ・ 選抜選手の選考（トレセン）。
- ・ 大会、補助、稽古指導。
- ・ 大会の開催時のお手伝い。
- ・ 中体連主催の講習会に小学生もよんでくれる。
- ・ 市町村本部からの交流事業への参加支援（情報や参加費の一部負担等）。
- ・ 県大会北信越大会全国大会に補助金を頂く。
- ・ 行事活動に参加してもらい活動をともにしている。
- ・ 講習会などを開催してくれる。
- ・ 合同練習など。
- ・ 競技会への参加理解。
- ・ 試合の時の審判の派遣。
- ・ 試合案内・行事予定を知らせてもらう。
- ・ 大会の補助員、審判員の派遣。
- ・ 大会運営、練成会。
- ・ 大会行事等。
- ・ 大会等の支援等。
- ・ 中学校の顧問が指導者として加わっている。
- ・ 中体連のサッカー部会でよくお世話になっている。
- ・ 補助金。

問 22 中・高校生団員が単位団活動と学校の運動部活動を兼ねる場合の課題について

→具体的な課題については自由記述として後述。

問 23 地域活動への参加状況について

平成25年度に他団体が開催する地域活動に参加したか問う設問については、「1. はい」と回答した団が38.3%を占めた（図表 7-3）。「2. いいえ」については、61.7%となった。



図表 7-3 地域活動への参加状況について

問 23-1 地域活動内容について（問 23 において「1. はい」と回答した団のみが回答）

→具体的な地域活動内容については自由記述として後述。

問 24 中・高校生がスポーツ少年団活動をしていくために、地域団体（都道府県・市区町村スポーツ少年団、競技団体、中体連・高体連など）と、どのような連携や協力が必要だと考えるかについて。

→具体的な意見については自由記述として後述。

4.自由記述一覧

問 10

<p>・〇柔道については、柔道部が存在する中学校が少ないため、柔道をやりたい生徒も他の運動部に入り、だんだん柔道から遠ざかってしまうことになる。〇柔道を指導できる中学校教員が減少してきていることが大きな課題である。このことは、中学校体育に柔道が必須科目となったことは柔道発展のために望ましいことだが、将来的な展望が見えてこないことにつながる。〇外部講師（授業協力者）も仕事等の関係で退職後の高齢者に頼る傾向にあり、先細りとなっていくことは否めない。</p>
<p>・学校のクラブ活動があるので小学校の団員だけの大会が多い。</p>
<p>・学校のクラブ活動との両立が難しい。・特に高校になると、練習への参加が難しい状況。</p>
<p>・学校部活動との関係が難しい。・部活動の顧問の先生と話し合う機会がない。先生方がそれを必要としない場合が多い・熱心な先生がいる学校は、スポ少活動に生徒が参加することを良しとしない傾向がある。</p>
<p>・学習塾により起こる活動の減少（進路との関係）・子どもの減少・活動場所（会場）が少ない。</p>
<p>・小学生の頃に、習い事をしてなかった子が、中学からスポーツを始めると練習を休むことが続いてしまう。</p>
<p>・中・高の部活動とスポ少活動の理念の共有が困難。・活動場所や技術・体力等の差もあり、指導が多岐にわたり困難。</p>
<p>・中・高部活動に時間をとられるため、イベント時の参加、活動手伝い、スポーツ少年団大会前等の稽古参加が精一杯の状況</p>
<p>・中学になると部活動になってしまう。・草津町には高校がない。・人数が少ない。</p>
<p>・中学校の練習日程と合わない（土、日を主体にしているため）・顧問の先生の方考え方が、少年団や、地域活動に合わせるというようになっていない・習い事が多くて土、日までやりたくない・高校生の場合、アルバイトをする人が増えている。</p>
<p>・部活等の調整が大変である（中・高校生）。・チームプレー（バスケ、サッカー、野球等）中心の競技は、個人競技（水泳、スキー）の練習参加に協力や支援が学校の先生方から得ることができない。冬季の練習に参加できない生徒や学生はレギュラーになれないと指導を受けて、練習に参加できない場合がある。・中学校・高校のスポーツ指導者には部活絶対主義があり、ジュニアの育成についてまったく理解がない。スポーツ少年団の活動は小学校までと思っている先生方がほとんどである。中体連、高体連等も全国大会で活躍している選手は、スポーツ少年団で育成された選手であることを忘れている。・スポーツ少年団指導者と中学校・高校の指導者との交流や情報交換が、まったくない。</p>
<p>・部活動との両立が一番の課題。</p>
<p>・1. 中学校、高校に部活がない。2. 指導者が少ないのでスポーツ少年団から外部コーチを派遣できるようにしてほしい。（簡単に派遣できるよう手続きを簡単に）3. スポーツ少年団をもっと理解してほしい。（中学校、高校に）</p>
<p>・本人の意思確認と環境の整備（練習時間の確保）</p>
<p>・10種目競技団体の複合団であるため、それぞれの加入団体の年齢が決まっており、高校まで継続する者がいない。高校進学者が釧路市内に進学する者が多く、学校運動部に加入する事から、継続する者がいない。</p>
<p>・いろいろな理念のある中、実際問題としては、大会があり、勝利をめざし、上位大会をめざしている。上位大会がないとなかなかやれない。</p>
<p>・クラブに剣道がない学校がある。</p>
<p>・サッカーは特に組織が全国統一して運営しているため、スポーツ少年団の意味が無くなって来ている。</p>
<p>・サッカーは部活動がメインになってしまうため、学校行事の一部となり外部指導者（ボランティアなど。）が参加しづらい環境になっている。</p>
<p>・ジュニア・リーダーやシニア・リーダー指導者として、残っていけること、大学等への進学や、就職（町外）などにより困難な面はある。</p>
<p>・ジュニアリーダーの資格を取る機会が少な過ぎる。人数制限があり、多くが参加出来ない。（2名のみ）年間何回も資格を取る事が出来れば、ジュニアリーダー数も、日独交流の人数も必ず増加する。</p>
<p>・スポーツの種目に注力し選手として活動してもらおうのか→人数は集まるがリーダー活動ではない。将来の指導者として、指導者の補助活動をしてもらうのか→人数集まらない。</p>
<p>・スポーツ活動なので、試合、大会が目標となるのは、あたりまえである。しかし、能力の差によって選手に選ばれない団員へ</p>

<p>のフォローをしっかりと行ない、続けていけばいつか選ばれることを問いておく必要があり、楽しかった事を心にきざむ事のできる指導をする必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の活動より部活が大切である。土日の活動が主である。
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団は（卓球）静岡県及び浜松市においても毎年ぬけていっています。卓球人口が減少しているわけではなく、少年団登録をしないということです。スポ少の存在意義が薄れつつあります！いいのか悪いのかわかりませんが・・・。
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団活動が小学生までと思っている傾向があるのか中学生、高校生の団員減少が伺えるので機会ある事にスポーツ少年団活動継続を意識する指導が必要。六年生を送る会があることから、六年で終わってしまうとの考え方が減少の要因。
<ul style="list-style-type: none"> ・スポ少団体が使用出来るグラウンド、施設が少ない（取るのに大変だ！）
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、小学生の団員の確保が大事だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・やはり勉強が中心（特に塾）。活動日が重なったらどうしても塾の方が優先となる。親が塾を優先（本人は出来れば続けたいと思っている）。
<ul style="list-style-type: none"> ・一番大きな課題と感じているものは、部活動との両立だと思います。又進学、進級にともなう学業との両立も課題のひとつと考えています
<ul style="list-style-type: none"> ・我が支部は「危機管理に強い」というキャッチフレーズで独自の研修を行っています。自分自身の震災の被災経験を学習プログラムにしたサバイバルキャンプや、ダンボールを使って非難所のダンボールハウスを作って一泊したり、東北地方の芋煮会のようにみんなで鍋を囲んで調理する鍋研修など、人間力を育成する事に重点を置いています。これはうちの目玉です。人間の心が育つ為には色々な事をどんどんこなして体験を積んで、いいリーダーになってほしいと思っていますが、なかなか、それが理解されないところです。（他者よりも自己が大切に、自分のキャリアの為にしかしない人がいた。）楽しいプログラムにはどんどん参加していますが、リーダー会の裏方など、縁の下の力持ちなど、人の役に立てることで喜びを感じる人にまでなかなか育っていません。明日の県・市を支えるリーダーを養成するお手伝いができればと思っていますが、なかなか満足のいく結果になっていないので、バランスのとれた人材育成と他の人の幸せをも考えられるようにする道徳観や偏っていない宗教観もとり入れながら人としてのあり方を説いた事を含めた活動をしてきたいと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・学業との両立
<ul style="list-style-type: none"> ・学校でスポーツ少年団活動への理解、協力などがあれば活動をする。中学生、高校生も増えるが、部活、受験などもある中で、スポーツ少年団の活動を継続させるには、やはり、学校が部活動と同じレベル評価してくれるような環境が欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での部活に取られてしまう。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での部活動が主になり、あまり強く活動を言えない。学校教員に理解してもらえないことが多く非常にやりにくい。学校教員の協力があればもっと活動出来ると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での部活動や、他の活動（塾や教室）と重なる時間帯に少年団活動が重なり、少年団活動を退団することが多い。特に高校生のスポーツ少年団活動への理解がない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の部活と時間帯が同じ事。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の部活動が忙しくスポーツ少年団活動に参加できない。（部活が休みの時は、スポーツ少年団の活動時間に）参加する場があるが少ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の部活動とスポーツ少年団の活動は両立は難しいと思います。どちらかに重きを置いて活動せざるを得ないと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の部活動とスポーツ少年団活動に壁が有り、部活指導している先生とのコミュニケーションが取りにくい為なかなか入って行く事が出来ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運動部の活動が忙しいことがあると、なかなか活動に参加できなくなり、次年度の登録をしなくなるケースがある。年に数回の活動参加でも価値を感じる活動内容にすることが課題である。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運動部活動の練習がほぼ毎日あるので、スポーツ少年団活動と両立させることが難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事との両立が困難。中体連主催大会（平日）の指導者派遣が困難
<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動との日程・指導方法等の兼ね合い。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習・塾等で多忙になる。

<ul style="list-style-type: none"> ・学習塾が問題です。ほとんどの中学生が部活動後、学習塾に通ってます。保護者も塾に力を入れており、一緒に活動する時間がない！！
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の場所が余り確保されていない。（場所の確保が大変である。）
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の中心となる体育館があまり使用できない。（村に体育館が1つしかないので多くの種のスボ少がゆずりあっています。）
<ul style="list-style-type: none"> ・活動種目が中学校のクラブ活動に無い場合どうしても志気が高まらず活動が停滞する傾向にある。
<ul style="list-style-type: none"> ・近年、少子化の上に、種目によりかたよりが大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ・近年は野球をする子供の数が減っているため年々人数は少なくなっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・剣道の特殊性から、中学生が積極的に参加しない。3Kの競技であり、団員数の減少が問題である。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在我がスボ少も20人24人と小中44の大勢の団員をかかえてやっていますが今がピークで後のことを考えると不安があり、それはスボ少育成指導者の数など子供の少子化という問題であります。
<ul style="list-style-type: none"> ・現状では種目が水泳ということもあり一番活動日数の多い夏休みに自由参加の型を取ってますが、新入団員に慕われ一度出て来ると、続けてくれます。自分自身の活動の場所を見い出せれば喜んで参加してくれる様です。
<ul style="list-style-type: none"> ・現代では余暇時間の利用については選択の幅があり、児童、生徒が必ずしもスポーツを選択する状況ではなくなっている。当団では中学生のスポーツ少年団への参加は半ば習慣化しているが、数年前に比べてその風潮が薄れてきているところが問題だろうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・校区に総合型地域スポーツクラブ「とまこまい・あそび塾」があり、そのクラブ部門に所属しながらクラブ活動に取り組んでいます。その為、地域の方々の支援も多くあり、問題等はありません。ただ冬期間の練習場所確保に苦労します。外部活動の為、学校の体育館、廊下を使用出来ないなど。
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の一部にはコーチになってもらっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の技術向上に対応できる指導力をもつ指導員が不足している。そのため高校生の要望に十分こたえられてない。
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生は父兄のチームに入っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・高校入学の新生入生に部活動の一環としてなぎなたの形リズムなぎなたなどを公開している。
<ul style="list-style-type: none"> ・市公営施設が今までは減免で活動していたがNPOに変わって有料になり市内の小、中学校の施設がミニバスのクラブ活動や部活動の活動で場所の確保が難しくなった。中学校の部活動との関係があり最近の若い顧問の先生方の理解が難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・指導力向上。コーチのレベルUP。
<ul style="list-style-type: none"> ・私たち、地域では、小中学生が一緒という考えで、高校生は別な考えです。
<ul style="list-style-type: none"> ・私共の団は高校生の入団はしていません。中学生は小学生からの継続が多いです。中学生になってからの入団はごく僅かです。 ◎最近中学生の入団はありません。現在団員も再加入は6月の中学校大会市予選会で最後でしょう。特に3年生は予選会にベストラインに入らないとそれで終わりです。男子は途中で退める者が多いですね。理由は受験の為ですね。残念です。
<ul style="list-style-type: none"> ・時間がなく、部活との両立が難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・実質的な活動はしてなく、名前だけの登録の単位団が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・受験の際、参加しなくなる。
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校を卒業して、中学、高校に進学すればクラブ活動に入り、夕方迄練習を行って帰宅する為、少年団活動は難しく成って来ました。夜は勉強、勉強となります。卓球で県内でも上位進出が可能な選手でクラブにメリットがあれば団員として、継続して参加してくれます。今後はスポーツ少年団活動が非常に難しくなってきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校時に団活動をして、中学に入学して部活動に入った時点でスポーツ少年団の活動が無理となる。中学は顧問がおり学校教育活動として部活動の指導を行う。また、スポーツ少年団の活動種目が中学にないため、継続できない。
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の単位スポーツ少年団名での大会参加はあるが中・高校生では、学校名での大会参加になってしまい、出場したい大会があっても学校の許可がなければ参加出来ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・少年団活動の楽しさを理解させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・少年団活動の趣旨は理解しているが、中学生の参加できる行事等が少なく、実際のメリットが感じられない。

<p>・進学先の部活顧問との連携がうまくいけば活動継続は可能ですが、名目顧問のようなスポーツに理解の少ない方の場合、難色を示すときがあるようです。自主性だけでは、動けないのが、子供、生徒の現状です。</p>
<p>・人数（加入）が多いため、一人一人（個々）の技術指導が、こまかくできない。練習場所の確保、指導者の不足と指導者自身の指導としての能力UP。初心者からある程度技術のある選手との練習方法（指導者が必要）。中学生以上になると、スポーツ少年団活動というより、技術を学びたい方が強い。</p>
<p>・全校生徒が50人にも満たない小規模の中学校などは、各学校の部活動に新入生は入部させたいと考えておられます。理由は、野球やバレーなど団体競技のチーム編成ができないからです。従って小学校からスポ少で陸上をやっていた子どもたちなどは、その地域の中学校に入学する関係で続けられない現実と向き合うことになるのです。</p>
<p>・卒団式を行わない。中・高生の団登録の門戸を開いておく。団指導者の積極的な、部活動への参加。中・高生の団の中での役割の付与。</p>
<p>・卒団制度をやめさせること（野球など中学に部活がある種目で中学生になると強制的に卒団させる）少年団のリーダー制度を活用し日頃から子供達とコミュニケーションをとり、上級者（生）が下の者の世話をする、指導をすることがあたりまえとの認識を共有するように努力する。</p>
<p>・卓球部のない学校に入学して、試合に出られず、スポーツをやめてしまう。</p>
<p>・団の方針として、指導者が引っぱっていかないと、リーダー会の活動はむずかしい。</p>
<p>・中、高校生でのクラブ活動と、スポーツ少年団との両立は時間的にも困難である。中体連、高体連、スポ少がそれぞれ独立して、行事を行なっている為試合等も、日程が合わない事が多い</p>
<p>・中、高校生は部活との両立がむずかしいですね！</p>
<p>・中、高生となるとスポーツ活動は、学校部活動となり、指導者も練習も学校で実施するため、スポーツ少年団から脱退する。</p>
<p>・中・高校生が参加できるイベントが沢山あると良いと思います。</p>
<p>・中・高校生は部活の関係でスポ少活動にすべて参加できない。</p>
<p>・中・高校生は部活動があり、基本的にそちらに所属し、活動している。部活動でのコーチ、顧問との関係の中で育ててほしいと考えているので基本的に中・高生のスポーツ少年団活動は歓迎しない（あくまでも支援する立場でいます）。</p>
<p>・中・高生は、スポーツより、勉学と考えている学生、親が多く、継続してやる者がいない。</p>
<p>・中学、高校の部活動指導者（監督）との連絡調整が必要。</p>
<p>・中学、高校生（当少年団OB）に、指導者と合同の「ソフトボールチーム」を結成して、逗子市三浦市葉山町の大会に参戦して交流は図っているが、これがスポ少のリーダーとまで発展していない。</p>
<p>・中学2年生で皆、塾に行き始めて練習に来なくなる。中学3年生で来るのは何人かになってますので無理には言えなくて悩んでいます。</p>
<p>・中学3年生は受験のため1シーズン休みになってしまう。</p>
<p>・中学校では空手を指導できる先生が居ないので空手の部活ができない。スポーツ少年団で空手導を指導している人（有資格者）が中学の部活動を指導できるようにしてほしい。</p>
<p>・中学校に①空手道部をつくる②武道科として空手道を採用してもらうことです。</p>
<p>・中学校の生徒数が少なく新人戦等2学年での大会参加がむずかしい。</p>
<p>・中学校の部活の先生方や中学校との連携を図ることの難しさ。</p>
<p>・中学校の部活動が主となる為、スポ少・大会・交流会に参加しにくい。又、競技種目（柔道）の部がほとんど無い為、他種目の部へ入部する為、だんだんと離れて行ってしまう。高校生参加の大会はほとんど無い為、リーダー交流等が主となり学生にとっては、競技大会の方が関心が強い。</p>
<p>・中学校の方針で必ず部活動に入部し、活動しなければならぬが、生徒数減少により、廃部となってしまった。当団体は学校との協議により、部活動の活動時間同等の活動をし、各活動に対し、必ず指導者がいることを条件に部活動に準ずる団体として認められました。他の団体も含め、部員数の確保が困難になっている。</p>
<p>・中学校以上の活動は部活動としての活動になるので、希望する部が学校にないならスポ少入団を考えるだろうが、ほとんど学</p>

校での活動だから、スポ少に入る必要がない。
・中学校運動クラブの土日等の活動。
・中学校部活動の補助的面が多にあるので、本来のスポーツ少年団活動とは少しちがうのかも知れない。そんな中で中学校の事業が多すぎて活動の調整がむずかしくなっている。
・中学生、クラブ活動で継続不可に近い。高校生、活動の場がない（楽しく出来る）。
・中学生、高校生になるとクラブ活動があり少年団との交流があまりできません。そのためリーダー等の継続はむずかしく、ほとんどの団員がやめていく。
・中学生になって部活動をするようになると、スポーツ少年団との活動が競合するため、団員であってもスポーツ少年団活動を継続することがむずかしくなる。ジュニアを経て、シニアリーダーになって団に残った者は日常の少年団活動に積極的に参加してくれるが・・・。
・中学生になると、学校の部活動又は他の団体活動が中心となり、この地域では受皿がない。
・中学生になると、部活（他種目）との両立は大変むずかしい。
・中学生は、中学校のクラブ活動（部活）に重点が置かれているので、小学校との合動活動は計画、実施できない。
・中学生は学校の部活に必ず所属する事になっていて、少年団の活動と両立するのが難しい。
・中学生は数校の部活動を集めて、道場活動にて指導している。高校生になっても続けることを推奨しているので高校の部活と道場活動を両立することには無理がある。
・中学生は特にメリットがないので、継続して加入させても意味がないので、今後は自主的加入とする。加入は数名に留める方向である。
・中学生大会が少ないのでもっと多く希望します。
・中学部活における、体育館使用が限られており、スポーツ少年団活動を行なうことにより、小中連携出来、小学校体育館を使用して活動しております。子供たちのスポーツ活動に支障をきたさないように、努力しております。
・中学部活動との連携がとれていない。
・中高の部活動、サークル活動、その他通学の問題などで活動や時間調整の難しさがある。また、新たな活動、小活動を求める時期であり、発達の段階も考慮すると継続に難しさがある。
・中高生は部活動が中心であり、スポ少としての活動には限界があります。
・中体連、高体連との関係 指導者の不足等。
・中体連、高体連との連携。
・中体連・高体連の行事とのかねあいで、参加する機会が、限られるため、スポーツ少年団への登録費用が割高に感じられる。
・土日練習の為少年団活動は出来ない。
・当団では、中・高校生・大学生のリーダー用の活動として、小学校体育館の学校開放（土曜日の19:00～21:00）を受けています。団のマラソン大会などの行事準備や会議の場としても利用しています。こういうリーダー達だけでスポーツ活動が定期的にできる場の確保が難しいようです。例えば船橋市スポーツ少年団リーダー会などは、構想はあるものの定期会議場所が無く、尻すぼみになってしまいます。
・同じ団 中学を母体に、小学生を育成しています。
・特に、中・高校生の部活動に入部した者の少年団の活動継続。
・二重登録不可などがあります。
・武道であるので継続して小、中、高、一般と継続して出来るように配慮している。
・部活で、なかなか団活動へ参加出来ない。
・部活と両立するためには保護者の理解が不可欠。また、部活顧問が、少年団を理解し、協力するまでになるためにも保護者の協力が必要。
・部活に加えてスポ少で稽古する体力やモチベーションを維持するのが難しい。

・部活の顧問がスポ少の子供達をとりあげ、さも自分が作りあげたチームの如く振る舞う。親もスポ少の指導者より学校の先生のパワーハラスメントに負けて学校側の言いなりになる。学校は勉強をする場が主でなくなり、部活で将来の道さえも決定しようとしている。学校の部活の問題とスポ少の関係をはっきりさせないと子供達（中・高生）がスポ少で活躍する事は困難である。
・部活動、クラブチーム、スポーツ少年団とまったく連携なく、バラバラな感があり1つの競技を続ける上でむずかしい点があるように思う。
・部活動が中心で少年団としての活動を行う時間はない。
・部活動との協力調整。
・部活動との両立。
・部活動との両立。
・部活動との両立が時間的、体力的に難しい。
・部活動との両立だと思うが、本団では部活動を優先し、団活動に来れる時に来れば良いことにしている。
・部活動との連携。
・部活動と少年団活動についてどちらで活動しても認められるような制度の導入があれば少年団活動も継続してできるのではないですか。
・部活動の予定が不明（ほとんど休みがない）。
・部活動顧問との連携が必要。土・日はスポ少の活動を優先してもらおう。特に交流会には、部活を休んで参加してもらおう。
・部活動優先となり、イベントや練習試合で誘っても、集まりにくい。
・勉強（塾）との併用。
・勉強との両立（時間帯への配慮が難しい）練習はいつも夜の為。
・勉強の両立 学校ごと時間がバラバラなので、集めるのが大変。
・保護者（協力者）の位置付け。
・保護者の理解。
・保護者の理解。団員は練習したくても、保護者の理解、送迎等の協力なしには、なりたない。
・高校生をスポーツ少年団に入れることは、（今の高体連所属の生徒）私のところでは、最初からやっていません。また技術的にも中学生までは、指導者も教えられるが高校生までは教えられない。

問 11 （1 ある と答えた際の大会名）

（中学生のみ）総合体育大会	スポーツ少年団リーダー大会
U-14クラブチャンピオンシップバレーボール秋田県大会	スポーツ少年団愛知県交流剣道大会
アライズリーグU15	スポーツ少年団剣道大会
ジュニアカーリング大会	スポーツ少年団剣道大会十勝予選会
ジュニアリーダーバスケットボール大会	スポーツ少年団剣道大会
ジュニアリーダ交流大会	スポーツ少年団交流大会
スポーツフェスティバル、ロードレース大会	スポーツ少年団交流大会
スポーツマーケット	スポーツ少年団交流大会
スポーツ少年団交流大会、全国大会	ななかまど剣道大会
スポーツ少年団春季交流大会、スポーツ少年団秋季交流大会	バドミントン中学生交流大会
スポーツ少年団全国大会（予戦会）	もみじカップ、クルセーダカップ
スポーツ少年団全道剣道大会	愛知県スポーツ少年団剣道交流大会
スポーツ少年団大会（サッカーetc）	愛知県スポーツ少年団交流剣道大会

スポーツ少年団大会（春、夏、秋）	愛知県スポーツ少年団交流大会
スポ少交流大会	安芸郡空手道選手権大会
スポ少交流大会	茨城県スポーツ少年団スポーツ大会
スポ少大会	茨城県スポーツ少年団スポーツ大会 水泳大会
つくば市長杯	茨城県スポーツ少年団ソフトテニス大会中学生の部
つくば市長杯剣道大会	宇都宮市スポーツ少年団交流大会
茨城県スポーツ少年団大会	宇都宮市スポーツ少年団交流大会
茨城県スポーツ少年団大会	駅伝交流大会
茨城県スポーツ少年団卓球大会	駅伝大会
宇都宮市スポーツ少年団剣道交流大会	駅伝大会、親子レクリエーション
奥伊勢地区小中学生バレーボール大会	京都府スポーツ少年団サッカー大会
岡崎市組討道大会	京都府スポーツ少年団剣道交流大会
岡山県少林寺拳法大会、倉敷市大会	京都府スポーツ少年団本部長杯
岡山市スポーツ少年団秋季錬成剣道大会	京都府スポーツ少年団本部長杯中学生軟式野球交流大会
岳南剣道スポーツ少年団・富士市スポーツ少年団剣道大会	京都府スポーツ少年団本部長杯中学軟式野球交流大会
岳南剣道スポーツ少年団大会	競技別交流大会
岩国市スポーツ少年団剣道大会	空手道交流大会
岩手県知事杯争奪少年柔道大会（小中学生のみの参加）	栗原市選抜ソフトテニス大会
岐阜県スポーツ少年団大会 中津川市スポーツ少年団剣道大会	群馬県スポーツ少年団大会
富士市スポーツ少年団剣道大会、海音旗争奪戦	群馬県スポーツ少年団大会・柔道交流大会
宮崎県スポーツ少年団中央大会	郡民体育大会、個人戦学生の部
宮城県スポーツ少年団空手道交流大会	剣道大会
宮城県スポーツ少年団剣道錬成交流大会	県、地区
宮城県スポーツ少年団交流バドミントン大会	県・J rリーダーズスクール等
宮城県スポーツ少年団交流大会	県・市・交歓会
宮城県剣道道場連盟主催全国少年剣道大会	県スポーツ少年大会
京都府スポーツ少年団サッカー大会	県スポーツ少年団
県スポーツ少年団フェスティバル	県スポーツ少年団中央大会
県スポーツ少年団空手道交流大会	県スポーツ少年団野球交流大会
県スポーツ少年団交流大会	県スポーツ大会（錬成会）
県スポーツ少年団主催バスケットボール大会	県スポ少卓球大会
県スポーツ少年団大会	県スポ大会
県スポーツ少年団大会	県演武大会、市演武大会
県スポーツ少年団大会（2泊3日の宿泊交流事業）	県及び市中学生交流バドミントン大会
県スポーツ少年団卓球交流大会	県競技別交流大会
県スポーツ少年団卓球交流大会	県主催のスポーツ少年団大会
県総合体育大会県南地区予選	広島市スポーツ少年団大会
県中央大会	広島市スポーツ少年団中学生軟式野球大会
県北ブロック駅伝大会	港区春季大会、秋季大会
県例会	合同結団式
源平青少年大会	埼玉県スポーツ少年団ソフトテニス大会中学生の部

交流大会	埼玉県スポーツ少年団柔道大会
広島県（広島市）スポーツ少年団バレーボール交歓大会	埼玉県スポーツ少年団柔道大会（小、中のみ）
広島県スポーツ少年団柔道大会	埼玉県スポーツ少年団大会、戸田市スポーツ少年団大会
広島県民体育体会	埼玉県スポーツ少年団中学生中央大会
広島市スポーツ少年団剣道交歓大会	埼玉県ソフトテニス中学生大会
広島市スポーツ少年団新春剣道交歓大会	埼玉県北部ブロック予選会
山形県少年少女スポーツ交流大会16種目あり、中学生が参加できる種目がサッカー、トランポリン、ほかある。	札幌市スポーツ少年団交流大会 小中学生のみ高校生は補助役員として参加。
埼玉県大会、郡市連大会	札幌市民体育大会、北海道乗馬スポーツ少年団交流大会
埼玉県複合種目大会	三重県スポーツ少年団剣道交流大会
広島県スポーツ少年団バレーボール支飲大会	市スポ少剣道大会
市リーダー研修会県スポーツ少年団大会	山形県少年少女交流大会サッカー競技中学生の部
市及び県スポーツ少年団大会	市、県スポーツ少年団大会予選等
市秋季剣道大会	市スポーツ交流大会、市バドミントン、県バドミントン
市少年団交流大会	全国スポーツ少年団剣道交流大会県内予選会
市川ラグビーフェスティバル	全国スポーツ少年団剣道大会
市民体育大会、岩手県下少年剣道大会、みちのく大会等	全国スポーツ少年団交流大会県予選会
市民大会	全国スポーツ少年団予選大会等
滋賀県スポーツ少年大会、全国スポーツ少年大会	全国剣道スポーツ少年団交流大会
秋田県スポーツ少年団種目別大会	全国剣道交流大会 岐阜県大会
春季大会、秋季大会、少年団大会等	全国道場少年剣道大会・兼県大会予選会
小・中・高校生個人戦大会（剣道）市内市長杯	全軟連大会
小・中学生の大会 群馬県スポーツ少年団剣道交流大会	総体少年野球大会
少年大会（県）	村民剣道大会
少年団県大会	多数有
常滑市剣道スポーツ少年団剣道大会 稽古納め大会	袋井市スポーツ少年団交流大会
神奈川県スポーツ少年団空手道交流会	大けやき杯（G I T T主催）
水泳大会、スキー大会（個人参加なので）	大ケヤ木大会
水上地区ソフトテニス大会・群馬県スポーツ少年団交流大会	大村杯 羽賀杯
静岡県クラブユース連盟	大分県少年の船
みどり市スポーツ少年団近接剣道交流大会	第31回千歳少年少女柔道大会
愛知県スポーツ少年団剣道交流大会	卓球の県大会（スホ少）
藤沢市スポーツ少年団空手道交流会	知事杯
石川県スポーツ少年団剣道交流大会	地区、県スポーツ少年団競技別交流会
千葉県交流大会、柏大会、千葉市大会、成田市大会	地区スポーツ少年団大会、サッカー部門
前橋市民剣道大会	地区団員交流大会、市団員交流大会
秩父市スポ少主催、弓道スポ少大会	東京都高校なぎなた大会
秩父水泳スポーツ少年団交流大会	東京都大会、ブロック予選
中央大会	東北ブロック柔道大会
中学校の大会 地区大会	栃木県スポーツ少年団体交流大会
中学生に限り、「ジュニアリーダー交流大会」県、および市	栃木県スポーツ少年団卓球交流大会

中学生交流大会・いちごカップ	南都留スポーツ少年団卓球大会
中学生大会（市長杯、会長杯、交流大会）	軟式野球大会
長崎県スポーツ少年団交流大会	日立市スポーツ少年団交流大会
長野県スポーツ少年団競技別交流大会	日立市民剣道大会
長野県スポーツ少年団県競技別交流大会	平成25年度近畿ブロックスポーツ少年団剣道交流大会
渡島管内スポーツ少年団交流大会	白山、野々市スポーツ少年団剣道大会（中学生）
東京都スポーツ少年団大会（中学生のみ）	浜松市スポーツ少年団交流会
東京都スポーツ少年団大会、足立区スポーツ少年団大会	富山県スポーツ少年団競技別交流大会運営補助員
富士地区剣道大会	たつの市スポーツ少年団空手道大会
福井県スポーツ少年団大会	豊橋市スポーツ少年団剣道大会
福島県クラブ選手権	北海道スポーツ少年団リーダー研修会
福島県スポーツ少年大会など	北海道スポーツ少年団大会 スピードスケート競技会
福島県選手技大会、接骨大会、学年別体重選手権	北区ジュニア大会、スポ少野球大会
兵庫県スポーツ少年団空手道大会	北上ジュニアバドミントン大会
本部長杯	和歌山県、市スポーツ少年団剣道交流大会、近畿大会
名古屋市組討道大会	和歌山県スポーツ少年団競技別大会
目黒区スポーツ少年団野球大会（春・秋）	北上市スポーツ少年団カップバドミントン大会
兵庫県スポーツ少年団剣道交歓大会	北上市アイガーカップバドミントン大会

問 12 （1 ある と答えた際の大会名）

U-14クラブチャンピオンシップバレーボール東北大会	関東ブロックスポーツ少年団 競技別交流大会（野球）
ジュニアリーダーズスクール	関東交流大会
スキー大会（県スポ大会等）	関東大会
スポーツ少年団ソフトテニス大会	宮城県スポーツ少年団空手道交流大会
スポーツ少年団県大会	桐生野球大会、春日部野球大会
スポレク大会	近畿大会・全国大会
ゆりがねマラソン大会	近県青少年剣道大会
リーダー会交流会	九州ブロックスポーツ少年団空手道交流大会
愛知県の中学生大会	九州ブロック大会
羽生市スポーツ少年団野球大会	空手道交流大会
各地の組討道大会	群馬県中学生スポーツ少年団交流柔道大会
九州ブロック大会	県・地区スポーツ少年団剣道大会
空手道交流大会	県下錬成大会、その他
群馬県中学生スポーツ少年団交流柔道大会	県及び市中学生交流バドミントン大会
交流大会等	全国で開催される空手の大会
広島県民体育大会	全国中学生少林寺拳法大会
高校総体	全道予選会
埼玉県スポーツ少年団空手道大会	全日本剣道道場連盟大会
埼玉県北部ブロック予選会	中央ブロック大会、東京都スポーツ少年団大会
三重県空手道連盟主催の試合	東根市新体操発表会
山梨県体育祭り夏季大会	東北ブロックスポーツ少年大会など

山梨県南都留市スポーツ少年団フロアボール交流大会	南幌少年柔道大会
自分の団の行事（合宿やスポーツ大会等）	富山県スポーツ少年団競技別支流大会
所沢市スポーツ少年団主催、弓道交流大会	富山市・富山県少年剣道大会
晴れの国リーグU15	福山バラ杯大会、伊藤杯空手道大会
千葉県スポーツ少年団オープン大会（中学生のみ）	北海道スポーツ少年団水泳大会
全国スポーツ少年大会、ブロックスポーツ少年大会	北備剣道大会等、多数
全国スポーツ少年団剣道交流大会	本部長杯
和歌山県市スポーツ少年団剣道交流大会近畿大会	毛呂山町「ゆずの里大会」

問13 (1 ある と答えた際の大会名)

ニュルンベルクスポーツユース青少年交流事業	沖縄県青少年交流事業（糸満市、今帰仁村）
ウォーキング大会	駅伝
おみこし、ウォークラリー	岡崎市スポーツ少年団スキー研修
ジョイスーツ（会津若松市）	夏祭り
スケートキングダム	各種サッカー大会
スポーツレクリエーション、マラソン	喜多方柔道大会
スポーツ少年団交流事業	栗原市民ホッケー交流大会
スポーツ少年団交流事業	群馬県新町との地域間交流事業
スポーツ少年団主催ニュースポーツ大会	健心会
スポーツ少年団豊科支部冬季交流会「新春駅伝大会」	剣道大会
スポレクフェア	戸田リンピック
スポ少フェスティバル	呉市ジュニアリーダー研修会
チャリティーベースボール	交歓大会、スケート、ボート体験教室、弓道体験教室
つくば市スポーツ少年団交流会	交流大会
ドッチビー大会など	港区小・中学生野球大会
マラソン大会（市主催）	高梁川クリーン作戦
みよしスポーツフェスタ	合同練習や、ボランティア活動等
ゆずの里ジュニアリーダーバスケットボール交流大会	埼玉県剣道交流大会
ラグビー県大会、新人戦、九州大会、全国大会	埼玉県東ブロック大会、ロードレース大会
リバーサイドウォーキング、スポーツカーニバル	市スポーツレクリエーション大会
茨城県ジュニア・リーダースクール	市スポーツ振興課主催のイベント等
運動会、キャンプ	市交流大会ジュニア、離島宿はく体験
栄光への道空手道交流大会	市主催の行事、マラソン大会、清掃、スポ少交流大会
市民センターふれあい祭り	市民スポーツ祭
市民弓道大会	清掃活動（ボランティア事業）
市民剣道大会、交流剣道大会、郡市大会	生涯学習フェスティバル、地区の運動会、地区文化祭
市民体育祭	西部地区交流大会
市民体育祭	青少年まつり、三市青少年の船
市民体育大会、歳末たすけあい共同募金	石巻体育協会少年交流スポーツ大会（マラソン）
市民大会	雪まつり（竹スキー協力）、燃えれ！わが街
十王地区運動会（主催：十王地区コミュニティー推進会）	千葉県スポーツ少年団地域交流大会

商工祭	全道水泳交流大会
小・中構成の団体戦	組討道連盟合同稽古
少中交流会	総合型地域スポーツクラブとまこまい
少年団地区大会	体力測定等
常滑市スポーツ少年団フェスティバル	第4回和歌山県スポーツ少年団スポーツ少年大会
深谷市スポーツ少年団レクリエーション大会	瀧澤榮八杯少年剣道大会
神社の清掃活動（奉仕）	段別剣道大会
親子レクリエーション・新春マラソン	地域の文化活動に参加、演武等の実施
瑞穂市駅伝大学	地域マラソン大会
地域交流事業	千葉県スポーツ少年団リーダーズクラブ交歓会
地域清掃、河川清掃、など	あそび塾主催スポーツ交流大会、氷上スポーツ大会等
地域清掃活動	秩父ソフトテニス市民大会
地区の小学校の「田子っ子まつり」	中学生が所属してる少年団との練習会
地区秋季運動会	町駅伝大会、本クラブ主催大会
地区小学中学校柔道大会	町民運動会、学校清掃等
地域のソフトテニス連盟主催のオープン大会等	調布市なぎなた大会、三鷹市なぎなた大会
東海道どまん中ふくろいつデーウォーク	津島市民総合体育（剣道）大会、愛知県警察少年剣道大会
敦賀市ジュニア強化大会	防災パレード、3世代レクリエーション大会
那須地区交流会	名古屋弓道協会スポーツ少年団交流会
浜松市スポ少合同大会	目黒区中目黒5丁目町会祭礼
福島県中学生野球交流大会	耶麻少年剣道大会「秋冬2回」→小中学生のみ
兵庫県乗馬スポーツ少年団交流大会	友好都市との交流事業等
平野部剣道交流大会	鈴鹿シティマラソン
奉仕活動でゴミ拾い	練習試合（ベニ花杯）

問 15-1 学校の理解を得るために工夫していることについて

・子ども達へ学校への挨拶の実施・運動場の清掃（グラウンド整理）。
・情報交流を密にする。
・正しい指導を行ない、先生、保護者の信頼を日々の活動から得ること。
・中学校部活への外部指導、中体連大会への審判支援・行事計画の提供。
・部活動顧問及び保護者との連絡調整、協力依頼・部活動への外部指導者派遣。
・1、コート整備を生徒、親の会、協会員全員で行なっている。2、社会奉仕活動として涌谷神社の清掃活動を行なっている。
・①練習や大会等が重なれば学校を優先するようにしている。②長期休業中に、練習会を設定し、参加費無料で練習方法などを紹介している。③技術講習会等の講師依頼を毎年受けている。
・お互いの弱点をおぎないあっています。
・グラウンドやトイレなどの清掃を必ずしています。
・グラウンド（校庭）を貸してもらっている。
・グラウンド整備。
・スポーツ少年団が計画する行事に学校側代表者の出席の呼び掛け。
・スポーツ少年団の事業等について、中学校顧問を通して、情報交換をしている。
・スポーツ少年団以外の大会は、学校優先としている。

・スポーツ少年団活動を、子供及び保護者の意志として選択させ、高校受験にもプラスになる等、担任や顧問と話をしようお願している。
・スポーツ少年団代表の許可を得て、大会に参加をしている（可入している部）。
・スポ少指導者と、部活動外部指導者の兼務。
・つねに、打合せを行ない、連絡調整を行なっている。学校訪問を定期的に行なう。
・なるべく、学校行事には、参加するように、しています。
・一緒に大会（スポーツ少年団の）運営、市民大会の団体戦混合参加指導者による指導、合同稽古。
・加入チラシの配布をおねがいでいる。
・外部指導者として、スポ少大会の結果報告を校長にしている。
・外部指導者としての位置づけで学校の体育主任と交流。
・外部指導者として学校に協力し、顧問の先生とも協力しあっている。
・外部指導者として活動し理解を得ている。スポーツ以外での交流。
・外部団体として会議に出席。
・各種大会での交流。
・各種大会等の支援や参加。
・学校・顧問・保護者との連携をスムーズにする。
・学校・父母・スポーツ少年団（外部コーチ）と密に連絡を取り、協力しあっている。
・学校に団員の保護者及び指導者が出向き報告をする。
・学校の顧問との交流。
・学校の施設を少年団活動の為に使用させてもらっている為、学校の活動にも協力しているし、後援会協力している。
・学校の施設開放委員会に参画し、校庭清掃等に協力している。
・学校の清掃等のボランティア活動。
・学校の先生と連絡をとりながら調整をしています
・学校の部活動方針にあわせた指導と定期的な話しあいをしている。
・学校の要望には答えるようにしている。服装や持ち物に関することや、テスト期間の活動など。
・学校運動部活動を優先させている。
・学校運動部担当先生との連絡を密にすること！
・学校関係の大会等へ審判として積極的に参加し、顧問と話す。
・学校教員も練習に参加、見学をさせている。
・学校行事には、何があっても必ず参加する。
・学校行事優先。
・学校柔道部顧問との連絡調整。
・学校責任者との交流。部活動の外部コーチとして交流している。
・学校設備等の清掃活動。
・学校側との話し合いの場を設け、意見の交換、調整をしている。
・学校側の行事の把握をし、優先させるようにする。大会時の応援に行くようにしている（指導者や少年団員（小中校問わず））。
・学校体育館の掃除、地域活動（運動会、餅つき大会等への）参加。
・学校長以下教員達との人間関係、構築。
・学校部活と連携した活動ができるように調整を行う。
・活動時間は部活等と重ならないようにしている。テスト期間は（感染症流行時）スポ少活動も自粛している。
・活動場所（体育館）の提供、顧問との連絡。

・活動内容の説明を行なっている。
・機会があれば話し合っている。
・技術だけではなく中学生らしい行動も指導しているつもり。保護者の方が学校との連絡を密にさせていただいている。
・教育委員会社会体育課を通して体育館の使用に対して話し合いをしているがなかなか理解がえられない。
・業事が重複しないよう予定のすりあわせ。
・継続的な地域の大会への参加と顧問との調整。
・決して部活動のじゃまはしない。陸上大会が今回は部活動から参加すると言った場合そちらを優先します。
・月一回程度学校訪問。
・現在2名の高校生がいるがその高校生の先生と練習状況を報告して、理解を求めている。
・顧問との情報交換。
・顧問との情報交換、交流試合。
・顧問の先生との協力育成。
・顧問の先生と連絡を密にしている。
・交流。顧問との信頼関係構築（情報共有）。
・交流と親睦。
・公認指導者、審判員。
・校長先生、部活顧問との連携を密にしている。
・高森町のスポーツ少年団事務局が、町の教育委員会にあるため、学校の理解が得やすい。
・合同練習、大会への合同参加、応援、小学校スポーツ少年団→中学校部活入部→高校生スポーツ少年団復帰。
・参加する事業の開催要項を団員や保護者が学校（教員）に提示する。
・子供たちの活動報告を学校に報告している。
・指導者が大会の引率をする、指導するなど。
・指導者が直接、学校長を訪ね懇談。定期的に継続する。
・指導者が連絡調整。
・指導者の連携、交流。
・試合報告をしあう。
・資料の提供（クラブ→学校へ）。
・時々、学校に出向き指導助成に参加。
・時々学校の部活に顔を出し、アドバイス等行なっている。
・実際スポ少の練習に参加するのは、中学校で練習ができない日のみ。練習内容の指示も中学校からは特になく、まかせて頂いている。
・種目が水泳なので中学校の水泳部に連結している。
・柔道授業の際、教職員にも柔道の教育的効果を説明している。
・重なる場合は部活有先（学校）。
・勝利優先ではなく、部活動を通じて様々なこと（礼儀、物を大切にする心、人の和等）を教える。又、上手、下手に関係なく努力することの大切さと、生徒を公平、平等に扱うこと。
・小学生部会で、試合等を経験し、全国大会、東北大会等で、すでに活躍している子供が多く、中学校顧問も、この先、どう指導していったらいいのか？悩むところもあり、連絡を取り合い、外部指導もしている。
・上手する（技術力アップ）。
・常に学校とコンタクトをとっている。
・情報の共有。

・生徒を通じて大会の結果等を報告。
・説明努力をしております。
・先生とのコミュニケーション実施。
・選手の派遣依頼等。
・全国大会と聞けば、喜んでくれる。
・早目に予定表を渡すことと、重なった場合は学校を優先。
・相互の情報交換。
・大会、行事の連絡
・大会の結果報告を随時行っている。
・大会日程等の情報共有。
・団や町のスポ少活動に際し、出席を認めてくれている。
・地域体協と顧問、校長との対話。
・中学のクラブへの技術指導。
・中学校の校庭の開放で練習を行う。
・中学校の体育館を利用したの合同練習。
・中学校の大会などに指導者が行って中学校側とコミュニケーションをはかる。
・中学校顧問との連携。中学校行事予定の把握。
・中学校部活顧問と連携を取り合い、小学生と合同で稽古をしている。（定期的に）
・中学校部活動とスポ少活動が両立できる様学校側に依頼。学校行事優先であるが、市を代表する大会等の配慮をお願いする。
・中学校部活動と部員は団員と同一であり常に学校と連携している。
・中学校部活動への指導補助。
・中学生の場合、部活を優先しつつ、技術の向上を目指している。
・中体連、高体連主催の大会への審判協力。
・定期テストの一週間前からスポ少活動は参加しない（自由）。
・定期的な交流や情報収集している。
・定期的に学校長と打合せ。
・定期的に情報交換している。
・電話での連絡はいつもするようにしている。
・都道府県スポーツ少年団からの派遣協力依頼文の発行。
・日頃から連絡・相談を密にしている。
・入団について、学校及び保護者に、誠意をもって説明した。
・年に1度、学校関係者とスポーツ少年団との親睦会を開いている。
・部活の先生との打合せです。
・部活顧問、学校長とのコミュニケーション。
・部活顧問との協力。
・部活顧問との連絡調整（テスト、学校行事等）。
・部活動と重ならない時間での団活動。
・部活動に参加できなくても少年団活動には参加できる（大会等）。
・部活動のエキスパート事業に講師として参加。
・部活動の指導の充実。
・部活動の指導等。

・部活動顧問との連絡、報告、話し合い。
・部活動顧問もスポーツ少年団の事務局として活動。
・部活動優先。
・部活動優先。
・部活動優先、と団員に徹底している。
・保護者に施設予約を行ってもらい、指導者は前面に出ない（指導者が前に出ると、勉強面で学校の意見があわない）。
・保護者及び中学校の指導教諭との連携を密に取っている。中学校へもクラブ活动时、指導に行くこともある。
・毎月の練習計画の提出など。外部指導者の派遣。
・毎年、年度初めに学校を訪問し、当団の年間行事予定や団員派遣事業・大会について、学校側に資料を提示し、参加協力を求めている。
・毎年4月に学校に出向き、年間行事を提出、毎月の予定表も提出。
・礼儀、規律。
・練習場所の清争。
・連絡や調整をまめにしている。
・連絡を密にする。
・連絡調整

問 16 学校との連携における課題について

・外部指導者の受入れに問題あり。 教育の一環としての部活の為なのか。
・顧問の先生が、競技を知らないので外部の人を入れたがらない。
・顧問の先生が、競技を知っている方は、外部の人を入れやすいし、コミュニケーションがとれる。
・部活動と団活動の理念の相違・時間・日程的な問題。
・16年間やっていますが今迄全くその点は感じておりません。
・お互いの立場、考え方の理解と尊重。
・カーリングは中体連高体連に加入していないため、高校では公欠が取りにくい学校がある。
・クラブ活動と重なることがある。
・クラブ側から積極的に進めないとダメな場合がある。
・このような社会体育に於いて行政（学校）側からの指導もあってよいのでは。
・ご苦労様お疲れ様で終る。
・スポーツ少年団に加入したり後援会に加入（後援会費）すると、会費が発生する為躊躇してしまう傾向がある。
・スポーツ少年団の地域活動や子供の体力作りや小、中、高の一貫性を話している。
・スポーツ少年団は、小学生だけとの考え方があるので中学生が少年団として活動することにはあまり関心がないように思う。
・スポーツ少年団への理解が無いこと。
・スポーツ少年団活動を理解してもらうために市の担当課スポーツ少年団役員、学校側との話し合いの場を増やす。
・スポ少・学校と対象となる子供は同じ。社会体育・学校体育と云わず一本化出来るのがスポ少活動。理念にとらわれず、広範囲な活動になってほしい。
・スポ少のメリットが無いので強調出来ない。（体育館利用のメリットのみである。）
・ソフトテニスの場合中学生から始めた者は勝つことは厳しいです。外部指導者による指導でしたら少しは勝てるが顧問も忙しいため初心者への指導は出来ないでしょう。だからスポ少の活動は大切です。中学校は他校との練習試合が多すぎます。初心者は基本が出来ないで終わります。もっと全体の練習会を開いて基本を教えるべきです。
・ソフトボール部設立お願いしても、対応、反応がない。

・できれば先生方も同じように参加してほしい。
・一昨年までは地元中学校の理解があり外部指導者として活動し部活顧問の先生もスポーツ少年団に協力して長期間に渡り良い関係であったが昨年学校長と部活顧問が変わったと同時に良い関係は途絶えた。
・運動部顧問の理解と協力。
・価値感の相違は大きい。学校スポーツモデルからの脱出 新しいスポーツモデルの構築が必要。
・会社勤めをしているので、学校に出向く日が取れない。
・外部指導員として当団の指導者が学校に出向いているが、時間が少なく、また、目的も多様なため、なかなか難しい。
・各指導者において学校との連絡を取る時間がない。
・学校がメインだと考えているため。
・学校が少年団活動に対し消極的（関りたくない）に見うけられる。
・学校とは円滑な関係が保てており特段の課題・問題なし。
・学校の許可がなければ大会に参加出来ない。
・学校の授業・行事と大会（少年団主催ではない）が重なる事がよくある。
・学校の部活とスポーツ少年団の両立は、良いことだと思うが、学校側の理解も必要だ。
・学校は、クラブ活動（部活）に重点がある。
・学校はよけいな事には関わりたく無いと思っている。
・学校及び先生なる人々は保身がすべてである。
・学校教育と社会教育の意義の理解。
・学校行事等がタイムリーに届かないため、連携を強化したい。
・学校行事優先。
・学校側がスポ少をまったく理解しておらず、勝つだけのスポーツクラブと思っている。
・学校側がまだまだ閉鎖的で外部の者に冷たい。
・学校側の部活の先生しだいです。
・学校側は、スポーツの事故、ケガに対して責任のがれをする！！
・学校長・顧問の人事移動による、考えの変化に対応。
・学校長が顧問の先生をつけてくださればよいのですが、理解していただけないこともあり、従って中体連に参加できないこともあります。
・学校長の意見により対応に変化がある。
・学校長の理解度。
・学校長や部顧問の先生によって理解に温度差がある。教育関係機関（文科省以下県・市町村等）における学校体育と社会体育の関係をしっかりと整理するべき。
・活動日が重複しない様に調整が必要である。
・管理職が交代すると、考え方が違うので理解を得るのに苦労する。 少年団活動は、あまり活発にすると学校の部活に悪影響があるのではと心配される先生も多い。
・技術的に学校の顧問は素人！
・休日での連携がなかなかとれない。
・教育委員会が小・中学校とスポーツ少年団との話し会の場を設定する必要がある。
・教員に子どもたちも言えず、交代（異動）があるので、先生次第で変わってしまう。
・教員は部活動には力を入れるが、地域とのつながりは、あまり持とうとしない。
・剣道顧問教諭以外の者の理解度が薄い。
・現在顧問、教頭等コミュニケーションがとれ協力して頂いているが、異動等で人がかわった時が心配である。（他剣友会でそ

の為スポーツ少年団脱退あり)。
・限度がある。
・顧問が協力的ではない場合がある。
・顧問が剣道経験者のため理解を得易い(理解がないと難しい。)
・顧問が少年団活動に理解のある人なら学校との連携はうまく行くが顧問に理解のない人がなった場合そりゃもう大変。
・顧問によって対応が違う。協力者もいれば、そうでない先生も…。
・公式の大会は、学校の部活優先にしているので、練習や短時間の練習試合を、休んだ時(こちらの活動の為)嫌味を言うようなことはやめるべきと思う。
・公立の学校は教員の移動が定期的にあるため、そのつど担当者が変わり手続き等がとどまってしまう。
・校長他個人により意見が異なる。
・行事が重なる時がある。
・行事予定(試験日など)を年度初めに連絡してほしい。
・今の教育に関しての、先生方がゆとりがなく、半分以上がサラリーマン化していて、昔しほど熱心に部活等を、教える人が少なくなっている。
・指導・技術不足。
・指導はできず、内容周知になっていること。
・指導者が指導できない日に先生が見てほしい。
・私たちの学校は大会に賞状等をもって来ますと、学校で校長先生から賞状を渡してもらうため子供たちはさらにやる気になります。
・試合に強いスポーツだけが学校でもち上げられ、又、学校もスポーツ少年団は別であると考えているのではないか?
・事故(けが)時の対応(現在スポーツ保険で対応している)。
・時間等の折り合いがつきにくい。
・社会体育となっている為、学校の体育館が使用できない(中学)。
・種目への理解。
・柔道の素晴らしさを理解してくれても、指導者がいないので柔道部を作ることができない。
・柔道を教えることのできる先生がいない(必修でありながら)。
・出来ればスポーツ少年団のPRをもっとしてほしいです。
・小学校でのミニバスケットクラブとの使用の件で時間的にお願いしているが学校の長や指導者や父母会の理解がなかなか難しく理解がない。
・小学校でもスポーツ少年団大会の参加は公休にならないので、出来れば認めて欲しい。参加しやすくなる。
・小学校に比べて中学校は本気で地域と交流しようという体制には見えない。
・少子化。
・昇段審査に必要な、柔道の講習会を行う。
・信頼関係は良好と感じている。
・先生が変われば連携がとれにくくなっている。
・先生の中には、スポーツ活動自体に理解がない方や、夜間の活動時などに先生達の理解がえられていない。
・先生は自分の事ばかり言っていて子供達の信頼ナシ。
・体育館の夜間使用 表彰集会での紹介。
・体育館使用の件がうまくいかない点がある。
・体育担当教員の理解協力が必要、体育系部活の取りまとめをしている。
・大会が重複してしまう場合は学校を優先してもらおう。

・大会と学校行事が重なった場合の調整。
・担当教諭との連絡。
・団員の大部分が所属している中学校は外部コーチ等の受け入れをしておらず過去において何らかのトラブルがあった様子。今後改善が必要。
・団体戦などで学校名を使用する場合むずかしい事がある。
・地域スポ少と中体連、高体連の担根がとれない。学校長、及び顧問が知識不足で理解がない、得られない。
・中学、高校学校では、スポ少をどのように感じているのかよくわからない。
・中学・高校だけでなく小学校においても学校外の活動に関わりを持つという意識がなく、部活動が主との考えが大きい。
・中学校（顧問等との考え方・活動方針が違うなど）、中・高校の教員（顧問など）を含む学校側の理解と協力を得る事が必要 …単位団だけでは困難。
・中学校、高校のスポーツ指導者に、スポーツ少年団活動のPR不足！！
・中学校では部活の種目が減ってきている。ソフトテニスもこれから同じ方向のようである。
・中学校の指導者が毎年替わる事。中学の指導者がバスケットボールの知識が少ないこと。
・中学校の先生が私たちの活動を理解してくれない。
・中学校の部活動があるため少年団に入れない。
・中高生は部活が忙しく、部活の積極性も内申点に係わり地域活動やスポ少活動は難しい。
・中体連（中学校体育連盟）が主催して交流会や大会を開催して欲しい。（年に2回では少なすぎる。）
・中体連が非協力的。
・中体連以外は学校側の理由で顧問先生の引率が困難。
・定期的な会議も必要では？
・当団は小学校施設の開放認定団体であり、中学校との連携がない。また、船橋市のスポーツ少年団は、同じく小学校や公民館などの市公共施設が活動の場となっており、中学校・高校との連携は聞いたことがないです。
・日常的に学校を訪問する。
・武道関係指導者がいない。
・部活が主、スポ少は2番目・3番目というのが主である。
・部活に専門顧問が付かない時や、多忙な場合は、すみやかに少年団に協力を求める体制があたり前の事となって欲しい。
・部活の先生の対応によって変わる。
・部活主助となっている為、小学校卒業後の関わりが薄くなってしまう。
・部活動での指導者がいない。
・部活動とのバランス。
・部活動との両立、顧問の理解等。
・部活動との連携が、顧問の考え方により、難しい場合がある。
・部活動と少年団活動の重複を学校側が認めない（スポーツの種目が違っても）。
・部活動の顧問と連絡調整を図っているので問題なし。
・部活動の顧問の協力、学校側の協力を得ることがむずかしい。
・部活動への外部コーチの登録。教職員との交流。
・部活動や行事の調整。
・部活動顧問との連絡だけで学校長等には、知られているか、コーチとしてベンチ入りしているので知っていると思うが声をかけられた事がない。
・閉鎖的な学校と開かれた学校が有り統一感が欠如している。
・保護者の理解。

・連携においては、人によりとなっている。組織的には、学校には、理解されていない。

問 18-1 保護者の理解を得るための工夫について

・「おたより」を配布したり、大会などに行った時に話す。

・コート整備等を通して、全員で活動の環境づくりを行なっている。・大会には全員が出場できるよう機会を作っている。

・見学の推奨、大会送迎・応援。

・指導者と保護者との懇談会の開催し意見の交換。

・団の総会時に説明、又、リーダーの保護者に、活動のメリットなど話しをしてもらう。

・団員の送迎にみえた保護者には、団員の現状と、どう指導していくのか必ず話している。

・必要に応じて活動内容を「たより」にしてしらせている。

・直接、話し合う。

・日独交流について説明し、シニア研修に参加するように話しをしている。

・入団式の時に小学生とは別に中・高校生だけを集め保護者に説明したり、練習時に暇を見て話し合いの機会を作っている。

・年度当初に単位団の説明会を行っている。・月1回保護者代表（各学年）と指導者の交流会を行っている。

・①総会の時に説明する。②交流会（年2回）の時に説明し、理解を得る。

・3ヶ月に一度保護者との交流会を行っている。

・お便り等作製し、考えを、説明している。

・ことあるごとに印刷物の配付や、行事への参加の呼びかけ。

・コミュニケーション。

・ジュニアリーダースクール・シニアリーダースクールへの参加が、受験や面談時に自己PR事項としてアピールできることや、ドイツ派遣団への参加、経験を話し、スポーツ以外の活動が将来子ども達に大きくプラスになることを実感してもらう。

・すぐに理解してもらうのではなく、時間を掛けて長いスタンスで1人でも多くの人に理解してもらう様にしています。

・スポーツクラブの中のスポーツ少年団なので、親も参加するよう声をかけている。

・スポーツ少年団の行事、総会での説明。

・スポ少のイベントに出来るだけ参加して頂き学校側オンリーの体制をスポ少の方に向けさせてもらう。

・できるだけ部活の説明会に参加する様にしています（中学生）。

・できるだけ連絡を取る。

・とにかく続ける事の大事さを説明するのみ！

・なるべく活動に参加してもらっている。

・ホームページやフェイスブックを利用した情報発信。

・メールによるメールでの意見交換。

・メールでタイムリーな情報提供。

・メールを配信し、連絡、情報提供をしている。

・リーダーが活躍するキャンプやオリエンテーリング大会などに一緒に参加してもらう。

・リーダーとして残ってもらう様毎年話をしている。

・安心して少年団活動へ団員を参加させられる雰囲気や常を作っておくこと。

・意向調査書により中学校へ入学しても（剣道）少年団活動継続していくことを確認している。

・会報を年に1回作成し、団員の感想文、活動報告行事報告を行っている。

・各大会後の反省会に参加しコミュニケーションを図っている。

・学校での部活動では、実力アップにならないので、部活動以外での練習を求めている。保護者も多く、継続を説明している。

・学校と保護者のあいだで、コミュニケーションをとる。

・学校の先生と交流、部活説明会で伝えてもらっている。
・活動を直接見てもらったり、リーダー育成のねらいを説明する機会をつくるようにしている。
・活動時に必ず周知を行い協力を得ている。
・活動中に現状の報告や、今後の指導体制について話し合う機会を持っている。
・活動中の会話。
・活動通知、活動後等送迎の際 活動内容の説明。
・活動日に見学会をしている。
・活動予定の配布。
・規定の中で定めており、常にその大事さを説明している。
・継続することで、昇級、昇段につながる事を話す。
・月に1回ミーティングを持ち、保護者の意見を聞く。
・月に1回程度、スタッフ会議を公民館で行い父兄でもあるコーチも出席してもらい、父兄からの意見も聞いている。又年に1回、総会を開き、全父兄に出席してもらい意見を聞く。
・県レベル大会への参加及びリーダー育成などの説明会を行う時がある。小学生卒団をひと区切りとして中学卒業まで登録をすることをお願いしている。
・個別対話。
・工夫では、ないが問われたら答えている。
・工夫は無い ただ話しをいつもする。
・広報活動（リーダー会報）。
・行事に参加して頂くように促す。
・行事終了後に反省会を行なっている。
・行事予定の印刷物配付。また、大会参加写真の配付など。
・高校、大学等進学の見学。
・高校のクラブ活動以外に、週1又は月2の割合で参加していただいている。
・合宿でのリーダーの活動（生活指導・レク指導等）を頼もしく感じてもらっている。
・懇親の場を設定する。
・懇親会を開いてる（年3回）。
・懇談会の開催。
・懇談会を行う。
・子供達の送迎の折に、行事の事、義会の件、大会の件を話している。
・市行事への参加、試合などの当番。
・指導者と保護者のコミュニケーションを大切に又横の連携を取っています。
・指導者の資格を取ってもらう事を進めている。子供との支流会を行なっている。
・試合参加等で、移動手段の協力。
・試合時の応援をお願いしております。
・主催の大会を行うことで、一体感を作っている。
・週に1、2回保護者の代表と話し合いをしている。
・出来る限り会話する機会を多くとる。
・小学校からのつながりがあるので、その都度理解されている。
・小学部から中学部に上がる時に、勧誘したり、説明したりしている。
・少学生と合同で、稽古を重ねている。

・少年団で活動すれば基本が身につくようになって楽しくなって長く続けられますとは話します。
・少年団に高校生の兄弟が居る場合、保護者を通し参加を促すが他は難しい。
・少年団活動（普段の練習、大会、親睦会等）に見学や参加をしてもらい子供たちが生き生きと活動する姿を直接見てもらう。
・少年団活動における青少年の健全育成と人脈作りを説く。
・少年団活動の文章等が出た時、保護者に活動の声掛け。
・少年団総会の時にスポーツ少年団活動の説明を行う。
・常に会話をする。
・食事会などをもち、保護者の意見を聞き、とり入れられるものはとり入れる努力はしています。
・新役員が決まった時に打合せを行っています。
・親子大会（テニスの試合）・親子ハイキング・親子スケート教室等を実施し中学生、高校生になっても団活動を継続するように理解していただく。
・進路相談等。
・説明会（話し合い）の場を設ける、飲み会を開く。
・説明会、保護者懇親会。
・説明会の開催。
・説明会等を行う。
・総会。
・総会。
・総会、懇親会。
・総会／年一回。
・総会での活動説明。
・総会での説明。
・総会での説明、総会への中・高生の参加。
・総会での説明と、親子卓球大会の開催。
・総会で保護者にお願いしている。
・総会などの時に説明、またそのつど話し合い説明をしている。
・総会に於いて当年度の活動方針、考えを説明し理解を求めています。又、随時、必要に応じ、説明する機会を設けています。
・総会やバーベキュー会をしている。
・総会を開き理解を得ている。
・送迎時、活動場所へ顔を出してもらい連絡。注意など子供といっしょに聞いてもらうようにしている。
・卒団パーティー時、保護者も参加してもらい、小学生は中学生を中学生は高校生を見て話しをしてもらうようにしている。
・卒団式の時に、中学の監督・コーチに来てもらい、説明会を行っている。
・対外試合や遠征を多くしている。
・大会などの運営スタッフや、団の役員さんをして頂いている。
・大会等での補助。
・単位団の総会にリーダーも参加してもらって、実体験・経験を話してもらっている。
・団・協会、派遣指導者が、学校との間に入り練習参加への理解をもとめている。
・団員である、高校生、大学生に練習の指導をさせる。日独交流のホームパーティー実施等。
・団員の日常生活における意見交換。
・中学生は団員であるためよく説明会を開いている。
・中学生以上は、指導者になってくれる為、感謝の意を伝える。

・ 中学入学後の部活動報告会で、スポ少加入を動きかけている。
・ 通常活動時からコミュニケーションを良くしている。
・ 定期総会等。
・ 定期的な、意見交換会の開催。
・ 定期的な役員会の開催。ノミネーション（飲む会）、オヤジの会を開く。
・ 定期的に（例：臨時総会・定時総会・保護者会・指導者会等）集まる機会を設け、報告・連絡・相談の場を設けている。
・ 定期的に保護者会を開きます。
・ 当団は本人又は保護者からの要望により、小学生から継続しての団員です。
・ 日頃からのコミュニケーション。
・ 入団時に十分説明し理解してから入団をしてもらう。
・ 年1回保護者会を行う。
・ 年2回総会を開き意見の討議。
・ 年4回の会議年2回の反省会、総会等壮行会打ち上げ、合宿等。
・ 年4回単位団内においてイベント開催（餅つき、豆まき、バーベキュー、クリスマス）。
・ 年に1度、学年会を開いている。
・ 年に何回か保護者との会を設け指導者としての考え（目標）などをお話して理解を求めています。
・ 年次、総会にて、指導者と保護者に話し合いの機会をもうける。
・ 年数回の定例交流会の開催、大会終了後の反省会。
・ 年数回団の運営内容について説明会を開き理解をいただいている。
・ 年度初めに中学生の保護者を集めスポ少活動を説明入団をお願いしている。結果中学柔道部員は全てスポ少に入団している。
・ 必要に応じて懇談会を設けている。
・ 父兄懇談会等を開催している。
・ 父母の会、総会など年3回位、父母との懇親会を開いている。
・ 父母を含む剣道協会の会合で話し合っている。
・ 父母会。
・ 文書や口頭による説明。
・ 保険（傷害）加入への推進。
・ 保護者・指導者の意見交換会の開催。
・ 保護者が理解してくれている。理解していない保護者は少ない。
・ 保護者との、月1回の会合を、開催してます。
・ 保護者との交流会。
・ 保護者との定例会議を開催している。
・ 保護者との話し合いの機会を定期、不定期にもっている。
・ 保護者との話し合いの場を設けている。
・ 保護者にも練習を見学してもらっている。ケガ等緊急時の対応など。
・ 保護者に御理解と御協力をいつもお願いしてもらってます。
・ 保護者の負担をなるべく減らすこと、連絡を密にとりあうこと。
・ 保護者の方々の時間があれば練習を見に来てもらうようお願いしている。
・ 保護者は交代で練習を見学している。
・ 保護者への現状説明及びスポ少の総合、支部会の開催（イベント説明会及団活動の説明）。
・ 保護者会（年3回）、懇親会（年1回）のほか、保護者あての通信を年16～17通配布。

・保護者会（年に2・3回）とふだんの練習時、大会等に来てもらい、活動を見てもらっている。
・保護者会、代表者を通して連絡を密に取っている。
・保護者会との連携による団員へのアプローチ。
・保護者会の組織をつくり指導員、生徒との共有化実施。
・保護者会への加入。
・保護者会を開いている。
・保護者会を定期的で開催している。
・保護者間の自主性。
・保護者協力のもとに継続等の承諾を毎年もらっている。
・保護者総会、納会等。
・保護者総会において活動理念を説明している。
・保護者総会等で話しをさせて頂いている
・母集団の会議に参加してもらっている。
・母集団の連携。
・毎月、練習予定表を発行。その中で連絡事項等や指導者の考え方、選手選考方針などを説明している。
・毎月定例コーチ会議を設けている。そこでの参加によってコミュニケーションを図っている。
・毎年、総会にて計画を説明。
・毎年3月初旬に全団員保護者に団継続趣意書を配布するとともに、4月～5月開催の後援会総会・理事会で中学生以降の団活動継続への呼びかけを行っている。
・毎年夏休みの時期に少年団の合宿（一泊二日）を実施し、保護者にも参加していただいている。
・面談により説明する機会をつくっている。
・問題が起きた時は、都度話し合い、早急に、解決するようにしている。
・役員会を開いている（保護者代表と）。
・練習に見学に来てもらっている。
・練習や大会結果、中学校との関係を報告している。
・練習会場のカギ当番を保護者にしてもらっている。
・練習後に団員の様子を知らせ、理解してもらおうようにしている。
・練習試合。
・練習等の報告。
・練習日に保護者にもお茶当番等で参加してもらっている。
・連絡協議会の開催。

問 19 保護者との連携における課題について

・私達の育成会の良い所はクラブを支える事に関しては積極的であるが練習、大会に関しては口を出さない所です。
・習い事の一つとして見ている保護者が多く、どちらかというと活動への関心は低い。これを他との交流に広げていくのは少し困難を感じる。
・送迎と練習中の協力・大会の時親の不参加。
・大会への送迎、保護者の少年団活動への意識の差をまとめること。
・中学校、高校に進学すると部活で退団。
・保護者の考え方が変わってきたような・うちの子が一番は困る。
・連絡事項を見落とし、何回もメールしてくる、子供をあずけっぱなしという感がある。もっとしっかり、見守って欲しい。

・スポーツ活動以外にも少年団に所属する意味があることへの理解。
・なかなか参加できない。
・温度差がある。
・我が子優先になりがちのため、その調整が必要。
・各家庭環境さまざまで、心くばりをするだけです。
・活動に感心を持っている保護者と、無感心な保護者がいる為難しい。今後の課題にしている。
・協力してくれる保護者と、全く無関心な保護者が出来てしまい、偏ってしまう。
・協力する保護者が固定してしまう。
・協力的な保護者が少ない。
・現在は小学校で経験者がそのまま中学校で入部活動している為親の理解もあり他の保護者への伝達も行ってこれ継続しているが、子どもが継続しなくなったら難しくなる。
・個人情報むずかしくなった昨今の連絡態勢に気を使う。
・考え方に個人差がある（協力的な人、我子中心の人等々）。
・講習会等への理解促進方法が欲しい。
・今の保護者さんは、自分の子供中心で考えるので指導がやりづらい。考えかたが幼稚すぎる。
・今の保護者は、どんなスポーツでも先に色々な状報を入れて頭でっかちな父兄達が多く、もうすこし時間を掛けて、待つ事が出来ない。
・仕事、家事、その他とスポーツ少年団活動の両立をいかにスムーズに行うかという点。
・指導者がすべての権力を行使するのではなく、保護者の親としての意見を聞くべきであると思う。
・自分の子が1番という保護者に対しすべての子をみんなで育てていくという考えをもってもらうことが少し難しいです。
・自分の子供だけが良ければそれで良く、全体のこととして考えてくれない時がある。
・自分の子供を出してほしいとか、自分の子供は他の子よりうまいとかの話は一切受けつけない。父母会より子供の為に行いたいと言う事のみ話し合いする。
・小学生から保護者までの交流の機械を設けている。主催大会を開催している。仕事を持たれているのでかたよりが出てくる。
・小学生と比べ保護者がかかわる部分は少なくなり、また中・高生になって少年団活動をする必要はないのではと考える人も多い。
・少年（小学生）中心になり、練習試合を計画しても、部活などで、揃わない。
・少年団活動に理解のない保護者がいて、子供を預けっぱなしという感じの人もある。
・信頼関係。
・親同士、親相互の人間関係づくりが難しい。
・進学との関係。
・人が集まらない。
・絶えず情報交換をする。
・送迎等の問題は毎回大変な事と理解してはいるが、その旨を子ども達の気持ちにそって欲しいと話し合うためのメールが年々多くなっている。
・他行事も多数あり、保護者が、スポーツ少年団活動に消極的である。
・団まかせにはいけない。
・団員も保護者も、入団の動機・目的がそれぞれ異なる。
・団活動の時間帯が夜のため、学習塾と重さなるため参加の少ない者がでてくる。
・団活動の理解をしてもらう。
・中・高校生になると突然顧問の先生の言いなりになるので幼児から基本を学んだスポ少へ理解を求めたい。

・中学に入って初めてスポ少に加入する家族への理解度向上。
・中学校での部活との連絡が必要なことを話している。
・中学生になってスポーツ少年団に加入した団員の保護者のスポーツ少年団への理解不足。
・年々、保護者の協力が少なくなっている。
・夫に理解される人はよいが理解のない夫に話をする。
・父親の練習見学や試合随行が少ない。
・部活とスポ少の違いを説明すること。
・部活の説明会に保護者の会員の参加がない事。
・勉強も大事だが、子供達のやりたい事を優先させてほしい。
・保護者が団での役割をめんどくに思い、団を子供がやめざるを得ないケースがある。
・保護者が本気になれる環境をつくること。
・保護者となかなか話をする機会がない。
・保護者の団活動への参加について理解しない人が居る。
・保護者間の世代間ギャップがある。この間をとりもつことが大変。
・母集団にもスポーツをする機会をと、単位団活動への参加を呼び掛けているが、参加があまりない。
・毎年保護者の入れ替わりによる引き継ぎ。
・無関心な方が多くまかせっぱなしがみられる。送迎のみで顔がわからないままの方が多くなってきた。
・練習に口を出さない。
・練習時お手伝いに余り来てくれない。
・練習場所が2か所以上あり送り迎えの件で時間的に難しく一番の課題です。

問 20-1 具体的な支援策について

普段の活動場所（使用料が減免措置となっている）。	千歳少年少女柔道大会の運営に補助金を出してくれる。
ふれあいスポーツクラブに登録し、会場使用料、指導者の保検とかを支援を受けている。	競技団体からの技術指導や審判の指導・協会同士が行なっている大会への参加。
町の体育協会にも登録し助成金をいただいている。	競技団体が管理しているコート（5面）の無料使用。
金銭。	コーチスタッフの派遣。
市事務局による通知、イベント開催・市からの活動費助成。	さいたま市ソフトテニス協会から年間1万円の補助有。
大会の共催。	サッカー協会からの人的な援助。
旅費の1部助成（大会時）。	スポーツ安全保険の掛金など。
スポーツ安全保険の掛金など。	県大会に参加（予選を勝って）折には補助してもらえる。
スポーツ少年団参加手続、市町村主催の剣道大会。	交通機関の支援。
スポ少か体育協会に加盟している。	交流会への補助金。
スポ少大会への補助（費用、審判の派遣）。	公共施設の無料利用。
スポ少本部からの育成費の助成。	講習会。
育成金、武道館仕様金など。	合同練習の開催。
育成費として、補助金が支給される。	合同練習会等協力体制を常時とっている。
一部小学校地域のコミュニティーセンターより、年間2万円の補助を受けている。	会議の場所を借りる グランドを借りるあくまでも民間 大会の主備研修。
運営費の補助、審判員の派遣。	結団式や行事等に対して中学生以上の部があります。
級・段審査や実技指導。	剣道連盟より審判の協力。

会場の減免など。	県主催のジュニアリーダー大会を企画してもらっている。
会場を優先的に使わせてもらっている。	財政支援、指導者の派遣。
市ソフトテニス連盟より協力金をいただいています。全国大会出場団員には市より激励金を。	昨年の日本乗馬スポーツ少年団選手権大会出場の際の出場選手へ経費の補助があった。
活動資金の保助。	参加料等。
競技場使用料が半額。	使用料の免除他。
競技団体からジュニア育成費10000円(年)。	活動の金面でのバックアップ。
協会からの補助金。	市の弓道連盟に指導をして頂く、道具を貸して頂く。
協会員との交流。	市より助成会の支給がある。
強化練習会等。	市競技協会の名前で練習会場をおさえている。
金銭的な補助。体育施設の免除。	指導や環境整備。
金銭的補助。	指導者の連携。
九州大会・全国大会出場の際、助成金。	指導者派遣。
区柔道協会から指導者の派遣、合同イベントの開催。	施設使用料の減免。
啓蒙活動を後援していただいている。	事業活動に市から補助金を受けている(実績報告書の提出)。
社会人コーチ、指導者の派遣。	賞状やメダルの支給。
集協会を通して物資の支援。	情報提供。
出前講座としてコーチの派遣あり。	震災時、物資の支援があった。
助成金。	専門競技のため指導員を派遣してもらっている。
全国大会へ出場すれば、補助金ができる。コーチをよんで、講習会を開いてくれる。	全国スポーツ少年団剣道交流大会に代表として参加する場合、連盟から支援がある。
助成金の交付。	全国大会などの補助金。
助成金や、臨時指導をいただく。	全国大会に出場すると資金援助があります。(交通費のみ)。
助成金や会場使用に対する減免措置(町)。	助成金があり大変ありがたい。
助成金をいただいています。	村体育協会からの助成金。
小中学生を対象にした講習会を調布市卓球連盟が開催、参加できる。高校生は参加できない。	団員は競技団体に選手登録をして、競技団体主催の大会やスクールに参加している。大会参加費の補助が出ている。
全国大会等の金銭面の補助。	体育館利用の無料化や大会参加費の減額。
全国大会補助金、指導者協力。	体育協会、基金運営委員会から、金銭的支援。
村から補助金をいただいています。	中学校の大会、運営。
体育協会から団員1人当たりの援助(年間約7000円程度)。	中高生も参加出来る試合がある。
大会 運営、指導。	町からの補助金。
大会の後援。	町スポーツ少年団から団への補助がある。
大会の後援をいただいている。	登録料などの補助。
大会の主催をお願いしている。	年一回大会の費用。
大会運営。	中・高生も運営費の対象になっている。
大会時の経費等。	補助金が均等割でいただける。
大会優秀選手表彰。	補助金の支給。
団員に対して助成金(町から)。	補助金の支給、上位入賞者への表彰。
地域(坂本地区)体育協会から活動費の支援を受けている。	補助金制度。場所の提供。
地元の体育協会から補助金。	練習会場のゆずりあい。

問 22 学校運動部活動の兼ね合いに関する課題

<ul style="list-style-type: none"> ・稽古時間の調整（18：00～20：00）中学生→19：00位から加わるが遅い場合もある。 ・指導者の体力維持。中学生は体力が向上してきて相手になる指導者が少なくなっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・どちらか迷ったときの指導・助言。
<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの所属として大会に参加するのか、団体の大会は学校で出るより単位団で出る方が勝てるが、顧問の先生の考え方と合わないなど。・指導内容が顧問の先生と違うときに子供が迷う。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校は学校・少年団は少年団の考えが団員にある。
<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の参加できる大会が少ない（特に新入生の場合、先輩の参加により新人は大会に参加できないため、スポ少に所属している）。練習も、学校によっては、ボール拾いで終わってしまう事が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・特にありませんが、練習時間帯が合わない時がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に部活をやる学校は、土・日によく遠征しているために疲れているように思える。時々「また遠征。基本練習をしたい。」と言うことが多い。少年団で練習を軽めにしたり、基本練習をくり返したりして、子どもへの負荷を減らしている。これは何とかしたいと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活とスポ少とでの指導者の意見の違いに子供もとまどいがある。指導者の考えを一つにまとめるのは、不可能といえる。・部活とスポ少の雰囲気の違い。温度差など。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動優先としているため、参加機会が大きく減少。
<ul style="list-style-type: none"> ・両立する事が難しい。・練習時間内に参加する事が出来ない。（学校のクラブが長すぎる）
<ul style="list-style-type: none"> ・1. スポ少指導者と学校顧問との理念の違い。2. 指導力の違い。3. その他日程調整など
<ul style="list-style-type: none"> ・①学校の練習日と団の日程が合わない②当団の場合、中学は7校、高校4校（年によって多少異なる）ですが、団の中での指導が学校で活かされていない場合が多い（技術面をしっかりと見られる先生が居ない、又、上手な先生は、団の指導を無視してしまうことがある）。
<ul style="list-style-type: none"> ・①中体連、高体連との連携の強化を考える必要がある。②中体連の支援やソフト面での企画が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・1年2年のうちは先輩の目もあり、スポーツ少年団活動で心よく休むのがむずかしい。又休むことにより、レギュラーからはずされたりするので、結局スポーツ少年団をやめることになる。平成25年度、私たちの単位団では、新中1が4名、中2が2名いるが、スポーツ少年団活動への参加は全員でのべ3日しかなく、中1の3名が平成26年度は退団する。
<ul style="list-style-type: none"> ・①部活を優先されて少年団で稽古をできない。②各種大会で学校単位で参加されると少年団でチームを組めない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の活動を優先している。実際、夏のプールに出て来るリーダーは少ないが、まったく強制はしないし、当番も組まない。
<ul style="list-style-type: none"> ・監督との連携。
<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動は反面強制であるから複数参加できない。
<ul style="list-style-type: none"> ・顧問の先生方との話合いや顧問の先生によって変わります（顧問が年度によって変わる時）理解してくれる先生と理解してくれない先生がいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の目標や指導理念が学校側に伝わっていない。個々の中学生、高校生と保護者に理解を求め活動を推進するしかない。学校や各種団体からの支援や理解は考えられない。
<ul style="list-style-type: none"> ・スポ少活動は、社会体育であつかうので、学校によっては、中体連行事に出場出来ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても学校スケジュールが優先されています。又、スケジュールが見えないので大会申込が出来ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても学校の部活動を優先してしまい、団活動への参加がおろそかになってしまう。社会体育の重要性を、学校に理解してもらう事が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても学校優先になってしまう。（インターハイ・中体連の関係上）
<ul style="list-style-type: none"> ・どちらか選ばせている。
<ul style="list-style-type: none"> ・どちらも参加するのは厳しい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ミニバスの練習場が少ない。小学校の体育館は、主に土日8：00～17：00まで女子バレー（小学生）が独占しています。現在は2つの学校で土日の午前中月に4回、合計8回の練習をしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・やはり、運動部活動（学校）が、主となるので、子どもが時々しか単位団活動に参加できないことが多い。その時に団の指導者が、どのように子供を理解し、受け入れるのが問題となってくるだろう。又、本県では少年大会やシニアリーダースクール等の大きな行事へは県体協から依頼書を出し、学校への協力をおねがいでいるので、特に問題なく参加できている。
<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい理解を重ねること
<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の高い子は、どうしても、中学の大会にひっぱり出されるので、当クラブの活動（試合）に支障が出る。
<ul style="list-style-type: none"> ・運動部だから特別な訳ではないと思います。疲れていても、練習に来る子は来ます。目標があるかが大事だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校、単位団との日々の優先度について子供達（親も）が悩む！
<ul style="list-style-type: none"> ・学校で適切な技術指導がなされないため、先生を信用しない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校で部活動をしている生徒の中には遊び（ヒマツブシ？）で入部している生徒もいることから、卓球に対する価値観がかなりちがいます。その中で指導方法に課題を感じています。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校としての活動を優先するのか、学生個人の能力や可能性あるいは将来性を優先させるのかという問題です。そこを学校側が理解してくれるかどうかです。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校としての理解が不十分で、活動時間の協力が得られないスポーツ少年団と中体連の間に、大きな壁がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の運動部活動と少年団活動は両立できない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生と私たちとの技術の差がありすぎるため子供たちが先生を信じられず、どうしても子供たちがとまどってしまう。でも私たちだけを信じるとも言えない。むずかしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の専門部門の先生がいらないなど問題が多い。そのためスポ少に依頼にくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の体育館を社会体育が理由で使わせてくれない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の部活動が優先される為、団活動（試合）の計画がやりづらい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の部活動を優先にしているので、練習開始時間がどうしても、遅い時間になってしまい。日によっては、あまり練習時間が無い日もある。（学校の部活は基本休まないよう指導）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校は遠征が多く団活動にはほとんど参加出来ず、部活も学校優先となり、学校の行事にとられてしまう。何より学校の先生方のスポ少への理解が肝心である。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運動部活動が休みの時や、終了後にスポーツ少年団活動を行っているので、回数と時間が一般的な生徒よりも多くなり、休養日の設定が課題。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運動部活動を最優先に考えており、特に課題はない。スポーツ少年団活動は学校運動部の補充活動ととらえている。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を最優先させなければならない事。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事優先であることを考えなければならない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校側が理解してくれることにあるが、基本的には部活動中心で良いと思う。部活動で活躍しているリーダーが、団にもどってきてくれることを期待している。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校側との連携を深め、団員（部員）に不要な心配事等が強まることのない様、特に顧問指導者間におけるコミュニケーションを高める努力。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校側に理解がない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校側の対応。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校中心のため、策定出来ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動、担当教員の方の取り組み方。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動が中心になり団活動が少なくなり、大会への参加もできなくなる。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動と外部部活動との区別をすること（（例）校内でのクラブ紹介は外部クラブは出来ない）学校には陸上部がない為。（例）活動費は同じ様に集金されますが、個人（生徒が全道、全国大会出場等）の補助は、中体連以外はない。

・学校部活動中心（最優先）の傾向が強い。ほとんど毎日部活あり 土日等も部活に準じた練習あり。
・学習塾が問題です。
・活動（練習時間帯）が限られる。
・活動は地域のものであるから学校側との連携を深める。
・活動時間、活動場所の調整。
・活動時間帯の重複。
・基本的に所属が増えると人間形成に支障をきたすケースが多く、課題となる。
・競技力向上のため学校の運動部活動を優先している。
・共にオフシーズンが無いので、大会が重なるとチームが組めず大会参加ができない時がある。
・空手道の場合は、小学生の団員は多いのだが、中学校で部活として活動している学校が少なく、中学生になると団員が少なくなることが多くの道場の悩みである。また、中体連の大会は、陸上競技と他の競技は出場できるが、陸上以外の空手道やサッカー、卓球などの競技では2競技の大会に出場出来ないという現状があり、道場に通っていても、空手道の大会に出場できない。もしくは、部活に入っている空手道の大会に出場すると、部活で頑張っている競技の大会に出場できないということがあり、どちらの競技も日程が重なっていなければ出場できればと思う。
・稽古時間帯の動復、体力の消耗。
・顧問（部活）と指導者との信頼関係？関係作り。
・顧問の先生と私達のモチベーションの違い。
・顧問の理解（スポーツ少年団の意義）活動（練習）内容のくいちがい等。
・顧問の理解次第。一度、流れを作ってしまうと、顧問が変わっても、保護者の要求の仕方ですスポーツ少年団活動を続けられる。そのような意味でも保護者の理解が必要。（少年団指導者が、スポーツ活動を指導することは、部活の顧問はあまり好ましく考えない）
・行事日程が重なる時がある。
・高校が試合中心の為行事参加がむずかしい。
・高校生が試合に出る場合、ゼッケンの二重登録が出来ない。
・今の小学生、中学生、高校生と指導者、関係機関が、横割りで縦て割りの一貫性の無い指導、関係性が現状ではないかと思えます。組織として再編成の時期ではないかと思えます。
・指導方法や方針が違う場合がある。
・試合が重なる場合がある。
・試合等が重なった時に部活に迷惑をかけることがある。
・試合優先になり、本来の団活動がやりづらい。
・時間。
・時間が重なる。登録の問題。
・時間と体力が両立しない。
・時間の調整。
・時間の余裕がない。
・時間的な部分、余裕がない、部活動で精一杯の生活になってしまう。
・時間的な問題。一高校生は部活動、勉強に忙しい。
・時間的な問題です。学校の活動が早く終われば続けることが可能です。
・出来るだけ、学校部活動を優先に、活動しているが、学校行事（部活動を含め）の予定がわからないので、今後、学校との連携を図りたい。
・小学までは団員で中学になるとボーイズリーグやシニアリーグに入る子供が増えてきている。

・少年団として代表になっても中体連の試合と日程が重なった場合、中体連優先になり少年団としての試合をキャンセルしなければならない。
・少年団より学校の部活動が上位に有るとい先生が多く、部に拘束して少年団活動参加を良く思わない。
・少年団活動参加への一層の理解と参加への許可。
・常に対立している。
・多岐にわたり、中・高に在学して、活動している実体から考えて、一律には困難である。
・体格差による怪我。
・体力的・学力がむずかしい。
・大会がかぶる事があるので、あらかじめ予定などを聞いて、あとは、本人の意志にまかせる。
・大会が重なった場合に、少年団活動より学校の運動部活動の方がどちらかと言えば優先される傾向にある。
・大会の時期（夏休み前）の練習時間の確保 部活動を優先してしまう。
・大会はないが、スポーツ少年団で県外研修を行なう時に県外のクラブと支流会を行なうが、その時に費用の面でいつも困っている。なにか、補助は出ないものでしょうか？。
・大会を選別して全員が参加することで理解を得ている。
・単位団活動と運動部活動は根本的に目的が異なり、指導方針も違うと思われま。これらを解決していかないと兼ねる事は、むずかしいと思います。
・単位団活動は週3回、一日2時間以内の条件で実施しておりますが部活動は週5日の実施であり、団活動は週1回となっているため、団活動も部活の一担となれば良いと思います。
・単位団活動を査定評価して欲しい→内申点として。
・単位団側の姿勢が上に立つことなく、部活への理解を十分に考え、助けている感ではなく、生徒のためだと押しつけず、共存していくよう心がけてほしい。
・団としてはリーダーとして育成しているのに部活で主力メンバーなので団活動に参加していれば主力メンバー、スタメンから外されるので子供が団活動に参加をしづる。中体連、高体連からどれだけオリンピックのメンバーが育っているかを考え子供達をクラブ、団へ帰してもらいたい。中体連高体連をなくして、クラブで競技向上を行う方向へ転換すべきである。
・団と学校が、何らかの定期的な交流行事が、あれば相互に理解でき発展できるのではないか。
・団員それぞれが異なる運動部活動に入部しているため、少年団活動を行うときに団員みんなが集まるのが難しい（スケジュール調整で）。
・団体競技の部活に入ると、迷惑をかける事があるので、個人競技の部活に入部している。（陸上など）
・中、高校生団員は学校のクラブの練習をしているため、少年団との交流指導はできません。
・中、高生はスポーツ少年団活動より部活動に重きをおいているのであまりスポーツ少年団活動に協力的でない。
・中、高対称として学校での地域別での大会参加。
・中学では兼ねることは許されていない。
・中学校は、顧問が自分で指導できる場合は、独自で活動してしまう。高校では部活が主で、スポーツ少年団に加入は決していない。
・中学生のクラブを作る時、中学校へ行き部活の先生に説明し理解してもらったので問題は起こってない。
・中学生は、学校との調整で問題はない。高校生は、クラブ活動が遅い時間になるため、参加は難しいため練習日、時間等を公開し自由参加にしている。
・中学生は部活に重点が置かれている。
・中学生団員は、年1回のスポ少交流大会に参加する目的のみで登録している。通常は部活のみで、小学生と一緒に活動する機会は少ない。
・中体連が、閉鎖的、連盟（剣道）に協力の要請は無い。

・土・日活動が重なる為、子ども達の選択が大変だと思う。
・当少年団は、学校のクラブ活動を優先させており、部活後に参加するため、練習時間は、マチマチです。（団員全員揃うことが、少ない）団員相互の親睦交流を主目的としています。
・当団は部活と重複するメニューがないため、両立が可能である。
・同じ種目部活動があれば良いが部活動に必ず入らなければならないため中・高校生はスポーツ少年団の活動をやめてしまう。
・同一種目なら問題はないが、異なる場合は活動時間が長い学校の活動が主となっていき、ひいてはスポーツ少年団を退団することになる。
・同時期に行事があること。
・日程・指導方法・学区と単位団区がちがう。
・部活とスポ少大会が重なったとき。
・部活にはお金が掛から無いが、団活動には実費が掛かる。試合が重複した場合、部活に取られてしまう。
・部活の隠れ蓑組織でしか無い。
・部活動が、常に大切であり、少年団活動はどうしても後回しにされてしまいます。競技成績（総体、インターハイ）がどうしても重要視される為だと思います。
・部活動が最優先なのはわかるが、指導に対してもうすこし学校との連携が必要。
・部活動での指導者が不在。
・部活動に応じた教職員の配属。
・部活動に特化して、団の活動はできなくなる。
・部活動の拘束時間が長いと思う。
・部活動終了後、単位団活動に参加する事は時間的にむずかしい点と、土、日、祝日に関しましても、部活動実施や大会開催と重なる事が多々ある事に加え、土、日、祝日は活動場所確保においても容易ではない点が課題としては大きいように思います。
・保護者の協力が大切である。
・放課後、休日等の学校運動部活動の時間占拠。
・本人にまかせている（学校の活動を優先しなさいと言っている）。
・本人のやる気。
・本団においてはリーダーと部活動部員はイコールではなく、いずれも任意としている。部活動（中学生）イコール少年団（中学生）になっている少年団は、リーダーという意識はない人。
・目的などをスポ少、学校、生徒、保護者で共通の理解として進める事。
・間10と同じで主に土日の活動になってしまうので子供達の休みがなくなってしまう。
・間16にも書きましたが休日はほとんど練習試合を組んでいます。試合のやりかたは分かっても基本的な技術は身につけていません。顧問も忙しいのですから地域のスポ少活動の時間に合わせて部活動をしていただくと中学生団員も増えると思う。
・野球に於ける中体連との（部活）共存が難しい。（スポ少野球と学校野球部との両方在籍が無理、との話）
・両方の活動を両立させることは、かなりむずかしいと思われる。部活動で中心的な（部長とか）立場にいる団員は特に。少年団活動に積極的にかかわっている（ジュニア・リーダー、シニア・リーダーは、ハイキング、スキー合宿、夏合宿等のイベントには指導者の補助員として協力してもらっている。社会人となって正式に指導者として残っているジュニア出身者もいる。）
・両立は時間的、体力的にむずかしい。
・練習や試合の日程が重なってしまう。
・練習や大会が重なる場合がある。
・練習時間が重なる。（部活優先）
・練習時間の調整。
・練習時間や練習場所（特に冬期）の確保。

・練習時間帯が、夕方なので部活動と重複または、保護者の送迎が必要となる。

問 23-1

・おみこし・夏まつり。

・スポーツフェスタ。

・ふれあいサロン（老人会の行事に活動発表を毎年実施）。

・駅伝大会に参加し、地域との交流を深めた。（茨城県南地区）

・各種大会、記録会等への参加・地域イベント（まつり等）への参加。

・各大会の参加とか鏡開きなどの参加。

・学校支援・敬老会・地域祭り・ふれあいサンデー。

・清掃活動（使用した体育館の周辺）・防犯活動（ふり込め詐欺防止）。

・清掃活動参加・リサイクル品の回収。

・①町が行なっているクリーンボランティア（町内の清掃活動）②氏子との涌谷神社清掃活動③利用している体育館の大掃事

・10000人寒稽古。市。県強化稽古会。ライオンズ大会他。

・①コミスポ中学生大会②協会長杯（中学生）③市駅伝（小学生）④市長杯（高校生）。

・①各団体の主催する大会②他団の主催するイベント③市が企画する事業（1人世帯の除雪作業の支援）への参加。

・NPO、ボランティアフェスティバルに企画運営団体として参加。

・ウォーキングイベント。

・カーター記念黒部名水ロードレースボランティア（補助員）。

・スノーフェスティバル等。

・スポーツレクレーション大会。

・スポーツ祭に参加。

・スポーツ施設がある。運動公園の草刈り及び清掃。

・スポーツ少年団による清掃活動。

・スポーツ少年団に関係なく大会に参加、地域活動には参加していない。

・スポーツ少年団剣道旭川大会。

・スポーツ少年団体育祭。

・スポレクへの参加。

・その活動（大会）への参加。

・ソフトボール、ピッチャー、野手構習会。

・ソフトボール協会岡崎市内の大会・県大会。

・それぞれの活動をしている（地域ごとに）。

・チャリティ・ベースボールフェスティバル他招待試合多数。

・町会の夏祭りに参加（太鼓係、出店）・商店街歩行者天国行事に参加（出店、行事補助）準備片付けなど。

・マラソン大会・市体育祭。

・まんのうフェスティバル。

・ライオンズクラブ主催の多摩川土手清掃。

・安学区親子バレーボール大会（安学区体育協会・子ども会育成協議会主催）の運営に毎年参加。広島市・広島県スポーツ少年団バレーボール交歓大会の運営に毎年参加。

・駅伝、マラソン等の路上監視。

・駅伝交流会に参加している。

・駅伝大会。

・ 駅伝大会。
・ 夏まつりでの型の披露（保護者はまつり手伝い）。
・ 夏祭り踊り。
・ 花植え、町整備。
・ 会津若松市鶴ヶ城ハーフマラソンの参加とボランティア参加。
・ 皆野町盆おどり参加、駅伝大会参加。
・ 各種イベントでの交流。
・ 各種大会等。
・ 各大会予選等への参加。
・ 学校開放地域運動会。
・ 岩手県大船渡市とのスポーツ少年団交流事業。
・ 吉賀町駅伝大会。
・ 競技場・公園の環境美化活動。
・ 競技大会参加。
・ 空手道の関東大会、県大会、地域交流大会等12試合に出場しました。町のロードレース大会に出場。
・ 空手道交流大会。
・ 熊谷、寄居、小鹿野、上里、各地区開催の大会に参加している。
・ 芸術活動、ゴミ拾い、ドラムサークル。
・ 県及び、市の主催の「テニスの祭典」参加。
・ 源氏まつり、どんと祭り、クリーンアップ。
・ 戸田、蕨、川口 三市青少年の船。
・ 呉市民大会、陸上競技の部、呉市民ロードレース大会、織田記念陸上競技大会。
・ 交流大会、講習会など。
・ 交流大会や奉仕活動。
・ 高森町体育協会主催の事業に参加（1）ウォーキング大会（2）キンモクセイスポーツ大会（3）駅伝大会。
・ 高梁川クリーン作戦。
・ 歳末たすけあい街頭募金活動（市社協）。
・ 埼玉県加須市小学生大会。
・ 市・県・競技連盟の大会に参加。
・ 市の少年団スポーツ祭・小学校の祭。
・ 市マラソン大会、運動会、清掃活動、各団交流大会等。
・ 市主催のスポーツフェスティバル・マラソン大会の運営補助。
・ 市体育に参加、体力測定の参加。
・ 市大会、招待試合。
・ 市内の清掃活動、パレード等の参加を予定しています。
・ 市民スキー大会、那須地区スキー大会。
・ 市民センター祭りで技の発表。
・ 市民まつり（綱引き大会）への参加。
・ 市民マラソン大会、市民水泳大会、市民スキー大会等。
・ 市民清掃活動。
・ 指導者講習会、市スポーツ少年団大会等。

・小・中学校での奉仕作業。
・小学校運動会への参加。
・小学生九州交歓会、九州少年ラグビー中学生大会 e t c。
・清掃活動。
・清掃活動（市内）小さな親切運動協力加入のため。
・清掃活動、健康づくり大会等。
・清掃活動や体力作り。
・清掃美化活動。
・静岡沼津なでしこカップ 山梨レジスタンス杯 静岡静岡カップ 中山サマーキャンプ。
・千歳川清掃、日航マラソン支援（給水）。
・組討道連盟合同稽古。
・創立記念大会の参加。
・総合型地域スポーツクラブ間で行なわれるイベント交流大会への参加。
・村主催ロードレース大会への運営協力。
・他市の交流会。同市小学生対象のキャプテンスクールの運営（他部会の行事）。
・他団体が主催する大会への参加。
・他団体との交流合宿。
・他団体との交流試合。
・他地域が主催する大会に参加（小学生のみ）。
・他地域ソフトテニス大会に参加。
・他地区で交流大会があれば参加したい。
・他町のスポーツ少年団主催の試合に参加した。
・体育館内外の清掃等に積極的に対応する。
・体育協会や自治連合会、P T A等。
・体協主催の町民運動会、校庭清掃。
・体験入団支援。
・大会への参加。
・地域、清掃活動。
・地域で行う運動会。
・地域のごみひろい。
・地域の環境奉仕活動。
・地域の美化運動、他スポーツ少年団との交流活動。
・地域の文化祭、スポーツ大会。
・地域総合型クラブの行事への参加。
・地域伝統行事（天神祭、荘内大祭）。
・地域内のマラソン大会。
・地区の公民館活動、市体協ボランティア活動、市体協スポーツ少年団交流会。
・地区清掃活動。
・地区体育祭、市主催のマラソン大会への支援及び団員の参加。
・地区体育祭、沼間小学校まつり、ふれあいまつり、逗子市民まつりなど。
・地元小・中学校敷設内の清掃作業。

・秩父宮記念ミュージズの森チャレンジロードレース大会。
・中越地域ソフトテニス小学生交流大会。
・町（地元）実行委員会主催の夏祭り参加。
・町内美化活動（道路上のごみ拾、花植）。
・島田市スポーツ少年団交流大会。
・東京国体関係（国分寺市主催のウォークラリー、炬火パレード、横断幕作成）国分寺市民大会（テニス連盟の試合に参加）。
・道路沿いの空缶拾い、フラワーロード植栽。
・軟式野球大会。
・燃えれ！わが街2013（地域の夏まつりです）。
・敷戸地区運動会、草刈、地区一斉清掃活動。
・武蔵野市コミセン文化祭、区民大会、町会イベント（お祭り）、スポーツカーニバル。
・奉仕活動への参加。
・本部主催の記念事業・利用者（体育館）の清掃奉仕活動。
・野球大会。
・野球大会。

問 24 具体的な意見

・（公財）全日本空手道連盟にスポーツ少年団として登録出来る様になれば活動がしやすくなる。（公財）全日本空手道連盟と日本スポーツ少年団の連携が望ましい。スポーツ少年団として県空連に加盟出来れば幸いです。
・小体連、中体連、高体連や市、町、村スポーツ少年団、競技団体の一貫練習、役員者同士の交流会、話し合いが必要。
・大会等の日程考えてほしい。現在でも（今年を含めて3年間）も大会に参加出来ていない。
・スポーツ少年団が何を行っているか、実際に見えてこない。登録料を納めても、参加出来ない子供がほとんどです。登録料を納めたら、参加させたいです。
・スポーツ少年団活動について学校の理解が必要である。・指導内容について、バラバラでなく一本化を図る必要がある。
・それぞれの役割を理解し、且つそれぞれの団体で補いきれない範囲を把握し、それぞれの団体がカバーすること。・学校活動が一番、地域活動が二番、その後が少年団活動。
・もっと活動を広報などで広く知ってほしいし、大会やイベントも計画してほしい。
・やはり中・高校生が中心となれる行事に企画、運営をさせて、色々なスポーツ大会を実施すること（また研修会や宿泊などを通して交流をする）。
・各団体の行事予定が、確認できる資料の交換。
・活動状況、様子の変化等に関する情報共有・相互の活動、指導について尊重。
・技術講習会（競技団体による）。・大会日程の調整。
・指導者の確保が難しい。・各団体の繋がりを持つ場が少ない又ははない。
・時間と場所等の競合があるがお互いが譲り合ったり、時間差を設けることで同時運用が可となるので、相互の話し合いが絶対必要である。
・他地区開催の大会に積極的に参加。・学校部活顧問と連携を取り合い合同の稽古等を開催する。・スポーツ少年団の指導者が積極的に中学、高校の部活に参加し、普段からコミュニケーションを図る。・こちらから話し掛けキッカケを多くつくる。
・地域スポーツの拡充と指導者の育成。
・地域団体での連絡会議等による日程調整等の実施・小学生はスポ少→中学・高校になればそれぞれのクラブ活動にかわる。その為スポ少卒団生に将来の指導者を望むのが困難。中高クラブ活動と、スポ少が共存出来る方法はないでしょうか？
・地域団体と交流を図って、一貫した指導体制を構築することが必要だと思います。

・中体連、高体連があるのでなかなかむずかしい。
・年間の行事計画の公開、摺り合わせ。
・話しあえる場がほしい。
・話し合う場の必要性・大会で高成績を収めることよりもスポーツを通しての人間形成が図られるような指導者の意識が大切であると思う。
・小学校、中学校での団アピールの場が少ないので、団案内の場が欲しい（学校活動とは別物とされている）。
・①上から目線ではなく、もっと手を差し伸べて自分達の労力を惜しまない②様々なレベルの子どもたちが居るので、本当に誰でもが参加意欲が持てるようにする気持ちを持つこと、そういう態度（動き）を示す。
・①特に中体連との連携が必要である。
・3月では遅いので1～2月には、試合日程のすり合わせが終わるよう、中体連、県卓連での連携を希望。
・アーチェリーという特殊な活動のため連携が難しい。合同練習などの活動を行いたい。
・あまり境界線を強くしてもらいたくない。
・あらゆる団体に言える事ですが、社交辞令で活動に参加しているだけで、終れば何もコミュニケーションも無しで此のくり返しでの協力・参加だと感じます。
・バスケットボールの団体なので、まずバスケの組織的な部分から見直さないとすっきりした形は、のぞめないと感じている。
・お互いが情報提供をしながら、子供達が活動しやすく、健やかに成長できる環境作りを目指し、指導者や各競技団体、県、市区町村スポーツ少年団、高・中体連の先生方の顔合せ会が必要と思う。（意見交換の場）
・お互いの弱点、指導、技術不足をおぎないあい技術面精神面の向上が出来れば良いと考えます。
・コミュニケーションをとる。
・サッカー協会と人的な連携（指導者、審判等）が必要。
・スポーツ少年団、学校との連絡協議の場が必要と考える。
・スポーツ少年団が参加できる大会や強化練習会などの実施！高校などの交流会などがあってもいいと考える。
・スポーツ少年団として子供達の育成（体と心）技術だけでなく人間性としてうまい、へたを重視せず将来の事を考え心技体を育成していくうえで保護者、学校と協同連携していくつもりです。今後も御支援のほどよろしくおねがいします。
・スポーツ少年団とは、小学生だけの団体と思っている人、競技団体、中高体連の方が多いので、活動を広く知っていただく事が必要と思います。
・スポーツ少年団の活動と中体連の指導者が理解していない。
・スポーツ少年団は競技の入口として小学生だけで良いのではないか。
・スポーツ少年団は地域の活動であり、長く活動し子供達の小、中、高、成人へと活動を続ける事が大切ですが中学の先生は他の地域から来ており、中々、地域との連携が難しい所があります。
・スポーツ少年団事業をわかりやすく伝えてほしい。
・スポ少団体のために地区にあるスポーツ施設や学校など又、区営のグラウンド等をスポ少団体に優先的に貸出しを検討して欲しい。スポ少に入っている意味が無いと感じる事がある。
・その種目を行うための場所の提供が必要。
・どんな人でも子供（団員）に係わりたい気持ちはあるが時間と事故を考えてしまいます。
・バドミントンは現在のところサッカーや野球などのように、クラブが優先という感じではなく部活動が最優先。それ事態は問題ないですが、競技力だけでなく、リーダーシップやイニシアチブをとる力をつけるためにもクラブ（スポ少）との連携は必要だと思います。まだまだ理解が薄い。
・ハンドボールの場合、日本協会は、クラブチーム（スポーツ少年団）の参加できる大会（全国）を開催しているが、夏に開催される全国大会は、中体連所属チームのみ参加資格がある。まず、意識改革をしていただきたい。
・ボランティアで活動を行っていくには限界がある。

<ul style="list-style-type: none"> ・まずスポーツ少年団の本質を理解して頂くことが重要かと考えます。いきすぎた勝利至上主義に陥らないためにも必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーに対する理解を深めていただき、各種事業に於て、役割と責任を与え、育成する機会を増やすことが必要であると思ひます。
<ul style="list-style-type: none"> ・以前体育協会に加盟しようとしたが、「一見さんお断り」の様な感じがあり、敷居が高く感じた。又、少年団の中には、地域団体との連携をしようにも、その手段方法等わからない団体もある。連携等を少年団側から行うのではなく逆に門戸を開き、連携しやすい環境の醸成を願う。
<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換等。
<ul style="list-style-type: none"> ・意識の統一が最重要、全ての場所で指導者が、同じ意識で各団体の運営をすることが必要と思ひます。
<ul style="list-style-type: none"> ・一貫指導体制の充実、指導者の連携の統一。
<ul style="list-style-type: none"> ・一体感と役割分担を体協か集中管理する以外にない。
<ul style="list-style-type: none"> ・横のつながりがないので、なかなか情報を得ることはない状況です。点となっている情報を線につなげる役割をどこが担うのか、どこに話しをすれば良いのかわかりません
<ul style="list-style-type: none"> ・横の連携はあるが、小・中・高・地域の縦の連携がないためそれぞれに働きかけていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・下関市内での中体連で柔道を指導できる教師がない。
<ul style="list-style-type: none"> ・我チームは小学生はスポーツ少年団登録しているが中学生社会人はクラブとして活動している。
<ul style="list-style-type: none"> ・我団はソフトテニスを通しての人間形成と競技力の向上をめざしているのでもいままでも通り、技術や審判と行ったところは地域団体をお願いをし、清掃活動等社会的活動にも積極的に参加させたい。このような活動を通して地域社会の一員として役立つ人になってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・各機関が一同に会した強化練習会などの定期的な開催などが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・各競技団体の協力を得て幼・小・中・高と運動能力・成長過程において一貫体制の取り組みで育てるスポーツ少年団の連携が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・各種大会条件等。
<ul style="list-style-type: none"> ・各単位団代表との懇談を定期的に開催し、互の理解、協力を得る機会が必要と思ふ。本部役員との連携では肩書きの人とか、代表代理がしきっているの現場の声が届けにくい。
<ul style="list-style-type: none"> ・各団体、担当者の理解、知識が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・各団体が別々の組織ではなく、各競技毎に一本化される事。
<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との会議、団体の活動内容を知り、連携を図るため。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校・保護者等「活動（有事・ケガ）の理解・協力」の連携。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携を希望。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校と腹を割った話し合いが必要と考えるが、向うは逃げている。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校には平日大会の欠席扱いについて申し出ているが校長の判断で出席、欠席になってしまうのがむずかしい
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教員の業務が多忙で有る事も有るからか、我々の団体の公式、講習会に参加が無い。部活等で、未経験者が指導。乖離を感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の部活動の外部コーチなどがやりやすい様にする事などコーチなどが学校に指導に行ける環境を整えたいと思ひます。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校や教育委員会がスポーツ少年団というツールを活用していない。本来地域活動を理念の方向に導いていくのは、先生が主体となるべきである。（全てをやれ。と言っているのではなく、上手に組織化して欲しい。）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者、地域住民の理解・応援、市体協・中体連などとの連携・協力は不可欠であると思ふが、現時点では特段の問題はなく、円滑・良好な関係が保たれている。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育（体育）と社会教育（体育）の意義についての研修会を実施して関係者がその意義を理解し、双方の特性を生かした場を作り上げる事。

・学校教育と市町村の連絡が不可欠。
・活動（練習）を行う場所の確保が難しい。もっと活動をやりやすくできるよう、地域団体が積極的且つ柔軟に対応すべき。
・活動が重複している事について、学校と、少年団指導員、保護者がつねに、連携がとれていないと、どの大会や行事にも調節がむずかしくなる。
・活動の場所が限られているため活動しやすい曜日や時間が確保されない。
・活動資金や指導者、施設の整備等充実してほしい（町）。
・関係する団体の指導者が話し合える場の設定（現場の声の調整ができる場づくり）。
・基本的には、活動する団員本人の意思が重要となると思う。部活をしたいのか、スポ少活動をしたいのかは、本人が選択すべき事。各団体として必要な連携は、各々の活動や、主旨を共通理解又は情報交換等で知る（知っている）事だと思ふ。その上で、個人に対して各々の団体指導に関わる事が望ましいと考える。
・気持ちは一つ、連盟は関係ない。派閥は関係ないと思う。
・競技意識（勝利志向）が強すぎると地域の諸団体との連携・協力は難しいものになりがち。スポ少活動の理念を重んじつつ、ケースバイケースで対応。
・競技人口増加のためにも必要と思われます。
・競技団体においては、スポーツ少年団は空手の場合不要なものと考えているのが現状です。生涯スポーツの意識の低さからかかもしれませんがスポーツ少年団の良さをアピールしていくべきだと思います。また、成長期にバランス良くスポーツを体験出来る良さをスポーツ少年団にはあると考えているので、積極的に呼びかけて、多種目とも交流の場を増やす努力をして欲しいです。（体験イベントなど・・・）。
・競技団体の意向と、少年団活動の現場での感覚のズレが生じないように、定期的に意見を交わせると良いと思います。中・高体連においては、スケート連盟の方で教員になっている方が担当して下さっているのも、とても助かっています。
・競技団体主催のイベントに参加すること。
・空手道の場合小学4、5、6年（県大会）のみで、小学1年～3年中学生以上の大会がないので連盟に加盟しなくてはならないのでぜひ中学生以上の大会を実施していただきたい。
・空手道を通じ青少年の健全な心身育成を図る事を目的にしたい。
・稽古場所の確保ができれば十分。
・剣道は何歳からでも始められるスポーツですがその底辺を担っているのはスポ少です。その底辺のすそ野を広げなければスポーツ人口は減る一方です。地域団体全てがスポ少に感心を持ち幼い子供を育てる事に尽力しないとスポーツは育たないし人口も減る一方です。
・剣道は各種大会を通じて交流はある。
・県でも課題にしているが・地方の総合型地域スポーツクラブの在方。（スポーツ少年団を併合していってしまう）・競技団体の若年化（サッカーなど組織ぐるみで若年少を入れるのでスポ少の他の団が成立せず）・子供たちが忙しすぎる（学校がいろいろ抱え込む）（文化的クラブに加入したり、塾に行ったり）。
・県と市町村がもっと連携して、大会や練習会を開くと良いと思う。
・現在、スポーツ少年団の事務局を総合型地域スポーツクラブが行うという連携をしている。今後、スポーツ少年団の団員が総合型クラブのイベントに参加したり、会員となったり、指導者が、総合型クラブ主催のスポーツ教室の指導をするなどの連携を考えている。
・現在色々な面において協力して頂いているので全く問題はなく活動させて頂いています。練習会場に於いても他の団体から協力して頂いている。
・現状では当該の卒団生を迎え入れる態勢（体制）は出来ているといえるが、更に幅を広げるのは困難である。スポ少も、中・高の部活も勝利至上主義に陥っている現状では困難である。
・互いに情報を交換し大会日程等、重ならないようにする事、指導者の交流する場を設けスポーツ少年団活動への理解を得る。
・公的施設使用料の無料化などの援助。

<ul style="list-style-type: none"> ・広報での周知はしてほしいです。ボランティアの指導も限界で書類が多すぎる等もあります。小さい町のスポ少は、人が限られているのですが隣町に声かけしてもあまり気にしてもらえず、団の継続が一番の問題です。
<ul style="list-style-type: none"> ・高校は一枚のみ。高体連のスポーツ活動の理解度（剣道）が低い、郡の団体は協力的 各単位で継続指導。以上
<ul style="list-style-type: none"> ・高体連はスポ少活動にほとんど理解がない（学校により圧無間の指導者が不在）上部組織（県市区町村）から高校に対し連携の必要性を説明してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・合同の練習会とかレクリエーション、各行事等の合同参加。
<ul style="list-style-type: none"> ・合同指導者講習会の開催に参加する。各大会には応援に行くこと。顧問や指導者にお互い尊敬の念をもつことだと思います！
<ul style="list-style-type: none"> ・今のところクラブの運営がうまくいっているのですが、このままで良いと思っております。ただ、連携や協力については惜まず行っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・スポ少活動と学校活動との相違がある。中体連、スポ少が一同に会す方法が欲しい。高体連との共同は無理と感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長について、話せる場をもっと作ってほしい！！
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を考えた指導の一体化が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・子供メインで、考えれば、答えはすぐ出るはずが、自分達のチーム・組織を中心に考えるため、スムーズにいかない。
<ul style="list-style-type: none"> ・市スポーツ少年団でリーダー養成のために青年の家で宿泊研修を実施して、その参加者が次年度グループリーダー等で機会を与え、育てることが大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の少年団スポーツ交流会に参加、協力が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者、父兄の理解。
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が中・高校生をリーダーとして育てようとする意欲が大事。連携や協力はその次だと考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の交流、教育委員会を通して、中学校への啓発。
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者間の連携が一番重要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者間交流、しかし、本団のように指導者が1名しかいない団は、27年度以降、2人体制に対応できず、廃団にせざるをえない1名でも認める方向をつくってもらいたい。そうしないと、地方の団を中心に、一気に団数が減少することが予想される（過疎地は、ただでさえ指導者がいない）。
<ul style="list-style-type: none"> ・私どもの弓道という競技は、指導者が少なく、市弓連・県弓連等からの協力がほとんどなく、たいへんこまっています。中学・高校そして大人まで続けてほしいと思うなら、もっと指導等の協力をしてほしいのですが・・・。
<ul style="list-style-type: none"> ・私達の会は競技団体ではないので他のスポ少の問題点はわかりません。他の競技団体のように勝った負けたと指導者も大人（親）もさわいでいることがキラいな子供がいるのは本当です。子供がもとめているのはできるようになった、それが自分に楽しいのだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法の理念の理解。
<ul style="list-style-type: none"> ・時代と共に活動がエスカレートしたり、組織が変わったりします。中高生も大人も参加する組織にするためにまず、ネーミングを変えましょう。
<ul style="list-style-type: none"> ・社会体育と学校体育の壁をなくす。競技別に、一本化された、組織の中で、子供達が活動出来る環境を整える。
<ul style="list-style-type: none"> ・種目における強化。
<ul style="list-style-type: none"> ・種目別に言えば、バドミントン活動を行っている各チームが、少年団に全て、加入し、活動が出来ると、底辺の拡充になると考えます。又、学校において、募集のポスター等を貼らせてもらえると良いと思います。今は学校区外の団員が多いことから、承諾は、得られていません。
<ul style="list-style-type: none"> ・将来は少年団指導者になってもらうため、中・高校生の時代に情報交換をしてリーダー、シニアをやめないようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校までは継続的に団員としての活動が可能だが高校となると地域広くに分散してしまい19才まで参加入団する団員が少なくなっている実情です。今後もおそらく、高校まで団員を続けることが困難になっていくと思われます。広く活動できる場を望みます。
<ul style="list-style-type: none"> ・小さな町村における少年団のあり方と大都市における少年団のあり方が大きく違います。いわば、仲良しクラブと勝ちに行くクラブの違いです。卓球においては、全体的な流れは勝ちに行く方に流れています。少年団であることのメリットが減少して

<p>いるんですね。例えば、施設（公共の）の利用料金が安い、予約が他より早く取れるといったところで、そのためにのみ、少年団でいるといった具合になっています。つまり、少年団であることのメリットづくりに意を注ぐことが、発展の鍵だと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生から中学までのコーチング（中学校が外部コーチのうけ入れ）。
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生時に学んだ空手道を中学でもやりたいと思う人のために、中学部活ができるようシステムを作って下さい。指導する人材が学校に居なくても、一般住民に居ます。学校・スポーツ少年団の枠を越え青少年育成に力を結集する必要があります。
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化ということもあり、子どもたちの人数（パイ）が減っている。また、スポーツ競技も多様化しているため、それぞれが危機感を持ち、なおかつ連携を密にしていかないと、団として成り立たなくなってしまう。その地域の子どもたちを大切に育てることが重要な課題。
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の中でスポーツ種目は多くなっています。1つのスポーツ団でのチーム作りも難しい中で、広域的な地域団体のサポートがあれば良いと思います。また、指導員同志の協力も必要になってくると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・少年団＝小学生という概念は深く、それを払いのけるために中体連や高体連との連携は不可欠です。市町村レベルの問題ではないと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・常に連絡を、お互いすること。
<ul style="list-style-type: none"> ・色々な意味で、子供達に家庭・学校・地域が必要との考えを、建前でなく、実行していくべきだと思います。それぞれの団体が子供達のために努力していく事が大事だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・市体育協会と市スポーツ少年団のつながりが、まったくなく、連携し、大会後援や協賛など、ご協力頂ければと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、練習場所がなくなり（被災の為）、他の部活やスポ少との兼ね合いもあり、練習時間の確保が難しい。仮設の中学校、間借りの小学校の為、スクールバスの移動等で大変、間借りの小学校は古く電灯も消えても修繕してもらえなく、設備も不足している。小学校、中学校と別々に練習しているが、地域の人の中には「いつもバドミントンばかり体育館を使っている」と理解してもらえない事もあり、困っている。被災地のスポ少はどこも仮設があり、練習場所に苦心している。もっと、競技団体や県で、練習場所を確保できるよう働きかけて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・正しくスポーツ少年団を理解してもらい、互いに地域の次世代を育成する組織として共通理解。
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育の場として、活動を行い（将来指導者になりうる様）地域の活動の中心になる様やっていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・専門の競技団体や、教員の方、偉い中体連・高体連の方との接点がなく、名前も顔も知りません。その知らないこと自体が問題なのでしょう。
<ul style="list-style-type: none"> ・選手強化に重点をおくのではなく、子供たちが、生活するのと同じように、「活動する」ことをメインに考える。その上で、子供たちに接する際の意図、認識をお互いに確認することが必要（現在は情報交換の場も全くない）。
<ul style="list-style-type: none"> ・全国にフロアボールを普及させる（中学・高校の部活・オリンピック種目）活動にみな様のご協力をお願い致します。
<ul style="list-style-type: none"> ・全国レベルに少しでもちかづけるために全国レベルの大会に多くでている。
<ul style="list-style-type: none"> ・相互の理解と参加できる環境の整備、連絡協議会等の開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・存在感を出していくこと。どちらかというとマイナーなイメージがあるので。
<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会主催の大会等を行なう必要があると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・大会の数が大変多くなり、年間計画で調整しているが、大会に出場する為だけの団活動ではスポーツ少年団の意味は無と思う。競技大会以外で交流が計れるイベント等の計画も必要なのではないか。学校の先生方の指導者としての参画を希望するが、難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・単位団活動が主で競技を継続するためには各団体との話し合い交流及び上の学年が下の学年を指導する機会（合同練習等）が必要かと…。
<ul style="list-style-type: none"> ・団員が安心して活動できる体育館等場所の確保。
<ul style="list-style-type: none"> ・団員にとって地域活動はとても大切なものと教えています。実に第36期の永きを支えて頂いています。
<ul style="list-style-type: none"> ・団員の確保や指導者間の交流が必要だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域（区、町）特に町会においては理解がない。

・地域に於て、少年団活動の信頼性向上と指導者の資質向上を図り、スポーツ少年団活動の優位性を理解していただく。
・地域の成人団体とのかかわりを多く持つことで、少年期から成年期への精神的成長をうながしたい。
・地域総合型スポーツと対象者をかぶらないとりくみが必要。スポーツ少年団は小学生が対象なのに、上記も小学生限定にしている。地域なのに小学生限定はありえない。
・地域団体、学校など、もっと、話し合いを、持ちたいと考えています。
・地域団体に、スポ少活動の内容を知って頂くこと。理解していただくこと。両立は可能であることを理解して頂くことがまず大切だと思います。また、スポ少側からも、理解をして頂くために、アプローチをしていかななくてはならないと思います。
・地域団体の人との連携を密にすること大事だと思います。
・地域団体の大会や大きな活動に参加できるように、相互間の情報提供が必要になる。
・地域団体の役員として参加することにより、より交流、親睦が深まるように活動する。
・地域団体への理解を深めるためのPRがまずは必要。日体協からの協力要請をお願いします。
・中、高生のすべての人たちが、やりたいことを思いきりやれる環境をつくってあげること。競技力の高いアスリートは、もっと高いレベルの練習ができる団体で更なるレベルアップができるよう地域が連携していけたらと思います。
・中・高の現在の部活動などのシステムでは、スポ少活動との両立は極めて難しい。国全体で子供たちへのスポーツへの取りくませ方の新システムが必要と考える現在の体制では、力のあるスポーツ選手の育成にとって大きなマイナス面がある。
・中・高校の関心がないと思います。部活中心で、先生によって考え方が違うので、協力を得られない事が多いと思います。
・中・高校生がスポ少へいきやすいような、チームの雰囲気づくり。部活動の定期的なお休みがあることで、スポ少へ参加しやすくなるのでは。
・中・高校生とスポ少の合同の大会をしてみたら、面白いと思う。
・中・高生のスポーツ振興をお互に考えるテーブルにつくことがないのが現状、団員が中体連や高体連の大会に出場するとしても、学校から参加することになる。クラブや学校というカテゴリーを超えた大会や研修会などお互いに協力しあうことはあると思うが、現状ではなかなか難しい。
・中学、高校でのスポーツ指導ができる先生の数が限られている。学校でのクラブ活動を活性化するために、関係部門が、今までのシステムをかえる話し合いをする必要がある。
・中学校の指導者不足への協力。
・中学校の先生が私たちを信じてくれない。私たちがいくら歩みよろうとしても、先生が、子供に私たちのクラブに入ってはいけない様なことを言う。そんな状況では連携はむり。
・中学校の部活に指導者が（先生等）が係わる機会が少ない。そのため小学校で作った基礎がもったいないので高校へのつなぎとして指導している。
・中学校の部活動との連携が必要かと思います。
・中学生の部活動が継続の大きなさまたげになっている。月に1～2回の（土）（日）スポーツ少年団活動による休みが認められるよう配慮願いたい。又、スポーツ少年団活動を課外活動として認めていただきたい。
・中学生は町単位等で生活圏が狭いので集めて活動することができるが、高校生は通学圏または進学先の学校が遠方等集まって活動するのは無理だと思います。高校生は進学先の学校でのスポーツ少年団に対する活動理念が必要ではないでしょうか。
・中学生等が参加できる大会や行事を作る事。
・中高生が大人になって指導者を目指すための育成プログラム。
・中体連、高体連行事に積極的に参加する。市町村行事に積極的に参加する。
・中体連・高体連がもっと低辺である。スポーツ少年団活動に理解があると良い。そうすれば少年団活動も活発化すると思う・・・少年団活動に積極的に参加してもらおう事・国、県、市から中体連、高体連に働きかける事。
・中体連・高体連に係る大会、行事等は、学校も積極的であるが、それ以外に関しては協力的でない、と云うか無関心である。中体連・高体連組織が必要なかどうか？高校生は、スポーツ保険の関係からクラブへの登録はするが、少年団への登録は行

<p>ってません。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・中体連・高体連で活動している生徒に時間に余裕がなく（スポーツ少年団について理解）が少なくない様に感じています。小・中学生団員と高校生クラブと合同練習の機会を立て、情報交換の機会が必要と考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・中体連・高体連共催による各種大会が出来るようになれば良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・中体連では、専門的技術をもつ教員が少ないにもかかわらず、県大会等は外部指導者は事実上シャットアウトしている。剣道の場合ルールも知らない顧問が監督席に居る必要があり、とても公正公平な試合運営が出来ているとは言いがたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・中体連などとの交流が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・中体連において、少年団が参加できる体制づくり。
<ul style="list-style-type: none"> ・中体連の競技が「勝つためには毎日長時間の練習を続けたいいけない」という指導が多いので、両立させることへの保護者の理解と地域団体の理解がもっと必要だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な交流会、意見交換会の場を設け、常に接点があるようにしていかなければならないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な全体会議等連携を作れる場所。
<ul style="list-style-type: none"> ・当該団員を単位スポーツ少年団として、地域団体としてどう育成していくべきかを関係者間で連携協議し、結論を出して行く必要あり。
<ul style="list-style-type: none"> ・同一種目で継続していく場合少年団＝小学生→中体連＝中学生となっていくケースがほとんどであり、中学校に部活がない場合や少年団大会がある競技のみが継続している。練習や大会などにおいて、掛け持ちでの活動は無理であると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 剣道という競技に関心を持つ青少年を育成することで生涯続けたいという気持ちを育てるのみ。
<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県剣道連盟としてH24年3月に「剣道一貫指導システム・マニュアル」を作成し、各団体・指導者に配布をしました。
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の勉強や塾で団員は忙しく、練習する時間の確保が大変。競技団体は協力的だが他の団体とは話し合ったり情報交換をする場が少ないので、まずはそこから始めたらどうでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活≒スポ少とするとか？部活でスポ少に声かけするとか？
<ul style="list-style-type: none"> ・部活がない中学生は、中体連の大会に参加できる者を参加させる（許可）のことを学校側に理解をしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活とスポ少との関係をどうするかだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活をしている中学生がすべていずれかの単位団に登録されているため、特に問題はないが逆に部活イコールスポ少活動になっている単位団もある。本来のスポ少活動とは違うような気がしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動で活躍できるのであれば、部活動を中心にしていけば良いのではないのでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の日程が多くスポーツ少年団活動をする時間はほとんどありません。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の補助的役割。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の教育。
<ul style="list-style-type: none"> ・問16の続きになりますが当団の中学生は65名で6校から参加していて5校の中学校からは何の問題も無いのですが1校だけは特に学校長が勉強、勉強で、試合には勝てなくても良いから・・・少年団活動をしていると勉強がおろそかになるという考えを持っていて困っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児－小学校－中学校－高校と一貫性の必要性を考えていかないと、アスリートはできないし、スポーツ少年団の幅広い底辺から競技活動までをカテゴリで分けるのではなく、能力で分ける指導が必要と考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・理解される事。
<ul style="list-style-type: none"> ・練習に必要な消耗品の補助などがあるとありがたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・練習の為に心よく利用させていたゞく、体育館や施設の正しい利用方法を、子供達によく理解させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・連携の前に、まずスポーツ少年団が「卒団」などという造語をなくすこと。最近では新聞でもこの造語が使われるようになり心配している。まずは、スポーツ少年団身らが、リーダー育成にきちんと取り組むべきであり、それなくして、地域団体からの理解を得られなければ連携もありえない。

5.まとめ

日本スポーツ少年団は、平成 26 年度登録において団員数約 74 万人を擁する日本で最大の青少年スポーツ団体であるが、そのうち中学生団員は約 8 万 7 千人、高校生以上の団員は約 7 千 8 百人で、全団員に占める割合はそれぞれ 11.8%、1.1%と中・高校生の加入率は低い状況である。本調査結果に基づき、中・高校生の活動継続のために必要な事柄について、以下の通り整理し、今後の方策の検討につなげたい。

本調査では、中・高校生が活動に参加している理由は、「小学校卒業以降もスポーツ活動を継続するため」が 77.1%、次いで、「学校運動部としてスポーツ少年団に登録しているため」が 18.7%、「ジュニア・リーダーやシニア・リーダーとして活動していくため」が 17.2%であった。また、単位団の指導者が中・高校生の参加に期待していることは、「将来指導者として活躍して欲しい」が 69.8%、次いで、「中・高校生の参加により、単位団の活動範囲が今よりも広がって欲しい」が 57.5%、「中・高校生にもスポーツ少年団活動の理念が広がって欲しい」が 54.3%であった。

平成 18 年度に実施された「中・高校生の少年団継続に関する実態調査」では、中・高校生が少年団登録している理由は、「小学生からの継続的な活動にしたい」が 68.7%であり、「少年団理念を中・高校生にも広めたい」が 42.3%、「中・高校生が少年団に入ることで活動の幅を広げたい」が 39.3%であった。

いずれの調査においても、①単位団は中・高校生のスポーツをする場として機能し得ること、②指導者は理念に基づく単位団活動に中・高校生の活躍を期待していること、の 2 点が顕著な傾向として示された。

また、中・高校生が活動している単位団(回答 407 団)の 68.5%が「保護者への説明や理解を求める機会がある」と回答しており、中・高校生の継続活動には、保護者の理解が大きな要因であると推測できる。加えて、同じく 67.0%の単位団が「スポーツ少年団活動に学校の理解がある」と回答していることから、中・高校生が活動する単位団の多くは学校に何らかのアプローチを行っており、学校との連携も重要な要因と言える。

しかしながら、自由記述欄では、多くの単位団が「部活動とのバランスを取ることが困難」と回答していることから、日常的な活動への参加は制限されているものと思われる。

スポーツ少年団は創設以来「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを」の理念の下、地域スポーツの担い手として地域に開かれた活動を行い、発展を続けてきた。わが国のスポーツは、学校、企業、民間、地域の 4 つのタイプを活動基盤とし、行政や競技団体とも連携して行われている。更には、こうした組織に所属しないスポーツ愛好者も多数存在する。スポーツ少年団は、こうした様々な団体と「生涯スポーツ社会の実現」という目指すべき方向を共有し、中・高校生を含めた幅広い年齢の人たちがスポーツ活動を行う基盤の一翼を担い、その期待に応えていかななくてはならない。

スポーツ少年団では、リーダー制度に基づく「ジュニア・リーダー」「シニア・リーダー」の資格取得カリキュラムを通して、「指導者として求められる姿」や「フェアプレイ」などを学ぶ機会を提供し、組織内から後継指導者を育成している。こうしたリーダー資格の取得とリーダー活動は、中・高校生の継続活動のモデルとして推奨されてきた。一方で本調査では、継続活動の理由として、「リーダー活動を継続するため」よりも「純粋にスポーツ活動を行うため」の割合が高いことや、「スポーツ少年団での活動は練習活動のみであるため」、「リーダー活動よりも日常の練習活動が重要なため」といったリーダー育成が行われていない単位団の意見にも注視したい。中・高校生のスポーツ少年団活動のあり方を検討していく上では継続活動のモデルとしてきたリーダー制度の一層の普及に加え、リーダーという役割にこだわらず活動を支援していくという視点も重要になると思われる。

中・高校生の活動継続等調査

本調査は、単位スポーツ少年団における中・高校生の活動継続状況についてお伺いするものです。アンケート結果は、日本スポーツ少年団の中・高校生の活動継続およびリーダー育成に向けた検討・対策のための基礎資料として活用いたします。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、アンケートの趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

＜返送方法＞ 郵送、電子メール、またはFAXのいずれかでご返送ください。

【郵送】 〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館

日本体育協会 地域スポーツ推進部 少年団課宛

【E-mail】 jisa@japan-sports.or.jp

【FAX】 03-3481-2284

ご回答期限：平成26年3月31日（月）

問1 ご回答者についてご記入ください。

都道府県名	
単位スポーツ少年団名	
貴役職	
貴氏名	
住所	
E-mail	
電話番号	

問2 単位団の活動形態についてご記入ください（平成25年度現在）。

(1) 主な活動種目 ※ 3つ以上の活動種目がある場合は、よく活動する2種目を記入してください。	
(2) 活動日数	月 / 週 () 回
(3) 年間大会参加数	年間 () 回
(4) 指導者数	() 人

問3 貴団の指導者が保有している資格と取得者数をご記入ください（平成25年度現在）。
（〇はいくつでも）

1 認定員	()	人
2 認定育成員	()	人
3 日本体育協会公認スポーツ指導者	()	人
4 その他 ()	()	人
5 資格を保有していない	()	人

問4 貴団の団員構成についてご記入ください（平成25年度現在）。（〇はいくつでも）

1 小学生未満	()	人	2 小学生	()	人
3 中学生	()	人	4 高校生	()	人
5 大学生・社会人	()	人	6 その他	()	人

【問4で「3 中学生」または「4 高校生」を選択した単位団にお尋ねします。】

問4-1 学校運動部活動に所属している人数をご記入ください。

中学生 ()	人	高校生 ()	人
---------	---	---------	---

問4-2 貴団に中学生または高校生が参加している理由は何ですか。（〇はいくつでも）

1 小学校卒業以降もスポーツ活動を継続するため
2 学校運動部としてスポーツ少年団に登録しているため
3 ジュニア・リーダーやシニア・リーダーとして活動していくため
4 特になし（団員登録規定上、登録可能なため）
5 その他 ()

問4-3 貴団が中・高校生の参加に期待していることは何ですか。（〇はいくつでも）

1 中・高校生にもスポーツ少年団活動の理念が広まってほしい
2 中・高校生の参加により、単位団の活動範囲が今よりも広がってほしい
3 ジュニア・リーダーやシニア・リーダーとして活動してほしい
4 将来、指導者として活動してほしい
5 その他 ()

【すべての単位団にお尋ねします】

問5 中学生以上の団員が参加できる次のスポーツ少年団事業を知っていますか。また、今までに団員を参加させたことはありますか。項目ごとに該当する番号に○印をつけて下さい。

事業名		知っている 参加させた ことがある	知っているが 参加させた ことがない	知らない
a 全国スポーツ少年大会	⇒	1	2	3
b 日独スポーツ少年団同時交流	⇒	1	2	3
c 日中青少年スポーツ団員交流	⇒	1	2	3
d ブロックリーダー研究大会	⇒	1	2	3
e リーダーブロック交流会	⇒	1	2	3
f 全国リーダー連絡会	⇒	1	2	3
g シニア・リーダースクール	⇒	1	2	3
h ジュニア・リーダースクール	⇒	1	2	3
i 都道府県・市区町村スポーツ少年団主催 交流事業	⇒	1	2	3
j その他（ ）	⇒	1	2	3

【貴団でのリーダー育成についてお尋ねします】

問6 貴団にはジュニア・リーダーまたはシニア・リーダーがいますか*。（○はひとつ）

*「ジュニア・リーダー」「シニア・リーダー」の詳細は、p.5「」をご参照ください。

1 はい	2 いいえ ⇒問7へ
------	------------

【問6で「1 はい」と回答した単位団にお尋ねします。】

問6-1 貴団にはジュニア・リーダーまたはシニア・リーダーは何人いますか。

ジュニア・リーダー（ ）人	シニア・リーダー（ ）人
--------------------------	-------------------------

問6-2 貴団には市区町村リーダー会に所属しているリーダーは何人いますか。

ジュニア・リーダー（ ）人	シニア・リーダー（ ）人
--------------------------	-------------------------

問6-3 貴団には都道府県リーダー会に所属しているリーダーは何人いますか

ジュニア・リーダー（ ）人	シニア・リーダー（ ）人
--------------------------	-------------------------

問 6-4 貴団の日常の活動においてリーダーがリーダー活動をする場合、指導者はどのような対応をしていますか。(〇はいくつでも)

1	リーダー活動を優先的に選ぶことができるように配慮している
2	日常の活動を選ぶかリーダー活動を選ぶかは本人に任せている
3	日常の活動を主活動とし、リーダー活動は余裕があるときだけにさせている
4	日常の活動そのものがリーダー活動なので特別な配慮はしていない
5	その他 ()

問 6-5 貴団のリーダーは、次のリーダー活動を行っていますか。項目ごとに該当する番号に〇印をつけてください。

活動内容		いつも 行っている	時々 行っている	行って いない
a 小学生団員の指導および指導補助	⇒	1	2	3
b スポーツ少年団のイベントや大会の運営補助	⇒	1	2	3
c リーダーによる活動プログラムの企画や運営	⇒	1	2	3
d リーダー交流会・研修会への参加	⇒	1	2	3
e その他 ()	⇒	1	2	3

【問 6 で「2 いいえ」と回答した（リーダーのいない）単位団にお尋ねします。】

問 7 貴団においてリーダーを育成していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1	スポーツ少年団での活動は練習活動のみのため
2	リーダーの育成をどのように行えばよいかわからないため
3	リーダー活動よりも日常の練習活動のほうが重要なため
4	指導者が忙しく、リーダー育成にまで手が回らないため
5	リーダーとはどのような存在かわからないため（リーダーの役割を知らない）
6	その他 ()

※リーダーとは

日本スポーツ少年団では、将来の指導者の育成をねらいとしたリーダー制度を設けています。リーダーは実際の単位団活動で必要とされる指導や運営の仕方を学び、単位団で団員の模範となって活動します。

◆ジュニア・リーダー:

小学5年生～中学生までの団員で、ジュニア・リーダースクールを受講し資格の認定を受けた者。

◆シニア・リーダー:

高校生～20歳未満の団員がシニア・リーダースクールを受講し資格の認定を受けた者。

◇リーダー活動とは

単位団に所属し、団員たちと一緒に日常の団活動をしながらか技術面と生活面の両方でお手本となるような役割を担う活動。自主的にリーダー会を運営し、地域・市区町村・都道府県でのイベントの企画・運営・支援も行う。

【貴団での小学生へのアプローチ（広報活動）についてお尋ねします】

問8 貴団ではスポーツ少年団に加入してもらうため、小学生や保護者に対し、どのようなアプローチ（広報活動）を行っていますか。項目ごとに該当する番号に○印をつけて下さい。

活動内容	いつも 行っている	時々 行っている	あまり行っ ていない	全く行って いない
a 幼稚園・小学校へのチラシや広報紙の配布	⇒ 1	2	3	4
b 地域の商店や市民センターへの チラシ設置やポスターの掲示	⇒ 1	2	3	4
c スポーツ少年団のイベントへの 体験参加	⇒ 1	2	3	4
d 日常の練習への体験参加	⇒ 1	2	3	4
e 地域行事への参加によるスポーツ 少年団活動のPR	⇒ 1	2	3	4
f 団員を通して、チラシや広報紙の 配布	⇒ 1	2	3	4
g 単位団関係者の知人・友人への 口コミによる勧誘	⇒ 1	2	3	4
h ホームページ等によるWeb活用	⇒ 1	2	3	4
i その他（ ）	⇒ 1	2	3	4

問9 貴団では、団員や他の単位団の小学生に対し、小学校卒業後もスポーツ少年団活動を継続してもらうためにどのようなことを行っていますか。項目ごとに該当する番号に○印をつけてください。

活動内容		いつも 行っている	時々 行っている	あまり行っ ていない	全く行って いない
a 小学生の単位団の指導者との情報 交換の機会	⇒	1	2	3	4
b 小学生団員と中学生団員との合同 練習の機会	⇒	1	2	3	4
c スポーツ少年団のイベントや大会 での運営補助	⇒	1	2	3	4
d 小学生と中学生がともに試合が できる大会の実施	⇒	1	2	3	4
e 小学生との交流イベントの実施	⇒	1	2	3	4
f 団員へのチラシや広報の配布に よる勧誘	⇒	1	2	3	4
g 単位団関係者の知人・友人への 口コミによる勧誘	⇒	1	2	3	4
h その他（ ）	⇒	1	2	3	4

問10 中・高校生スポーツ少年団活動継続の課題などがあればお聞かせください。

--

【中・高校生団員の活動についてお尋ねします】

問 11 中・高校生団員が参加可能な都道府県や市区町村スポーツ少年団主催の大会がありますか。
(○はひとつ)

1 <u>ある</u> (大会名: _____) 2 ない ⇒問 12 へ 3 知らない ⇒問 12 へ

問 11-1 貴団の中・高校生団員は参加したことはありますか。(○はひとつ)

1 ある 2 ない

問 11-2 そのような大会は必要だと思いますか。(○はひとつ)

1 はい 2 いいえ 3 わからない
--

問 12 中・高校生団員が参加可能な貴団が所属する都道府県や市区町村以外のスポーツ少年団主催の大会がありますか。(○はひとつ)

1 <u>ある</u> (大会名: _____) 2 ない ⇒問 13 へ 3 知らない ⇒問 13 へ

問 12-1 貴団の中・高校生団員は参加したことはありますか。(○はひとつ)

1 ある 2 ない

問 12-2 そのような大会は必要だと思いますか。(○はひとつ)

1 はい 2 いいえ 3 わからない
--

問 13 中・高校生団員が参加可能な地域交流行事はありますか。(○はひとつ)

1 <u>ある</u> (行事名: _____) 2 ない ⇒問 14 へ 3 知らない ⇒問 14 へ

問 13-1 貴団の中・高校生は参加したことはありますか。(○はひとつ)

1 ある 2 ない

問 13-2 そのよう行事は必要だと思いますか。(○はひとつ)

1 はい 2 いいえ 3 わからない
--

【学校との連携についてお尋ねします】

問 14 中・高校生団員がスポーツ少年団活動に関わりやすくするため、団員が通う貴市区町村の学校と次のような連携を行っていますか。(〇はいくつでも)

<ol style="list-style-type: none">1 定期的な学校とスポーツ少年団の活動調整会議等の実施2 学校またはスポーツ少年団からの行事計画の提供3 スポーツ少年団リーダー活動への派遣協力を学校へ依頼4 スポーツ少年団指導者と学校運動部活動顧問との連絡調整5 スポーツ少年団指導者が学校運動部活動の外部指導者として活動6 スポーツ少年団加入の案内やイベント案内などを学校を通じて配布7 学校との連携はない8 その他 ()
--

問 15 学校は、中・高校生がスポーツ少年団活動を継続することに対して理解がありますか。(〇はひとつ)

<p>1 ある 2 ない</p>

問 15-1 学校の理解を得るために工夫をしていることがあればお書きください。

問 16 学校との連携における課題があればお聞かせください。

【保護者との連携についてお尋ねします】

問 17 中・高校生団員がスポーツ少年団活動に関わりやすくするため、保護者と次のような連携を行っていますか。(〇はいくつでも)

<ol style="list-style-type: none">1 育成母集団（保護者会・育成会等）という組織をつくっている2 保護者を対象とした説明会を開き、活動への理解や協力を得ている3 活動に関する印刷物（広報誌や連絡・案内）を配布している4 対外クラブとの交流における送迎やイベントの運営補助を保護者に依頼している5 保護者に運営スタッフ（コーチやマネジャー）を依頼している6 保護者との連携はない7 その他 ()
--

問 18 保護者に対し、中・高校生の少年団活動継続について説明や理解を求める機会がありますか。
(○はひとつ)

1 ある 2 ない

→ 問 18-1 保護者の理解を得るために工夫をしていることがあればお書きください。

問 19 保護者との連携における課題があればお聞かせください。

【地域団体との関係についてお尋ねします】

問 20 中・高校生のスポーツ少年団活動の継続について、市区町村や都道府県の競技団体からの支援
はありますか。(○はひとつ)

1 支援がある 2 関わりはあるが支援はない 3 関わりも支援もない

→ 問 20-1 具体的にどのような支援がありますか。

問 21 中・高校生のスポーツ少年団活動の継続について、市区町村や都道府県の中体連や高体連から
の支援はありますか。(○はひとつ)

1 支援がある 2 関わりはあるが支援はない 3 関わりも支援もない

→ 問 21-1 具体的にどのような支援がありますか。

問 22 中・高校生団員が単位団活動と学校の運動部活動を兼ねる場合の課題があれば、お聞かせく
ださい。

問 23 平成 25 年度に貴団は他団体が開催する地域活動に参加しましたか。(○はひとつ)

1 はい 2 いいえ

問 23-1 具体的な地域活動内容をお書きください。

問 24 貴団は、中・高校生がスポーツ少年団活動を継続していくために、地域団体（都道府県・市区町村スポーツ少年団、競技団体、中体連・高体連など）と、どのような連携や協力が必要だと考えますか。ご意見をお聞かせください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。



公益財団法人

日本体育協会